

第二十一條 制止チ肯セス通行妨害ノ場所ヘ露店又ハ屋臺店チ出スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十二條 街路ハ常ニ掃除チナシ塵芥雜草等チ存スヘカラス

第二十三條 街路ノ積雪ハ掃除シテ堆積セシムヘカラス其掃除シタル雪ハ往來妨害トナラサル場所ニ投棄スヘシ

第二十四條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水チ洒クヘシ

但十二月一日ヨリ二月二十八日迄ハ午前第九時午後第三時後ハ水チ洒クヘアラス

第二十五條 街路ニ汚水チ洒注シ又ハ塵芥汚物等チ投棄若クハ積置スヘカラス

第二十六條 下水ハ毎年二回^土前浚漂スヘシ其浚ヒ揚ケタル淤泥塵芥等ハ街路ニ布キ又ハ路傍ニ留置クヘカラス

第二十七條 土砂塵芥等ノ爲メ流通チ妨ケ又ハ不潔ナルトキハ前條定期ニ拘ハラヌ其時々浚漂スヘシ

第二十八條 前條々ノ掃除洒水及浚漂等ハ左ノ區別ニ從ヒ其責ニ任ス但從來ノ慣行アル者ハ其慣行ニ從フ

一 家屋兩側ニ在ル者ハ道ノ中央チ折半シ又片側ナルモノハ全路チ各居住人ニテ負擔スヘシ

二 人道車馬道ノ設ケアル場所ニ於テハ其人道ノ全路チ各居住人ニテ負擔スヘシ

但車馬道ニ係ル掃除洒水等ノコトハ別ニ定ムル所ニ依ル明治二十二年六月縣令第一

三 空屋空地ニ添フタルモノハ其所有主ニテ負擔スヘシ三十號チ以テ但該前條

第二十九條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便チナシ又ハナサシムヘカラス

第三十條 街路ニ於テ敷物疊敷類其他ノ塵芥チ拂フヘカラス

第三十一條 街路チ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十二條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ襪履其他見苦敷物品チ置クヘカラス

第四章 街路ノ通行

第三十三條 牛馬及諸車ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十四條 馬車及牛車ハ幅員二間以內ノ街路チ通行スヘカラス

但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スルモノハ此限ニアラス

第三十五條 車ハ小兒車チ除クノ外其種類ノ如何チ問ハス跡押ノミニテ運轉スヘカラス

第三十六條 末口ノ尖リタル竹木等チ運搬スルトキハ其末口チ纏束スヘシ

第三十七條 牛馬諸車ハ街路ノ中央チ通行スヘシ

第三十八條 牛馬諸車チ並ヘ軌キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害チナスヘカラス

第三十九條 車二輛以上チ連繫シテ軌クヘカラス

但長大ノ物件チ運搬スル爲メ數車チ連結スルハ此限ニアラス

第四十條 牛馬及諸車行逢フトキハ互ニ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ

第四十一條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

第四十二條 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車ハ右ヲ通過スヘシ

第四十三條 郵便用消防用ニ供スル車馬及濯水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第四十四條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第四十五條 車馬街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲナシ左ハ小廻リヲナスヘシ

第四十六條 牛馬諸車其他ノ物件ヲ道路ニ横タヘ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第四十七條 制止ヲ肯ンセスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第四十八條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第四十九條 空車ヲ輓テ彷徨シ又ハ佇立シテ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第五十條 頰冠リ鉢巻キ其他不体裁形ノ裝ヲナシテ通行スヘカラス

第五十一條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス

第五十二條 街路ニ於テ看護人ナク五年未滿ノ小兒ヲ遊歩セシムヘカラス

第五十三條 街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂羽子手球等ヲ弄シ若クハ其他ノ遊戯ヲナスヘカラス

第五十四條 街路ニ於テ軍談輕業其他人寄ヲナスヘカラス

第五十五條 人道車馬道ノ區別アル場所ニアリテ牛馬諸車ヲ人道ニ牽入レ又ハ濫リニ車馬道ヲ步行シ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

但人道ニ於テ小兒車ヲ推シ又ハ居住者ニシテ牛馬及諸車ヲ其地内ニ出入スルハ此限ニアラス

第五章 罰 則

第五十六條 第四條第五條第六條第十三條第十四條第十五條第二十一條第五十一條ヲ犯シ又ハ第七條第九條第十條ニ違ヒ官署ノ督促ニ從ハサルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第五十七條 第十一條第十六條第十八條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條第四十八條

第四十九條第五十條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條ヲ犯シ又ハ第十七條第二十條第四十四條ニ違ヒ制止ヲ肯セサルモノ及第八條ニ違ヒ官署ノ督促ニ從ハサル

モノ若クハ第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十五條ニ違ヒ衝突シタルモノハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第五十八條 本則ヲ犯シタルモノト雖モ刑法ニ明文アルモノハ各其正條ニ從フ

●縣令第七十五號 明治二十年七月二十一日

道路取締規則別紙ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス本則中許可ヲ經ヘキモノニシテ從前許可セシモノハ同日迄ニ更ニ願出ツヘシ

但明治十四年甲第七十號布達道路取締規則并十五年甲第九十七號布達道路掃除規則ハ同日ヨリ廢止ス

(別紙)

道路取締規則

第一條 道路ト稱スルハ國縣里道及之ニ添フタル下水又ハ並木敷玉縁並橋梁ヲ云フ

但名古屋熱田岡崎豊橋及其接續市街ハ別ニ設クル規則ニ從フ

第二條 道路ニ建物軒檐物干等ヲ設ケ或ハ出スヘカラス

但里道ノ並木敷又ハ玉縁等ヘ一季ノ干物ヲナシ若クハ竹木ヲ一時積置スルハ此限ニアラス

第三條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲スヘキ義務ヲ怠ルトキハ官ニ於テ執行シ其費用ヲ徵收スヘシ

第四條 左ノ事項ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

- 一 道路ニ釣看板日除掲燈等ヲ張出シ又ハ建設スル事
- 二 道路ニ神佛開扉其他一時ノ廣告標ヲ建設スル事
- 三 道路ニ床店鼓賣張柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石華表碑表指道標ヲ建設スル事

四 道路ニ旗柱招牌ヲ設クル事

五 道路ニ工事ノ爲メ一時竹木土石類ヲ置キ或ハ板圍繩張足代ヲ設クル事

六 道路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ道路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事

七 道路ニ舞臺小屋掛山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事

八 道路ニ消防器具其他公衆ノ用ニ供スル物件ヲ置ク事

九 工事ノ爲メ一時道路ノ通行ヲ停止スル事

十 道路ニ差渡日覆ヲ設クル事

第五條 制止ヲ背セス通行妨害ノ場所ヘ露店又ハ屋臺店ヲ出スヘカラス

第六條 道路ヲ使用シ之ヲ毀損シタルモノハ直チニ原形ニ復スヘシ

第七條 道路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置クトキハ強韌ナル索繩ヲ以テ纏束シ又薪炭其他ノ物件ヲ堆積スルモノハ頓仆セサル様堅牢ノ裝置ヲ爲スヘシ

第八條 道路ニ沿フタル建設物及樹木等崩壞頓仆ノ虞アルモノハ速ニ修補撤却又ハ扶植伐採スヘシ

第九條 道路ハ毎年二回筋一齊ニ掃除ヲ爲スヘシ

但家屋前ニ屬スル道路ハ定期ニ拘ハラス時々掃除スヘシ

第十條 前條掃除シタル塵芥等ハ妨ケナキ地ヘ取棄ツヘシ

第十一條 風雨等ノ爲メ道路ニ樹木ノ頓仆シタルトキハ通行ノ妨害ナラサル様直チニ路

傍ニ取片付ケ置クヘシ

第十二條 前條々ノ掃除ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

一 家屋兩側ニアル道路ハ中央ヨリ折半シ片側ナルモノハ全路ヲ各居住人ニ於テ負担スヘシ

二 家屋前ニ屬セサル道路ハ其地元村ニ於テ受持人ヲ定メ負擔セシムヘシ

第十三條 掃除受持場ハ受持人ノ住所氏名及其區域ヲ記シタル標柱ヲ路傍ニ建設スヘシ

第十四條 路傍ノ便所ハ不潔ナラサル様其所有主ニ於テ時々掃除スヘシ

第十五條 第二條第四條ニ違背シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢

以上壹圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第十六條 第五條第十條ニ違ヒ又ハ第六條第七條第八條第九條第十條第十一條第十四條ニ違ヒ

官署ノ督促ニ從ハサルモノハ五十錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

第十七條 本則ヲ犯シタルモノト雖モ刑法ニ明文アルモノハ各其正條ニ從フ

●縣令第七十六號 明治二十年七月二十一日

乗合馬車取締規則別紙ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス現營業者引繼キ營業セントスルトキハ九月三十日迄ニ願出ツヘシ

(別紙)

乗合馬車取締規則

第一章

通 則

第一條 乗合馬車營業ヲサントスルモノハ所轄警察署ニ願出免許證ヲ受クヘシ

但分署所轄内ノモノハ該署ヲ經由スヘシ

第二條 營業ニ關スル願届書ニハ取締ノ加印ヲ受クヘシ

第三條 營業者ハ馭者馬丁ノ族籍氏名年齢ヲ記載シ第一條ニ準シ願出其鑑札ヲ受クヘシ

第四條 營業者自カラ馭者馬丁ノ業ヲサントスルトキハ總テ馭者馬丁ノ例ニ從フヘシ

第五條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年二月警察署又ハ分署ニ於テ指定シタル日時場所ヘ持参シ

テ検査ヲ受クヘシ

第六條 車休及馬匹ハ營業免許ヲ受ルノ際其他ハ毎年二回前條ノ例ニ倣ヒ警察署又ハ

分署ノ検査ヲ受ケ其証ヲ受クヘシ

但買受ケ讓受ケ又ハ車休ヲ新造改造シ若クハ馬匹ヲ取換タルトキハ定期ニ拘ハラス

其都度検査ヲ受クヘシ

第七條 左ノ場合ニ在テハ三日以内ニ下附セラレタル警察署又ハ分署ニ届出免許証鑑札

又ハ検査証ノ書換ヲ請ヒ若クハ返納スヘシ

但警察署所轄外ヘ轉居スルモノハ一旦廢業ノ上移住地ニ於テ更ニ願出ヘシ

一 轉居又ハ改氏名等ノ時

二 免許証鑑札及検査証ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

三 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時

四 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

五 馭者馬丁ヲ解僱シ又ハ失踪逃亡若クハ死去シタル時

第八條 免許証鑑札及検査証ハ之ヲ貸與スヘカラス

第九條 馬車ヲ運轉スルニハ馭者馬丁ヲ缺クヘカラス

第十條 乘客ノ員數ハ車体馬力ニ應シ之ヲ定メ警察署ノ認可ヲ受ケ車体内部ノ見易キ所ニ掲出スヘシ

第十一條 検査証ハ検査毎ニ捺印ヲ受ケ馬匹検査証ハ頸輪ニ結着シ車体検査証ハ車体内部ノ見易キ場所ニ標示スヘシ

第十二條 検査証アル馬車ト雖モ第十九條ノ制限ニ適セス又ハ其車体器具ノ破損若クハ不潔ニ至リ或ハ馬匹疾病衰弱ノ狀アルヲ見認ムルトキハ其使用ヲ差止ム

第十三條 鑑札及検査証ハ一個ニ付金貳錢ノ手数料ヲ納ムヘシ其書換等ノ時亦同シ

第十四條 營業者ハ出願ノ際身元保証金トシテ左ノ金額ヲ警察署ニ納付スヘシ

但適宜公債証書國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルモ妨ケナシ

一 營業者 一人ニ付 金貳拾圓

二 馬車 一輛ニ付 金三圓

第十五條 營業中車數ヲ増減シタルトキハ前條ノ例ニ照シ保証金ヲ増減スヘシ

第十六條 保証金ハ廢業シタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第十七條 保証金ハ營業者若クハ馭者馬丁其營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第十八條 保証金ニ不足ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス

第二章 車体馬匹及器具

第十九條 車体ハ堅牢ニシテ其構造及附屬ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス

二 車体ハ無地漆塗ニシテ其屋根ハ木製ノモノトス

三 客座ハ清潔適當ノ裝置ヲナスヘキモノトス

但一人ノ席座ハ巾一尺二寸ヲ下ルヘカラス

四 車輪ニハ泥除ヲ設クヘキモノトス

五 車体前面ノ兩側ニハ硝子燈ヲ備フヘキモノトス

六 車体ノ右側面ニ紐名及検査証ノ番號ヲ判明ニ記スヘキモノトス

七 運轉器心棒彈鐵力革手綱及其他ノ器具ハ堅牢強靱ノモノヲ用フヘキモノトス

第二十條 馬匹ハ強健ニシテ馳驅ニ耐フルモノトス

第二十一條 馬匹ハ検査証ヲ結着スル爲メニ頸輪ヲ設クヘシ

第三章

馭者馬丁ノ資格及服裝

第二十二條 馭者ハ滿二十年以上馬丁ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馭術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ

第二十三條 前條ノ資格ニ適合スト雖セ醉狂又ハ暴行ノ癖アル者若クハ強竊盜強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者ハ馭者馬丁タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

但警察官吏ニ於テ改悛ノ狀アリト認ルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第二十四條 馭者馬丁ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 馭者 帽子筒袖無地紺又ハ黒色ノ内「ズボン(同上)靴 但夏季ハ麥藁帽子ヲ用ヒ白服ヲ着スルモ妨ケナシ
- 二 馬丁 帽子又ハ笠(饅頭形)法被(紺黒色無地)股引(同上)又ハ半股引
- 三 兩具ハ紺黒色桐油又ハ羅紗等ヲ以テ製シ冠物及上衣ノ形ニ從フ

第四章

馭者馬丁就業制限

第二十五條 鑑札及乗合馬車營業取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見ノコトヲ求メタルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二十六條 頰冠リ鉢巻キ其他不体裁ノ形裝ヲナスヘカラス

第二十七條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス

但馭者避クヘカラサル事故アルトキハ馬丁ヲシテ馬車ノ管守ヲナサシムヘシ

第二十八條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲナスヘシ

第二十九條 乗客着席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ進行スヘカラス

第三十條 乗客中粗暴ノ行爲アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯セサルトキハ降車セシムヘシ

第三十一條 馭者臺ニ客ヲ乗載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲナサスシテ物品ヲ載スヘカラス

第三十二條 行車中ハ飲食又ハ喫煙シ若クハ酩酊シテ業ヲ執ルヘカラス

第三十三條 制止ヲ肯セス出火場其他群集ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第三十四條 他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第三十五條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスヘカラス

第三十六條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫リニ疾驅シ若クハ競走スヘカラス

第三十七條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

- 一 馬車ハ道路ノ中央ヲ通行スヘシ
- 二 牛馬及諸車ニ行逢フトキハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避ケヘシ
- 三 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ
- 四 前車除行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲナシ前車ハ左ニ避ケ

後車ハ右ヲ通過スヘシ

五 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ
第三十八條 二車以上引續キ行進スルトキハ後車ハ前車ヨリ三間以上ノ距離ヲ取ルヘシ
第三十九條 往來雜踏又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行シ相當ノ合圖ヲ
ナシ且馬丁ヲシテ前行セシムヘシ

第四十條 馬車街角ヲ通行スルトキハ右ハ大廻リヲナシ左ハ小廻リヲナスヘシ

第四十一條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第四十二條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第四十三條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第四十四條 乘客定員半數ニ充テタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第四十五條 乘客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアルトキハ直チニ返付ス
ヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ警察署分署又ハ巡行巡查等へ届出ツヘシ

第五章 乗載制限

第四十六條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス

但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十七條 左ニ記載シタル者ハ乗載スヘカラス

一 傳染病其他乘客ニ於テ厭忌スヘキ病狀アル者

二 瘋癲者亂醉者

三 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ虞アル物品

第六章 賃錢及駐車場

第四十八條 賃錢額ハ組合ニ於テ之ヲ定メ警察署ニ届出認可ヲ受ケ車内及駐車場ノ見易
キ所ニ揭示スヘシ

第四十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乘客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第五十條 駐車場ハ各組合ニ於テ撰定シ其地ノ圖面ヲ添へ警察署又ハ分署ニ届出認可
ヲ受クヘシ

第五十一條 駐車場ニハ乗合馬車駐車場ト記シタル標識ヲ設ク可シ

第五十二條 駐車場ノ外車馬ヲ置クヘカラス

第五十三條 駐車場ノ地盤ハ石煉瓦石敲キ又ハ板ヲ敷キ且馬尿溜ヲ設クヘシ

第五十四條 駐車場ハ日々掃除ヲナシ常ニ清潔ナラシムヘシ

第七章 營業組合

第五十五條 馬車營業者ハ警察署ノ區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

但營業者寡少ノ土地ニ在テハ所轄警察署ノ認可ヲ得テ最寄組合ニ加入スルコトヲ得

第五十六條 組合ニ入ラサルモノハ馬車營業ヲナスコトヲ得ス

第五十七條 組合ニ於テハ規約ヲ設ケ警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第五十八條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負担スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ム

第五十九條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ其取締人ハ組合營業者中ヨリ公撰シ警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ

但便宜副取締人ヲ置クコトヲ得

第六十條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ニ通知スル事
- 二 營業ニ關スル願届書ニ加印シ意見アルモノハ其旨添申スル事
- 三 賃錢並乘客定員標ニ証印スル事
- 四 營業者及馭者馬丁名簿ヲ製シ變更アル毎ニ加除スル事
- 五 組合ニ關スル費用ヲ取立及之ヲ仕拂フ事
- 六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ及之ヲ組合ニ報告スル事
- 七 取締人ノ撰舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ定メタル事項

第六十一條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラザレハ取締人タルコトヲ得ス
一 年齢二十五年以上ノ者ニシテ相當ノ家屋若クハ土地ヲ所有スル者
二 營業ニ關スル諸規則ヲ解讀シ及筆算ニ通スル者

第六十二條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人タルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ

但警察官吏ニ於テ改悛ノ狀アルモノト認ルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第六十三條 取締人ニ於テ不都合ノ所爲アリト見認ムルトキハ臨時改撰セシムルコトアルヘシ

第八章 罰則

第六十四條 第一條第三條第八條第三十五條第四十二條第四十四條第四十八條第四十九條第五十條ヲ犯シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

第六十五條 第五條第六條第七條第九條第十條第十一條第十九條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第二十九條第三十二條第三十四條第三十六條第四十一條第四十三條第四十五條第四十六條第四十七條第五十二條第五十五條第五十六條第五十七條ヲ犯シ又ハ第三十一條第三十八條第三十九條ニ違ヒ制止ヲ肯セサルモノ若クハ第五十三條第五十四條ニ違ヒ官署ノ督促ニ從ハサルモノ及第三十七條第四十條ニ違ヒ衝突シタルモノハ五錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第六十六條 本則ヲ犯シタルモノト雖モ刑法ニ明文アルモノハ各其正條ニ從フ
(乗合馬車營業願書式)

乗合馬車營業願

今般取締規則ヲ遵守シ乗合馬車營業致度候間免許証御下付被成下度此段奉願候也

年月日

何郡何村何番戸
士族(平民) 氏 年 名 齡
右 氏 名 印
何組取締人 氏 名 印

愛知縣何警察署御中

(馭者(馬丁)鑑札下付願書式)

馭者(馬丁)鑑札御下付願

右之通今回自分乗合馬車ノ馭者(馬丁)ニ使用致度候間鑑札御下付被成下度此段奉願候也

年月日

何郡何村何番戸
士族(平民) 氏 年 名 齡
乗合馬車營業人 氏 名 印
何組取締人 氏 名 印

愛知縣何警察署御中

(乗合馬車營業者馭者(馬丁)兼業願書式)

乗合馬車兼馭者(馬丁)營業願

今般取締規則ヲ遵守シ乗合馬車ノ營業ヲナシ自ラ其馭者(馬丁)ヲ兼業致度候間鑑札御下付被成下度此段奉願候也

年月日

何郡何村何番戸
士族(平民) 氏 年 名 齡
右 氏 名 印
何組取締人 氏 名 印

愛知縣何警察署御中

●縣令第七十七號 明治二十年七月二十一日
營業人力車取締規則別紙ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス現營業者引繼キ營業セント
スルトキハ九月三十日迄ニ願出ツヘシ
(別紙)

營業人力車取締規則

第一章

通 則

- 第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ又ハ所有車借車モヲ輓クテ業トスルモノヲ云フ
- 第二條 前條ノ營業ヲナサントスルモノハ所轄警察署分署所轄内ノモノハ該署ヲ經山ニ願出テ免許証又ハ鑑札ヲ受クヘシ
- 第三條 營業ニ關スル願届書ニハ總テ取締人ノ加印ヲ受クヘシ
- 第四條 輓子ヲ雇使スル營業者ハ其輓子ノ族籍住所氏名年齢ヲ記載シ第二條ニ準シ願出テ一人ニ付鑑札一箇ヲ受クヘシ
- 第五條 鑑札ハ毎年二月警察署又ハ分署ニ於テ指定シタル日時場所ヘ持參シテ検査ヲ受クヘシ
- 第六條 車休ハ營業免許ヲ受ルノ際其他ハ毎年二回前條ノ例ニ倣ヒ警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ其証ヲ受クヘシ

但買受又ハ新造改造シタルトキハ定期ニ拘ラス其都度検査ヲ受クヘシ

第七條 左ノ場合ニ在テハ三日以内ニ下附セラレタル警察署又ハ分署ニ届出テ免許鑑札又ハ検査証ノ書換ヲ請ヒ若クハ返納スヘシ

但警察署所轄外ヘ轉居スルモノハ一旦廢業ノ上移住地ニ於テ更ニ願出ツヘシ

- 一 轉居又ハ改氏名ノ時
 - 二 検査証及免許鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時
 - 三 廢業又ハ廢車シタル時
 - 四 車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時
 - 五 輓子ヲ解雇シ又ハ輓子ノ失踪逃亡若クハ死去シタル時
- 第八條 免許証鑑札及検査証ハ之ヲ貸與スヘカラス
- 第九條 車体検査証ハ車ノ蹴込右方ニ釘付スヘシ
- 第十條 検査証アル車ト雖モ第十七條ノ制限ニ適セス又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ見認ムルトキハ其使用ヲ差止ム
- 第十一條 鑑札及検査証ハ壹個ニ付金貳錢ノ手数料ヲ納ムヘシ其書換等ノ時亦同シ
- 第十二條 營業者ハ出願ノ際身元保證金トシテ左ノ金額ヲ警察署ニ納付スヘシ
但適宜公債証書國立銀行預リ券ヲ以テ納ムルモ妨ケナシ
- 一 人力車壹人乘 壹輛ニ付 金壹圓

二 人力車貳人乘 壹輛ニ付 金貳圓

第十三條 營業中車數ヲ増減シタルトキハ前條ノ例ニ照シ保証金ヲ増減スヘシ

第十四條 保証金ハ廢業又ハ人力車輓ノ資格ヲ失ヒタルトキハ之ヲ還付スヘシ

第十五條 保証金ハ營業者若クハ輓子其營業上ニ關シ他人ニ被ラシメタル損害ノ償ヒ等ニ充用スルコトアルヘシ

第十六條 保証金ニ不足ヲ生シタルトキハ十日以内ニ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フ者トス

第二章 車体ノ構造及人力車輓ノ資格

第十七條 車体ハ堅半ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フ可シ

一 一人乗ハ横巾内法二尺未滿二人乗ハ二尺以上トス

二 車体ハ無地黒漆塗中張ハ革天鵝絨羅紗等ヲ用フヘキモノトス
但金具色合ハ適宜トス

三 車体ト同色ノ泥除及換轄ヲ備フヘキモノトス

四 車体背面ニ組名及檢査証ノ番號ヲ判明ニ記スヘキモノトス

五 ゴム引又桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘキモノトス

六 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘキモノトス

七 組名及車体ノ番號ヲ記シタル細長提灯ヲ備ヘ且鐵燭摺附木ヲ備ヘ置クヘシ

第十八條 人力車輓輓子ヲ使用シ自ラ車ヲ引ハ滿十八年以上ニシテ身體強壯ナル者且其土地ノ路程ヲ畧知スル者ニ限ルヘシ

第十九條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜強姦及幼者ヲ畧取誘拐スル罪若クハ過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタルモノ及監視中ノ者ハ人力車輓タルコトヲ得ス
但警察官吏ニ於テ改悛ノ狀アリト認ルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

第二十條 人力車輓ノ服裝ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 着服 紺黒色法被股引又ハ半股引

二 冠物 帽子又ハ笠(饅頭形)

三 雨具 紺黒色羅紗又ハ桐油ヲ以テ製シ着服冠物ノ形ニ從フ

第三章 人力車輓就業制限

第二十一條 人力車輓ハ鑑札及營業人力車取締規則ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見
ンコトヲ求メタルトキハ直チニ之ヲ示スヘシ

第二十二條 賃錢表ヲ製シ取締ノ証印ヲ受ケ之ヲ車ノ職込左方ニ釘付スヘシ

第二十三條 頰冠リ鉢巻キ其他不体裁ノ形裝ヲナスヘカラス

第二十四條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第二十五條 乘客ノ承諾ヲ得ス途中ニ於テ他車ニ乗セ換ヘ又ハ濫リニ駐車スヘカラス

第二十六條 市街ヲナセル地ニ於テハ駐車場ノ外人力車ヲ置クヘカラス

但乗客用辨ノ爲メ往來ノ妨害ト爲ラサル所ニ一時駐車スルハ妨ケナシ

第二十七條 乗客ノ指定セサル旅店飲食店及ヒ其他ノ場所ニ輓キ入ルヘカラス

第二十八條 制止ヲ肯ンセシテ出火場其他群集シタル場所ニ輓入ルヘカラス

第二十九條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢ノ言行ヲナスヘカラス

第三十條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ妨害ヲナスヘカラス

第三十一條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フ可シ

一 車馬及歩行者ニ行逢フキハ左ニ避ケ軍隊並ニ砲車輻重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

二 實車ニ對シテハ空車ニ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスルトキハ後車ヨリ掛ケ聲ヲナシ前車ハ左ニ避ケ後車

ハ右ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車馬及灌水車又ハ葬送等ニ行逢フトキハ避讓スヘシ

第三十二條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スルトキハ徐行スヘシ

第三十三條 街角ヲ過クルトキハ右ハ大廻リヲナシ左ハ小廻リヲナスヘシ

第三十四條 二輦以上ノ車ヲ連繫シテ輓クヘカラス

第三十五條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十六條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十七條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアルトキハ直チニ還付ス

ヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ警察署分署又ハ巡行巡查等ニ届出ツヘシ

第四章 賃 錢

第三十八條 人力車ノ賃錢ハ組合ニ於テ里程時間又ハ半日一日等ノ價額ヲ定メ警察署ニ

届出テ認可ヲ受クヘシ

第三十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第四十條 賃錢ハ總テ其到着地ニ於テ請求スヘキモノトス

但瀛車停車場其他群集ノ場所ニ到ラントスルトキ若クハ乗客ヨリ豫メ賃錢ヲ拂ハン

トスル時ハ此限ニ非ス

第四十一條 乗客ニ於テ單ニ行先キヲ示シ其道筋ヲ定メサルトキハ最近ノ路程ニ依リ賃

錢ヲ計算スヘシ

第五章 乗載制限

第四十二條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乘載スヘカラス

但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス

第四十三條 左ニ記載シタルモノハ人力車ニ乘載スヘカラス

一 六種傳染病疥癬癩病患者及乞食体ノ者

二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品

三 車体外ニ張り出スヘキ長大ノ物品

第六章 駐車場

第四十四條 市街ヲナセル地ニハ駐車場ヲ設ク其種類左ノ如シ

一 公設駐車場 一般營業人ニ於テ駐車スヘキモノヲ云フ

二 私設駐車場 敷人ニテ設立シ其專用ニ屬スルモノヲ云フ

第四十五條 公設駐車場ハ警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ定メ標示スルモノトス

第四十六條 私設駐車場ヲ設ケントスルモノハ警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

第四十七條 駐車場ニ於テハ整列ノ順次又ハ圖取等ヲ以テ出車スヘシ

但客ノ特ニ指名シタル場合ハ此限ニアラス

第四十八條 客ヨリ求メアリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

但暴行者及看護人ナキ瘋癲人ハ此限ニアラス

第四十九條 私設駐車場ハ組合取締人ノ烙印ヲ受ケタル標識ヲ設クヘシ

第七章 營業組合

第五十條 人力車營業者ハ警察署又ハ分署所轄ノ區域ニ從ヒ組合ヲ設クヘシ

但營業者ノ多寡ニ依リ所轄警察署ノ認可ヲ得分合スルヲ得

第五十一條 組合ニ入ラサルモノハ人力車營業ヲナスコトヲ得ス

第五十二條 組合ニハ取締人一人ヲ置クヘシ其取締人ハ組合營業者中ヨリ之ヲ公撰シ警察署又ハ分署ニ届出テ認可ヲ受クヘシ

但便宜副取締人ヲ置クコトヲ得

第五十三條 組合ニ於テハ其規約ヲ定メ警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ

第五十四條 取締人ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 人力車營業ニ關スル諸規則命令ヲ營業者ヘ通知スル事

二 私設駐車場ノ標識及ヒ賃錢表ニ証明ノ爲メ烙印スル事

三 組合營業者ノ願届書ニ加印シ意見アルモノハ其旨ヲ添申スル事

四 營業者名簿ヲ製シ變更アル毎ニ加除スル事

五 組合ニ關スル費用ヲ取立テ及之ヲ支拂フ事

六 組合ニ關スル諸費ヲ決算シ及之ヲ組合ニ報告スル事

七 取締人ノ撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第五十五條 營業者ハ組合ニ關スル費用ヲ負擔スヘシ其費額及割賦方ハ規約ヲ以テ定ム

ヘシ

第五十六條 左ノ資格ニ適合スル者ニアラサレハ取締人タルコトヲ得ス

一 年齢二十五年以上ノ者ニシテ相當ノ資産ヲ有スル者

二 營業上ニ關スル諸規則類ヲ解讀シ算筆ニ通スル者

第五十七條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ハ取締人ヲ

ルコトヲ得ス其他ノ犯罪ト雖モ監視中ノ者亦同シ
但警察官吏ニ於テ改悛ノ狀アリト認ルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ
第五十八條 取締人ニ於テ不都合ノ所爲アリト認ムルトキハ臨時改撰セシムルコトアルヘシ

第八章

罰則

第五十九條 第二條第四條第八條第二十五條第二十九條第三十八條第三十九條第四十六條第四十八條ヲ犯シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス
第六十條 第五條第六條第七條第九條第十七條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十六條第二十七條第三十四條第三十六條第三十七條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第五十條第五十一條第五十三條第五十四條第三十二條ニ違ヒ制止ヲ肯ンセサル者及第三十一條第三十三條ニ違ヒ衝突シタルモノハ五十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
第六十一條 本則ヲ犯シタルモノト雖モ刑法ニ明文アルモノハ各其正條ニ從フ

附則

一 名古屋熱田及其接續市街地外ノ人力車ハ當分ノ内第十七條第二十條ノ制限ヲ實施セスト雖モ左ノ程度ヲ下ルヘカラス

- 一 車体ハ堅牢ニシテ不潔ナラサルモノ
 - 二 車体背面ニ組名及檢査證ノ番號ヲ判明ニ記スヘシ
 - 三 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ノ備ヘアルモノ
 - 四 泥除及換轉ノ備ヘアルモノ
 - 五 不潔ナラサル蒲團及膝掛ノ備ヘアルモノ
 - 六 組名ヲ記シタル細長提灯ノ備ヘアルモノ
 - 七 着服 適宜ノ短衣半股引
 - 八 冠物 適宜
 - 九 雨具 桐油又ハ羅紗製ノモノ
- 一 名古屋熱田及其接續市街地内へ一時出入シ若クハ通過スルハ妨ケナシト雖モ駐留シテ營業スルヲ許サス
此附則ニ違背シタモノハ本則第六十條ニ依テ處分ス
(人力車營業願書式)
人力車營業願

何郡何村何番戶士族(平民)
氏 名
年 齡

今般取締規則ヲ遵守シ人力車營業仕度候間免許證御下附被成下度此段奉願候也

年月日

右
氏 名印
何組取締人 名印

愛知縣何警察署御中

(輓子鑑札下附願書式)

輓子鑑札御下附願

何郡何村何番居士族(平民)

氏 年 齡 名

右之者今回自分人力車輓子ニ雇入度候間鑑札御下附被成下度此段奉願候也

年月日

何郡何村何番居士族(平民)
人力車營業人 氏 名印
何組取締人 氏 名印

愛知縣何警察署御中

(人力車輓營業願書式)

人力車輓鑑札御下附願

何郡何村何番居士族(平民)

氏 年 齡 名

今般取締規則ヲ遵守シ人力車輓營業致度候間鑑札御下附被成下度此段奉願候也

年月日

右
氏 名印
何組取締人 名印

愛知縣何警察署御中

●縣令第七十八號 明治二十年七月二十一日

宿屋取締規則別紙ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行ス現營業者引續キ營業セントスルト
キハ九月三十日迄ニ願出ツヘシ

(別紙)

宿屋取締規則

第一章

通 則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

一 旅人宿トハ一泊ノ賄料ヲ得テ行旅ヲ宿泊セシムルモノヲ云フ

二 下宿屋トハ一ヶ月ノ賄料又ハ坐敷料等ヲ約定シテ寄寓セシムルモノヲ云フ

三 木賃宿トハ飲食ヲ客ノ自辨ニ任セ止宿セシムルモノ其他安泊ノ類ヲ云フ

第二條 宿屋業ヲサントスルモノハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物坪數及間取ヲ記シタル明細圖面ヲ以テ所轄警察署ニ願出テ免許鑑札ヲ受クヘシ其間取坪數ヲ増減變更シタルトキハ圖面ヲ以テ届出テ認可ヲ受クヘシ

但分署所轄内ノモノハ該署ヲ經由スヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、モノハ營業者タルコトヲ得ス

但警察官吏ニ於テ改悛ノ狀アリト認ムルモノハ特ニ許可スルコトアルヘシ

- 一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者
- 二 白痴瘋癲者

三 強竊盜及詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者又ハ其他ノ罪ヲ犯シ監視中ノ者

四 風俗ヲ紊ルヘキ所爲アリト見認メタル者

第四條 改氏名又ハ廢業シタルトキハ其旨警察署ニ届出鑑札ノ書換ヲ乞ヒ又ハ之ヲ返納スヘシ

第五條 宿屋營業者ハ看板ヲ製シ店頭又ハ門戸ニ掲クヘシ

第六條 宿引ヲ出シ強テ客ヲ誘引スヘカラス

第七條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル様注意スヘシ

第八條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室内ニ入ラシムヘカラス

第九條 宿泊人疾病ニ罹ルトキハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切ニ取扱フヘシ

第十條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタルトキハ即時警察署分署又ハ巡行巡查等ニ届出ヘシ

第十一條 宿泊人ノ遺留品ナキヤニ注意シ若シ之レアルトキハ直ニ還付ノ手續ヲナシ其主分明ナラサルトキハ速ニ警察署分署又ハ巡行巡查ニ届出ツヘシ

第十二條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押收又ハ受領スヘカラス

第十三條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ叨リニ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十四條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客室ニ揭示スヘシ

第二章 旅人宿

第十五條 名古屋區ハ客室二十坪以上其他ハ十五坪以上アル家屋ニ於テ營業スルモノニ限ルヘシ

但土地ノ狀況ニ依リテハ本條制限以下ト雖モ特ニ允許スルコトアルヘシ

第十六條 客室ハ充分ニ光線ヲ取リ且空氣ヲ流通セシムヘシ

第十七條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸棚ヲ設クヘシ

第十八條 二階以上ノ客室十五坪以上アル者ハ三尺ヨリ狭カラサル階子二箇以上ヲ設クヘシ

但家屋ノ構造ニ依リ特ニ許可ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第十九條 便所ハ臭氣ノ容室ニ及ハサル所ニ設ケ常ニ清潔ニ掃除スヘシ
第二十條 容室ハ旅客一名ニ付一坪半ヲ下ルヘガラス
但同行者又ハ同宿人双方ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニアラス

第二十一條 正當ノ理山ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絶スヘカラス

第二十二條 營業者ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿泊人發着毎ニ記入シ朝八時
警察署分署又ハ巡查駐在所ヘ届出ツヘシ〔明治二十二年二月縣令第五號參看〕
但警察署分署駐在所々在地外ニ在テハ一週間毎ニ届出ヘシ

原簿

番號	氏名	年齢	職業	族籍	住所	相貌ノ特徴 其他事故	前夜宿 泊所	行先地	到着月 日時刻	出發月 日時刻

官吏ハ其官氏名隊伍ヲナシタル兵隊ハ其隊號及引卒シタル長官ノ官氏名外何人ト
記スヘシ投宿及出發届モ亦同シ

明治何年 何月何日 投宿届
何郡何町何番戶族籍
屋號 何 某 ㊦

第何號	住籍	年齢	職業	前夜宿泊所	行先地	投宿日時	相貌特徴其他事故

明治何年 何月何日 出發届
何郡何町何番戶族籍
屋號 何 某 ㊦

氏名
投宿番號
出發日時

第二十三條 宿泊人滯在中外泊シタルモノアルトキハ其旨ヲ宿泊人名簿ニ記シ置クヘシ
〔明治二十一年八月縣令第六十六號ヲ以テ本項更正〕

第三章 下宿屋

第二十四條 下宿屋ハ客室五坪以上アル家屋ニ於テ營業スル者ニ限ル
第二十五條 下宿屋營業者ハ下宿人投宿後二十四時間以内ニ其下宿人ト連署ノ上下宿人ノ族籍住所氏名年齢並下宿ノ事由ヲ記シ警察署分署又ハ巡查駐在所ニ届出ツヘシ其轉

宿シタルトキ亦同シ

第二十六條 下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ掲出スヘシ
第二十七條 下宿人五日以上外泊シテ其所在ノ不分明ナルトキハ其旨警察署分署又ハ巡査駐在所へ届出ツヘシ

第二十八條 第十六條第十七條第十八條第十九條ハ下宿屋ニ就テモ亦之ヲ適用ス

第四章

木賃宿

第二十九條 木賃宿營業ハ名古屋熱田岡崎豊橋及其接續市街ニ於テハ場所ヲ限リ營業ヲ許可ス

但其場所ハ別ニ定ムル所ニ依ル〔本年七月告示第九
二十四號參看〕

第三十條 第二十一條第二十二條第二十三條ハ木賃宿ニ就テモ亦之ヲ適用ス

第五章

罰則

第三十一條 第二條第四條第六條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十七條第十八條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十五條第二十七條ヲ犯シタルモノハ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ處罰セラレヘシ

(宿屋營業願書式)

旅人宿(下宿屋)木賃宿營業願

何郡何町何番戶士族(平民)

氏名 年 齡

右 氏 名 印

年 月 日

愛知縣何警察署御中

明細圖ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 家屋總体ノ間取
- 二 家屋中客室ニ供スル坪數
- 三 家屋中自家用ニ供スル坪數

●縣令第七十九號 明治二十年七月二十一日

名古屋熱田岡崎豊橋及其接續市街ニ於テハ左ノ場所ノ外木賃宿ノ營業ヲ許可セス現今ノ營業者ニシテ引繼キ營業セントスルモノハ本年十二月三十一日迄ニ免許地へ移住スヘシ

- 一名古屋區下奥田町 平野町 敷下町 蘇鐵町 正木町〔新橋通リ〕 大曾根町〔坂下〕
- 一愛知郡熱田傳馬町ノ内字築出 新尾頭町〔新橋通リ〕
- 一額田郡岡崎投町 板屋町 能見町
- 一渥美郡豊橋村ノ内字新町
- 一寶飯郡下地村

●縣令第八十三號 明治二十年八月一日

尾張國中島郡東加賀野井村ヲ一宮警察署三拾町村拾町野村馬飼村ノ三ヶ村ヲ下祖父江分署ノ所轄ニ屬セシム

●縣令第八十五號 明治二十年八月九日

自今左ニ列記スル諸製造所及貯藏場等ヲ建設セントスルモノハ其建設場ノ位地ノ隣接人家へシテ構造ノ圖面並該製造所ハ貯藏方ノ概畧書ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳へ願出ツヘシ

但現今既設ノモノハ本年九月一日迄ニ本文ニ準シ願出ツヘシ

- 一 マツチ製造所
- 二 獸類脂肪骨骨化製所
- 三 瓦斯製造所及貯藏場
- 四 諸ターニル製造所及貯藏場
- 五 諸鑄造所
- 六 膠製造所
- 七 鹽酸硝酸硫酸其他揮發劇烈ノ舍密物等製造所及貯藏場
- 八 玻璃製造所
- 九 陶器製造所

- 十 煉化瓦類製造所
 - 十一 蠟燭灰製造所
 - 十二 襪襪精化所
 - 十三 石鹼製造所
 - 十四 鍛冶工場
 - 十五 魚油精製所及貯藏場
 - 十六 製皮所
 - 十七 肥料製造所
 - 十八 石炭置場
 - 十九 火止石油製造所
 - 二十 石灰製造所及貯藏場
 - 二十一 紙漉所
 - 二十二 澱粉製造所
 - 二十三 石油貯藏場
 - 二十四 蒸氣ヲ使用スル諸工場
 - 二十五 總テ惡臭ヲ發スル諸製造所
- 縣令第八十七號 明治二十年八月二十七日

本年勅令第三十六號滙入紙製造取締規則及大藏省令第十二號ニ依リ當廳ニ差出スヘキ届書ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ

●縣令第九十號 明治二十年九月五日

明治十八年甲第百六號布達違警罪目第二條第十二項ハ本年十月一日ヨリ削除ス但十三項ヲ十二項トシ以下順次繰上ケトス

●縣令第百一號 明治二十年十月四日

明治十七年甲第八十五號布達中へ左ノ一項ヲ追加ス但從前第一項以下順次繰下ケトス

第一項 凡ソ出火場ニ町方位ヲ非常線ト定メ巡查ヲ該線ニ配置シ左ニ掲クル者ノ外濫リニ線内ニ立入ヲ許サス但火勢ノ模様ニ依リ非常線ヲ減縮スルコトアルヘシ

第一 線内ニ家屋ヲ有シ或ハ居住スルモノ

第二 同上ノ親戚知人ニシテ救護ヲ爲サントスルモノ

第三 線内ノ官衙ニ奉仕シ及公務ヲ帶ルモノ

第四 線内ノ社寺校舍商社等ニ勤務スルモノ

第五 消防ニ助力セントスルモノ

●縣令第百六號 明治二十年十一月十一日

明治十七年甲第百二十八號布達料理屋取締規則第九條削除ス

但第十條ヲ九條トシ以下順次繰上トス

●縣令第百七號 明治二十年十一月十一日

明治十七年甲第百十七號布達席貸茶屋娼妓取締規則第二十三條左ノ如ク改正ス第二十三條 遊客人名帳ハ左ノ雛形ニ倣ヒ調製シ遊客出入毎ニ記入シ毎日午前十時及午後十時ノ兩度ニ帳簿ヲ所轄警察署ニ差出檢査ヲ受クヘシ

遊客人名帳雛形

番 號	遊 興 時 間		住所身分職業	相貌ノ特徴	氏 名	年 齡
	何日何時來	何日何時歸				
一	、、、、	、、、、	何國何郡(縣)何町(村) 何番戶平民何職	額ニ何寸程ノ刀 痕アリ	何 某	何十何年
二	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、
三	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、	、、、、

●縣令第百八號 明治二十年十一月二十六日

屋外ニ於テ公衆ノ集會若クハ列伍運動ヲ爲ス者ハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラズ會主幹事等ヲ定メ集會若クハ列伍發出ノ場所通行スヘキ順路並ニ年月日時ヲ詳記シ舉行三日前ニ會主又ハ幹事ヨリ集會若クハ列伍發出地所轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ但縣立公立學校ノ舉行ニ係ル者又ハ婚儀葬儀神佛儀式等從前ノ慣行ニ係ル者ハ此限リニアラス

會主幹事ニシテ前項ノ規程ニ違フトキハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ五十錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス若シ會主幹事ヲ定メサルトキハ會員ニ其罰ヲ科ス

●縣令號外

明治二十年十月四日

名古屋區

明治十七年甲號外布達名古屋區消防規則別冊ノ通改正ス

名古屋區消防規則

第一條 名古屋區内ニ消防組ヲ置キ警察區畫ニ從ヒ左ノ四組ニ分ツ

第一組 名古屋第一警察署部内

第二組 名古屋第二警察署部内

第三組 名古屋第三警察署部内

第四組 名古屋第四警察署部内

第二條 消防組ハ警察本部ノ監督ヲ受ケ所轄警察署ニ隸屬スルモノトス

第三條 一組ニ屬スル指揮役以下左ノ如シ

- 指揮役 警部警察署長ヲ以テ之ニ充ツ 一人 同附屬 巡查 二人
- 唧筒係長 警部若クハ警部補 一人 同附屬 巡查 二人
- 水係 巡查 三人 火係長 警部若クハ警部補 一人
- 同附屬 巡查 二人

第四條 一組ニ屬スル消防夫左ノ如シ

- 小頭 一人 副小頭 一人
- 唧筒運轉方 十一人 管鎗持 二人内肝煎一人
- 水係 十三人内肝煎一人 綱持 二人
- 梯子持 四人 刺叉持 四人
- 長鳶口持 十八人 斧持 五人
- 鋸持 二人 籠長持持 二人
- 第五條 一組ニ屬スル器械左ノ如シ
 - 繩 一本 唧筒 一臺
 - 梯子 二挺 刺叉 二挺
 - 斧 五挺 長鳶口 十挺
 - 鋸 二挺 現場桶 四組二個
 - 籠長持 一個
- 第六條 警察署ハ消防指揮役以下ノ名簿ヲ製シ之ヲ警察本部ニ進達シ其加除アル毎ニ之ヲ報告スヘシ

在中附屬品 消口札十枚 鋸形鍵付引綱二筋 鋸二個 釣瓶四個 釣繩四筋 片手桶四個

右ノ外正副小頭ハ弓張燈並ニ小鳶口ヲ携帶スルモノトス

明治二十年

警察之部

第七條 名古屋區内ニ別手唧筒組ヲ置キ之ヲ甲乙丙丁ノ四組ニ分チ警察本部ニ於テ之ヲ直管ス

第八條 一組ニ屬スル別手唧筒組ノ人員及器械左ノ如シ

指揮役 警部若クハ警部補 一人 同附屬 巡查 二人

唧筒運轉方 消防夫 十人 管鎗持 消防夫 二人内肝煎

氷係 同 十一人内肝煎 唧筒 一臺

現場桶 五組二組

第九條 指揮役ハ警察本部長ノ部署スル所ニ從ヒ各其一組ヲ指揮シ一面ノ消防ニ從事スルモノトス

第十條 指揮役以下ノ標旗灯燈指揮旗及消防夫被服徽章左ノ如シ(被服圖略ス)

第十一條 火ノ見ノ位置信號左ノ如シ

名古屋第一警察署 傳馬町 武平町 五條橋 押切町 禰宜町 納屋町

末廣町 門前町 吾妻町 下茶屋町 古渡町 鍋屋町 江川町

奥田町 大曾根町

知ラセ 出方 鎮火

第十二條 出火信號アレハ消防夫ハ迅速整裝出火場ニ駆付クヘシ若シ他行先キニ在テ歸

宅整裝ノ暇ナキトキハ直ニ出場其旨指揮役ニ届クヘシ

第十三條 消防夫現場ニ駆付ケタルトキハ先ツ所屬指揮役ノ標章アル處ニ到リ着到證ヲ受クヘシ若シ未タ標章ヲ出サハル以前ニ在テハ其出ルヲ待テ迅速之ヲ受クヘシ

第十四條 消防夫出場シタルトキハ着到時間ニ照ラシ左ノ區別ニ從ヒ着到證ヲ付與スヘシ

指揮役出場二十分以内ニ着到シタルモノハ

甲證 同四十分以内ニ着到シタルモノハ

乙證

同一時間以内ニ着到シタルモノハ

丙證

右時間外ニ着到シタルモノハ出場ノ數ニ算入セス

第十五條 消防夫ハ總テ指揮役ノ指揮ヲ受クルニアラサレハ決シテ自己ノ受持ヲ離ル、コトヲ得ス

第十六條 繩持ハ掛口ニ先登シ一組ノ目標トナリ梯子ハ掛口ニ架設シ轉倒セサル様注意スヘシ

第十七條 消防組引揚ノ合圖左ノ如シ

第一ノ呼子ニテ 消防ヲ止ム

第二ノ呼子ニテ 鑑札及着到ヲ点檢ス

第三ノ呼子ニテ 退場ス

第十八條 各警察署ハ區内ニ出火アレハ迅速火元町名及其姓名(姓名判然セザレハ屋號若クハ通稱)ヲ署前ニ揭示スヘシ

第十九條 消防組ヲ操出スハ名古屋區内ノ出火ニ限ルト雖モ時機ニ依リ區外ニ操出スコトアルヘシ

第二十條 消防組ハ毎年四回二月 四月 十月 十二月警察本部ニ召集シ被服銃械ヲ檢閲シ且唧筒運轉ノ演習ヲ爲サシム

第二十一條 消防夫現場ニ於テ其功勞著明ナルモノ及甲ノ着到證ヲ受ルコト引續キ二回以上ニ及フモノハ特ニ三圓以下ノ賞金ヲ付與スルコトアルヘシ

第二十二條 消防規則ニ背キ其他不都合ノ所爲アルモノハ嚴重處分スヘシ

第二十三條 消防夫吊祭扶助療治料ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ下付ス

一 吊祭料 重傷死ニ至ルモノハ其遺族ヘ金拾圓ヲ給ス

一 遺族扶助料 父母妻子若クハ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシモノヘ金貳拾圓ヨリ尠カラス同七拾圓

ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一 傷痍扶助料

一 傷痍終身不具トナリ自由ヲ失フモノヘ金四拾圓ヨリ尠カラス同七拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

二 傷痍終身不具トナルモノモ自由ニ得ルモノヘ金五圓ヨリ尠カラス同三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一 療治料 傷痍ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

第二十四條 消防夫ハ年給トシテ左ノ區別ニ從ヒ三月九月兩度ニ之ヲ支給ス

但解免又ハ新任者ハ月割ヲ以テ支給ス

小頭 年給 金三圓 副小頭 同 金貳圓

肝煎 同 金壹圓 平人夫 同 金五拾錢

出張手當 現場出張ノモノハ左ノ割合ヲ以テ手當及ヒ蠟燭代ヲ支給ス

小頭 一時間 金拾錢 副小頭 同 金九錢

肝煎 同 金七錢 平人夫 同 金五錢

蠟燭代 同 金壹錢

右ノ外出場三時間ニ及フ毎ニ現辨當ヲ給與ス

第二十六條 現場出張手當ハ第十四條ニ定メタル着到ノ順次ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ増減

支給スルモノトス

甲ノ着到證ヲ受ケタルモノハ二割ヲ増ス○乙ノ着到證ヲ受ケタルモノハ増減ナシ○
丙ノ着到證ヲ受ケタルモノハ二割ヲ減ス

第二十七條 檢閲及脚筒演習ノ爲メ召集シタルトキハ左ノ割合ヲ以テ手當ヲ支給ス

檢閲手當

小頭 一度 金拾錢 副小頭 同 金九錢

肝煎 同 金八錢 平人夫 同 金七錢

演習手當

肝煎 一度 金貳拾錢 平人夫 同 金拾五錢

第二十八條 現場ニ於テハ給與スル辨當ノ外一切酒食スルヲ許サス

訓令乙第三十四號 明治二十年五月二十一日

郡區役所

從來左記ノ諸願書ハ直ニ本廳へ進達致來候處調査上ノ都合有之候條與書濟ノ上ハ爾來所
轄警察署へ送付スヘシ

一 火藥類賣買營業願 一 火藥庫設置願 一 火藥假貯藏所設置願

一 火藥倉庫ニ貯藏願 一 獵銃製造營業願

告示第九十四號

明治二十年七月二十五日

本年縣令第七十四號街路取締規則第二條及同年縣令第七十八號宿屋取締規則第二十九條
ニ接續市街トアルハ左ノ町村ノ連擔ノ場所ヲ指ス

名古屋接續市街(明治二十年九月告示第一
百七號ヲ以テ村名追加)

西春日井郡清水町

大曾根村

枇杷島町(惣兵衛川以西新
川橋以東ヲ云フ)

下小川井村町註
同上

土器野新田町註
同上

愛知郡廣井村

岡崎接續市街

額田郡欠村

八帖村

伊賀村

井田村

菅生村

中村

梅園村

六供村

能見村

豐橋接續市街

渥美郡豐橋村

花田村

瓦町村

寶飯郡下地村

●告示第九十六號

明治二十年八月一日

名古屋警察署及所轄分署ヲ廢シ更ニ名古屋區ニ四警察署ヲ置キ位置及所轄區域等左ノ通
相定メ本月五日ヨリ事務ヲ取扱ハシム

署名	位置	所轄
名古屋第一警察署	名古屋警察署跡	從前名古屋警察署直轄ノ通
同 第二警察署	橋町分署跡	從前橋町分署所轄ノ通
同 第三警察署	鍋屋町分署跡	從前鍋屋町分署所轄ノ通
同 第四警察署	江川町分署跡	從前江川町分署所轄ノ通

明治二十年

警察之部

三百八十七

●告示第七號 明治二十年九月十七日

本年此告示第九十四號豊橋接續市街ノ内寶飯郡下地村ノ下へ津田村ノ内字四ツ谷ノ九字ヲ追加ス

●告示第十四號 明治二十年九月二十九日

今般一宮警察署稻葉分署ヲ稻澤分署ト改稱ス

● 明治二十年三月十七日

近來石炭油ノ需用大ニ増加セシカ其之レヲ使用スルニ當リ充分注意スヘキモノアリ抑モ石炭油ニ氣發分ノ多量ナルモノト之レヲ滅殺セシモノトノ別アリ其多量ナルモノヲ普通石炭油ト云ヒ頗ル危険ニシテ僅少ノ過失ヨリ不測ノ災害ヲ生シ易シ又氣發分ヲ滅殺セシモノハ火止石炭油ト稱シ稍ヤ安全ナルモノト云フヘシ凡ソ一利一害ハ免カレサルモノニシテ石炭油ニ原因シ火災ヲ生セシ實例近來最多シトス豈ニ戒慎セサルヘケンヤ故ニ各自ニ於テ燈火ニ供セントスルモノハ必ス火止石油ヲ用ヒ而シテ一層火災豫防ニ注意スヘシ右諭達ス

明治二十年六月二十九日

名古屋區

火災ヲ未ダ熾ナラサルニ撲滅スルハ注水ノ便ニ依ラサルヘカラス然ルニ當市街ノ慣習トシテ出火ニ際シ近傍ノ家々門戸ヲ嚴鎖シ諸人ノ出入ヲ禁スルカ爲メ井水汲取ノ便ヲ失フ

コト甚ラス右ハ畢竟各自賊難等豫防ノ意ニ出テ不得止ノ情狀ナキニシモアラスト雖モ是レカ爲メ火勢蔓延シ數多ノ家屋ヲ蕩盡シ併セテ自家其災害ニ罹ル者モ往々有之ニ付自今警察官ニ於テ嚴重取締ヲ爲スヘキ等ニ付向後出火ノ節ハ速ニ門戸ヲ開キ井水汲取方差支無之様致スヘシ右諭達ス

明治二十年七月二十一日

名古屋熱田及其接續市街地外ト雖モ營業人力車取締規則第十七條ハ早晚實施スヘキヲ以テ以後新調等ノ場合ニ在テハ該條制限ニ適合スル車休ヲ調製スヘシ右諭達ス

●縣令第八十五號 明治二十年八月九日

自今左ニ列記スル諸製造所及貯藏場等ヲ建設セントスル者ハ其建設場ノ位地隣接人家ヘノ距離ヲ記載シ構造ノ圖面並製造若クハ貯藏方ノ概略書ヲ添へ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ縣廳へ願出ツヘシ(明治二十一年五月縣令第一四十二號ヲ以テ取消)

●訓令乙第三十六號 明治二十年六月八日

他府縣巡查奉職ノ者其父母重病ニ依リ他ニ看護スルモノナク又ハ變災ニ罹リ一家ノ維持シ難キ場合ニ於テ退職ヲ請願シ若クハ歸省旅行中天災等ニ際シ許可期日ヲ經過スルハ所轄郡區役所へ証明書請求スル場合モ可有之ニ付若シ請求スル者アルトキハ篤ト調査ノ

ノ上附與スヘシ

●縣令第十三號 明治二十一年二月十日

銃砲賣買願ハ自今都テ所轄警察署ニ差出スヘシ

但明治十七年甲第二號布達銃砲賣買ノ件ハ取消ス

●縣令第十四號 明治二十一年二月十日

街路ヲ運搬スル屎尿其他惡臭ヲ發スル肥料ハ自今左ノ雜形ノ桶ヲ用ヒ其蓋ヲ密閉スヘシ

犯スモノハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

(肥糞桶雜形略ス)

●縣令第四十號 明治二十一年五月二十九日

火工場取締規則別紙ノ通相定ム

(別紙)

火工場取締規則

第一條 本則ハ名古屋、熱田、岡崎、豊橋及其接續市街ニ限リ施行ス

第二條 本則ニ於テ火工場ト稱スルハ左ノ種類ヲ云フ

一 蒸氣機械ヲ使用スル製造所 (明治二十一年六月縣令第十五號ヲ以テ刪除)

一 玻璃製造所

一 陶器燒窯

一 煉化及瓦燒窯

一 鑄造所及鍛冶工場

第三條 火工場ヲ建設セントスルモノハ製造方法書及四隣地形ノ圖面ヲ添借地借家ハ其地主連署ヘ願出ヘシ

所轄警察署ヲ經テ縣廳ヘ願出ヘシ

但鑄造所鍛冶工場及高サ四尺以下ノ陶器燒窯ニ係ルモノハ所轄警察署ヘ願出ヘシ

第四條 火工場ヲ取廣メントスルトキハ其圖面ヲ添所轄署ヘ縣廳經山又ハ警察署ヘ願出認可

ヲ受クヘシ

第五條 左ノ場合ニ於テハ前條ニ準シ三日以内ニ届出ヘシ

但所有主變換ニ係ルモノハ双方連署スヘシ

一 廢場

一 所有主變換

一 所有主改氏名及轉住

第六條 火工場ハ社寺公園及家屋倉庫ヲ距ル凡十間以上ノ地ニアラサレハ之ヲ設クルコ

トヲ許サス

但本條ノ距離ヲ取ルト雖モ尙他ニ妨害アリト認メタル箇所ニ於テハ許可セサルコト

アルヘシ

第七條 鑄造所鍛冶工場及高サ四尺以下ノ陶器燒窯ハ前條ノ制限外トス

第八條 家屋内ニ工場ヲ設クルモノハ左ノ各項ニ從ヒ構造スヘシ

一 火焚所ノ周圍及天井裏等ハ石又ハ煉化漆喰粘土其他不燃質物ヲ用ヰルコト

一 煙筒ヲ設クルモノハ最モ堅牢ニシテ屋上五尺以上突出セシムルコト

第九條 火工場ハ警察官吏ニ於テ隨時検査シ危險ト認ムル箇所ハ修理若クハ改造ヲ命ズルコトアルヘシ

第十條 本則第三條第四條第五條及第八條ニ違背スルモノハ五錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス

●縣令第四十一號 明治二十一年五月二十九日

名古屋、熱田、岡崎、豊橋及其接續市街ニ於テ自今左ニ列記スル製造所若クハ貯藏場ヲ建設セントスルモノハ製造方法書及四隣地形ノ圖面ヲ添ヘ其地主家主ト連署ノ上所轄警察署ヘ願出ヘシ違フモノハ五錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス(明治二十一年六月縣令第五十五號ヲ以テ一項追加)

一 獸類脂肪筋骨化學所 一 マツチ製造所

一 鹽酸硝酸其他揮發劇烈ノ舍密物等製造所及貯藏場

一 諸タール製造所及貯藏場 一 膠製造所

一 製皮所 一 肥料製造所及貯藏場干餾ヲ除ク

一 石灰製造所及貯藏場 一 石油精製所及貯藏場

●縣令第四十二號 明治二十一年五月二十九日

明治二十年ハ縣令第八十五號諸製造所及貯藏場ノ件ハ取消ス

●縣令第四十三號 明治二十一年五月二十九日

本年縣令第四十號火工場ニ係ル場所ニシテ從前許可シタルモノト雖モ本令第六條ニ抵觸スルモノハ來ル七月ヨリ向フ三ヶ年以内ニ取拂フヘシ

●縣令第四十六號 明治二十一年五月二十九日

明治十八年甲第七十三號布達寄席取締規則第十五條左ノ通改正ス

第十五條 本則第一條第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十三條ニ違背シ又ハ第十二條ニ違ヒ官署ノ督促ニ從ハサルモノハ五錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

●縣令第五十五號 明治二十一年六月二十三日

本年縣令第四十號火工場取締規則第二條第一項蒸氣機械ヲ使ヲ刪除シ同縣令第四十一號用スル製造所

製造所ノ件ニ左ノ一項ヲ追加ス

一 蒸氣機械ヲ使用スル製造所

●縣令第六十四號 明治二十一年七月二十七日

明治十五年甲第一百十號布達賣淫罰則第五條中五十錢トアルヲ二十錢ニ更訂ス

●縣令第六十六號 明治二十一年八月二十五日

明治二十年ハ縣令第七十八號宿屋取締規則第二十三條ヲ左ノ如ク更正ス

第二十三條 宿泊人滞在中ハ其姓名及投宿日時ヲ記シ前條同様届出ヘシ

但外泊シタルモノアルトキハ其旨ヲ宿泊人名簿ニ記シ置クヘシ

●縣令第六十七號 明治二十一年八月二十五日

明治十七年甲第百十七號布達席貸茶屋娼妓取締規則第二條ノ二項ヘ左ノ但書ヲ追加ス

但該營業人跡相續者ニ限リ後見人アル者ハ此限ニアラス

●縣令第七十二號 明治二十一年九月二十八日

明治十八年甲第百六號布達違警罪目第二條第四項左ノ通改正ス

第四 公許ヲ得スシテ外國人ニ家屋ヲ貸與シ又ハ無届ニテ止宿セシメタル者

●縣令第七十五號 明治二十一年十月十一日

明治十二年甲第百八十六號布達^{外國人宿中}詳記シノ下ヘ所轄警察署又ハ分署及ノ十字ヲ

挿入ス

●縣令第八十五號 明治二十一年十二月二十八日

明治十七年甲第百十七號布達席貸茶屋娼妓取締規則中左ノ通改正削除ス

第九條但書中「苦使」トアルヲ「拘留」ト改正ス

第十一條中「三拾圓以上ノ過料又ハ六ヶ月以内ノ苦使ニ處シ」トアルヲ「一日以上十日以

下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處シ」ト改正ス

「第十三條」第十五條「削除ス

但十四條ヲ十三條トシ十六條ヲ十四條トシ以下順次繰上ク

●縣令第八十六號 明治二十一年十二月二十八日

明治十八年甲第百九十八號布達諸輿行取締規則第五條ヘ左ノ但書ヲ追加シ同十四條左ノ

通改正ス

第五條

但神祭祝宴ノ節奉納又ハ餘興トシテ舉行見料ヲ^{取メズ}スレハ無鑑札ノ者ト雖モ許可スルコ

アルヘシ

第十四條 此規則ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十八條第五項ニ依テ罰セラルヘシ

●縣令第五號 明治二十二年二月十五日

明治二十年甲第百七十八號宿屋取締規則第二十二條宿泊人名簿中原簿ノ備考ヘ左ノ一

項追加ス

番號ハ每客室ニ付記シタル番號ト同シ

●縣令第三十號 明治二十二年六月十二日

明治二十年甲第百七十四號街路取締規則第二十八條第二項但書ヲ削除ス

●縣令第四十一號 明治二十二年八月九日

明治十八年甲第百六號布達違警罪目第二條第十三項削除ス

●縣令第四十五號 明治二十二年九月二十一日

明治十七年甲第百三十二號布達墓地及埋葬取細則 中第七號願書式與書ノ郡長トアルヲ廢ス

●縣令第五十四號 明治二十二年十一月十八日

格魯兒酸加溜謨(鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受スルトキハ何人ト雖モ豫メ其斤量及需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ所轄警察署又ハ分署ニ届出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルコトアルヘシ
前項ノ手續ニ違反シ賣買授受シタルモノハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス
(書式)

一格魯兒酸加溜謨

斤量

右ハ(鹽業)(工職用等何々)ノ爲メ必要ニ付前書ノ斤量(賣買)授受致度御認可被成下度候也

年月日

(買主)受主

氏

名

(賣主)授主

氏

名

本籍府市郡村番地族籍

現住所府市郡村番地

年

縣郡村番地族籍

年

名

警察署長又ハ分署長宛

●縣令第五十五號 明治二十二年十一月二十二日

何人ヲリトモ格魯兒酸加溜謨(鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里)賣買授受スルモノ届出方ノ儀ニ付今般縣令第五十四號ヲ以テ發令候處從前買受タル分ニシテ現在所持スルモノ有之候ハ、其斤量ヲ此際所轄警察署又ハ分署へ届出ヘシ

●縣令第五十六號 明治二十二年十一月三十日

明治十七年甲第百二十八號布達古物商取締細則中左ノ通加除改正ス

第一條第二條第三條第十六條中警察署ノ下「又ハ分署」ノ四字ヲ挿入シ其第一條中「戶長ノ奥印」ノ五字及第十六條ノ但書ヲ削除ス

第四條 轉住セントスルトキハ其旨届出テ移住ノ上ハ三日以内ニ其地所轄警察署又ハ分署ニ申出テ看板ノ檢印又ハ鑑札ノ書換ヲ受クヘシ

其廢業ニ係トキハ看板ノ消印ヲ受ケ又ハ鑑札ヲ返納スヘシト改ム

第八條中「交番所」トアルヲ「駐在所」ト改ム

第十八條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十三條第十四條第十五條ヲ犯シタルモノハ條例ニ明文アルモノヲ除キ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス」ト改ム

●縣令第五十七號 明治二十二年十一月三十日

明治十七年五月甲第三十號布達質屋取締細則中左ノ通加除改正ス

第一條第二條第十四條中警察署ノ下「又ハ分署」ノ四字ヲ挿入シ其第一條中「戶長ノ奥印」ノ五字及第十四條ノ但書ヲ削除ス

第三條 轉住セントスルトキハ其旨届出テ移住ノ上ハ三日以内ニ其地所轄警察署又ハ分署へ申出テ看板ノ檢印又ハ鑑札ノ書換ヲ受ケヘシ

其廢業ニ係ルトキハ檢印ノ消印ヲ受ケ又ハ鑑札ヲ返納スヘシ」ト改ム

第五條中質入主ノ下「及質使人」ノ四字ヲ挿入ス

第十六條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第九條第十條第十一條第十二條第十三條ヲ犯シタルモノハ條例ニ明文アルモノヲ除キ刑法第四百二十七條第八項ニ依リ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス」ト改ム

●告示第六十二號 明治二十二年六月二十八日

今般名古屋區ニ編入スル笹島町泥江町西柳町北禰宜町ヲ名古屋第四警察署所轄トス

●告示第六十三號 明治二十二年六月二十八日

今般名古屋區ニ編入スル笹島町泥江町西柳町北禰宜町ヲ愛知憲兵隊第一區管區第二巡查區南園町屯所々轄トス

●告示第八十一號 明治二十二年九月六日

從來警察署ノ取扱ニ係ル諸願書中副本ヲ要セサル種類ノモノハ既ニ明治十九年時告示第五十六號ヲ以テ告示ニ及置候處自今其他ト雖モ警察署分署ニ差出ス所ノ願届書ハ總テ副本ヲ要セス

●告示第一百四十四號 明治二十二年十月三十一日

町村制實施ニ依リ町村區域名稱變更ニ付警察署分署名稱ヲ左ノ通改ム

一 枇杷島警察署ヲ西枇杷島警察署ト稱ス

一 前ケ須警察署ヲ彌富警察署ト稱ス

一 布袋野警察署ヲ小折警察署ト稱ス

一 蟹江本町分署ヲ蟹江分署ト稱ス

一 下祖父江分署ヲ祖父江分署ト稱ス

一 稻置分署ヲ犬山分署ト稱ス

●告示第一百五號 明治二十二年十月三十一日

市町村制實施ニ依リ町村區域名稱變更ニ付警察區畫別冊ノ通改正ス
(別冊)

愛知縣警察區畫

名古屋第一警察署 位置名古屋市榮町

管轄地名古屋市ノ内

本町 玉屋町 鐵砲町 未廣町 久屋町 南久屋町 關治屋町 小市場町 針屋町 南
治屋町 大津町 朝日町 南廣町 久屋町 南久屋町 關治屋町 小市場町 針屋町 南
南長島町 桑名町 桶住町 吉町 伊勢町 南久屋町 關治屋町 小市場町 針屋町 南
田園町 南長島町 桑名町 桶住町 吉町 伊勢町 南久屋町 關治屋町 小市場町 針屋町 南
下園町 南長島町 桑名町 桶住町 吉町 伊勢町 南久屋町 關治屋町 小市場町 針屋町 南
京町 西菅原町 車原町 小田原町 東木挽町 天王崎町 南外堀町 南伏見町 長島町 針屋町 南
屋町 西菅原町 車原町 小田原町 東木挽町 天王崎町 南外堀町 南伏見町 長島町 針屋町 南
寶町 本重町 東本重町 西本重町 池田町 東木挽町 天王崎町 南外堀町 南伏見町 長島町 針屋町 南
月見町 大坂町 東本重町 西本重町 池田町 東木挽町 天王崎町 南外堀町 南伏見町 長島町 針屋町 南
計八十一ヶ町

名古屋第二警察署

位置名古屋市門前町

西洲崎町 松重町 役割町 東角町 富岡町 常盤町 音羽町 永樂町 花園町 若井
城代町 日置町 若松町 東角町 富岡町 常盤町 音羽町 永樂町 花園町 若井
渡町 下日置町 若松町 東角町 富岡町 常盤町 音羽町 永樂町 花園町 若井
正木町 春日町 小梅川町 三輪町 下茶屋町 伊勢山町 下前津町 不二見町 上
計四十八ヶ町

名古屋第三警察署

位置名古屋市鍋屋町

鍋屋町 土居下町 西二葉町 東二葉町 清水町 長久寺町 東芳野町 東外堀町

長塚町 白壁町 主税町 東片端町 武平町 石軒町 上野町 杉前町 富
士塚町 飯田町 相生町 赤塚町 坂上町 大曾根町 八軒町 上野町 杉前町 富
古出町 石神町 水筒町 東矢場町 布池町 添地町 板屋町 辰巳町 手代町 南辰巳町
東瓦町 宮野町 小川町 松山町 舍人町 七小町 高岳町 南新町 西新町 東新町 東
門前町 芳野町 下野町 横代官町 七曲町 南新町 西新町 東新町 東
計七十八ヶ町

名古屋第四警察署

位置名古屋市江川町

樋口町 數寄屋町 庭町 手木町 山神町 五平藏町 泥野町 吹出町 上伸町 新
屋敷町 江川町 紙ノ木町 白坂町 押切町 北野町 吹出町 上伸町 新
下園町 北川町 花ノ木町 白坂町 押切町 北野町 吹出町 上伸町 新
比米町 五條町 江橋町 新道町 北野町 吹出町 上伸町 新
柳町 舟入町 江橋町 新道町 北野町 吹出町 上伸町 新
水主町 深井町 江橋町 新道町 北野町 吹出町 上伸町 新
計七十七ヶ町

熱田警察署

位置愛知郡熱田町大字市場

管轄地愛知郡壹圓 知多郡ノ内二ヶ村

直轄地名
 熱田町 古澤村 瑞穂村 呼続村 彌富村 島野村 平針村 香久山村 白山村
 岩崎村 幡野村 山口村 岩作村 長湫村 上郷村 高社村 植田村 猪子石村
 鍋屋上野村 廣路村 田代村 千種村 御器所村 寶田村 八幡村 寛政村 明德
 比津村 鷹場村 那古野村 荒子村 御厨村 柳森村 松葉村 岩塚村 織豊村 日
 計一ヶ町、二十八ヶ村

熱田警察署鳴海分署

所轄地名

(愛知郡ノ内)
 鳴海町 笠寺村 星崎村 鳴尾村 豊明村 春木村 沓掛村 諸和村
 (知多郡ノ内)
 有松村 大高村
 計一ヶ町、九ヶ村

西枇杷島警察署

位置西春日井郡西枇杷島町大字下小川井

管轄地西春日井郡壹圓

西枇杷島町 枇杷島町 庄内村 金城村 杉村 清水村 六郷村 萩野村 川中村
 大野木村 比良村 上小田井村 中小田井村 新川村 西堀江村 須多口村 寺野
 村 阿原村 朝田村 清洲町 下之郷村 一場村 落合村 下十個村 上十個村
 鹿田村 九之坪村 平田村 訓原村 六ッ師村 熊之庄村 小木村 尾張村 青山
 村 多氣村 豊場村 如意村 味鏡村
 計四ヶ町、三十四ヶ村

勝川警察署

位置東春日井郡勝川村

管轄地東春日井郡壹圓

直轄地名
 勝川村 小野村 高間村 柏井村 春日井村 味美村 二城村 小幡村 和爾良村
 離丘村 小木田村 下原村 八幡村 玉川村 神坂村 不二村 内津村
 計十ヶ村

勝川警察署小牧分署

位置東春日井郡小牧町

所轄地

(東春日井郡ノ内)
 小牧町 和多里村 外山村 味岡村 境村 岩崎村 久保一色村 池林村 大野
 村 陶村 田樂村 片山村 大草村
 計一ヶ町、十二ヶ村

勝川警察署瀬戸分署

位置東春日井郡瀬戸村

所轄地名

(東春日井郡ノ内)
 瀬戸村 赤津村 八白村 下品野村 上品野村 掛川村 志談村 水野村 印場村
 新居村 大森村
 計十一ヶ村

小折警察署

位置丹羽郡小折村大字布袋野

管轄地丹羽郡一圓

直轄地名
 小折村 古知野村 榮村 太田村 秋津村 旭村 兩高屋村 東野村 豊原村 穂
 波村 時之島村 赤羽村 浮野村 青木村 淺淵村 多加森村 豊富村 三重島村
 島野村 二川村 九日市場村 岩倉村 幼村 豊秋村
 計二十四ヶ村

小折警察署犬山分署 位置丹羽郡犬山町

所轄地名 (丹羽郡ノ内)
犬山町 高雄村 岩橋村 山名村 柏森村 豊國村 和勝村 小口村 富成村 樂田村 岩田村 善師野村 今井村 羽黒村

北方警察署 位置葉栗郡北方村

管轄地葉栗郡一圓
北方村 飛保村 村久野村 小草鹿村 宮田村 瑞穂村 光明寺村 里小牧村 玉ノ井村 黒田村 大田島村 佐千原村 淺井村

一宮警察署 位置中島郡一宮町

管轄地中島郡一圓

直轄地名
一宮町 神戸村 馬寄村 開明村 奥村 三條村 日光村 起村 小信村 中島村 高井村 大徳村 明地村 祐賀村 萩原村 蒔安賀村 三輪村 妙興寺村 中島村 高井村 新明村 山形村 下津村

一宮警察署稻澤分署 位置中島郡稻澤町

所轄地名 (中島郡ノ内)
稻澤町 稻保村 一治村 大塚村 光堂村 國府宮村 國分村 四郷村 五郷村 井長谷村 三宅村 六輪村 資田村 吉田村 豊田村 梅代村 北島村 玉田村

四家村 市田村 日下部村 奥田村
計一ヶ町、二十一ヶ村

一宮警察署祖父江分署 位置中島郡祖父江村

所轄地名 (中島郡ノ内)
祖父江村 牧川村 領内村 上祖父江村 山崎村 玉野村 丸甲村 左右川村 原一色村 西島村 西鶴ノ木村 四貫村 馬飼村 拾田野村 神明津村 計十五ヶ村

津島警察署 位置海東郡津島町

管轄地海東郡一圓

直轄地名
津島町 佐依木村 八幡村 大井村 千秋村 神島田村 越治村 野間村 諸古村 神守村 篠田村 資村 大治村 白鷹村 東今宿村 春富村 森村 甚目寺村 荳津村 新居屋村 金賀木村 正則村 勝幡村 藤浪村 川淵村 草場村 計一ヶ町、二十五ヶ村

津島警察署蟹江分署 位置海東郡蟹江町

所轄地名 (海東郡ノ内)
蟹江町 西ノ森村 須成村 福田村 茶屋村 豊治村 福屋村 戸田村 萬須田村 伊福村 井和村 赤星村 益和村 新蟹江村 百高村

彌富警察署 位置海西郡彌富村大字前ヶ須

管轄地海西郡一圓

彌富村 十四山村 寶地村 飛島村 大藤村 兩國村 東市江村 市股村 川治村
立和村 五會村 早尾村 六ツ和村 八輪村 開治村

半田警察署 位置知多郡半田町

管轄地知多郡(二ヶ村ヲ除ク)一圓

直轄地名

半田町 成岩村 武豊村 布土村 富貴村 大谷村 阪井村 古塙村 樽水村 西
阿野村 新谷村 常滑村 多屋村 大野町 西之口村 榎戸村 日長村 金澤村
久米村 金山村 矢田村 東阿久比村 上阿久比村 阿久比村 藤江村 有脇村
生路村 石濱村 龜崎町 乙川村 小鈴谷村

半田警察署横須賀分署 位置知多郡横須賀町

所轄地名

横須賀町 養父村 高横須賀村 太田村 新知村 岡田村 佐布里村 加木屋村
吉田村 富木島村 緒川村 大府村 森岡村 横根村 北崎村 長草村 共和村
名和村 荒尾村 八幡村
計一ヶ町十九ヶ村

半田警察署内海分署 位置知多郡内海村

所轄地名

内海村 河和村 豊丘村 師崎村 大井村 篠島村 日間賀島村 豊濱村 山海村
野間村 奥田村 上野間村 計十二ヶ村

西尾警察署

位置幡豆郡西尾町大字錦城

管轄地幡豆郡一圓

直轄地名

西尾町 西野町村 久麻久村 平坂村 中畑村 寺津村 奥津村 西崎村 豊田村
六郷村 横須賀村 井崎村 大寶村 瀬門村 厨村 吹羽良村 室塙村 花明村
家武村 平原村 松阪村 豊國村 川崎村 御鉾村

西尾警察署一色分署 位置幡豆郡一色村

所轄地名

一色村 味澤村 (幡豆郡内) 榮生村 衣崎村 五保村 萩原村 富田村 吉田村 保定村 宮
崎村 佐久島村 幡豆村 東幡豆村

知立警察署 位置碧海郡知立町

管轄地碧海郡(四ヶ村ヲ除ク)一圓

直轄地名

知立町 牛橋村 長崎村 駒塙村 上重原村 一ツ木村 逢見村 小山村 刈谷町
逢妻村 元刈谷村 下重原村 小垣江村 吉濱村 野田村 長瀬村 福釜村 赤松
村 安城村 平貴村 中郷村 藤野村 矢作村 本郷村 畝部村 榑塚村
志貴村 和會村 上野村 若園村 壽惠野村 竹村 今村 里村 堤村 境村
計二ヶ町三十五ヶ村

知立警察署大濱分署 位置碧海郡大濱町

所轄地名

大濱町 棚尾村 (碧海郡ノ内) 志貴崎村 鷺塚村 米津村 三ツ川村 城ヶ入村 櫻井村 古井村
村 小川村 高棚村 和泉村 西端村 東端村 根崎村 高濱村 高取村 北大濱村
計一ヶ町、十七ヶ村

岡崎警察署

位置額田郡岡崎町大字傳馬

管轄地額田郡一圓

(碧海郡ノ内四ヶ村)

岡崎町 三島村 岡崎村 福岡村 坂崎村 相見村 深溝村 龍谷村 藤川村 山
中村 本宿村 豊岡村 高富村 宮崎村 巴山村 河合村 男川村 乙見村 形埜
村 常磐村 奥殿村 細川村 岩津村 大樹寺村 廣幡村 美合村 下山村
(碧海郡ノ内)
阿手美村 中島村 占部村 糟海村
計一ヶ町、三十ヶ村

御油警察署

位置寶飯郡御油村

管轄地寶飯郡一圓

御油村 赤坂村 長澤村 萩村 平幡村 穂原村 桑富村 本茂村 麻生田村 陸
美村 豊川村 牛久保村 明子村 大村 下地村 鹿管村 豊秋村 前芝村 伊奈
村 白鳥村 國府村 佐脇村 御馬村 御津村 大塚村 三谷村 豊岡村 蒲郡村
計三十ヶ村

豊橋警察署位置

渥美郡豊橋町大字札木

管轄地渥美郡一圓

直轄地名

豊橋町 豊橋村 豊岡村 大川村 細谷村 小澤村 高根村 豊南村 老津村 大
崎村 高師村 植野村 福岡村 磯邊村 牟呂村 吉田方村 花田村
計一ヶ町、十六ヶ村

豊橋警察署田原分署

位置渥美郡田原村

所轄地名

(渥美郡ノ内)

田原村 相川村 杉山村 六連村 野田村 福江村 中山村 伊良湖村 若戸村
和地村 赤羽根村 高松村 神戸村 泉村 童浦村 清田村
計十六ヶ村

富岡警察署

位置八名郡富岡村

管轄地八名郡壹圓

富岡村 山吉田村 大野村 高岡村 乘本村 日吉村 長部村 加茂村 金澤村
豊津村 橋尾村 三上村 下條村 牛川村 美米村 玉川村 嵩山村 西郷村
計十八ヶ村

新城警察署

位置南設楽郡新城町

管轄地南設楽郡壹圓

新城町 千秋村 西郷村 平井村 石座村 信樂村 長篠村 風來寺村 海老村
巴村 菅沼村 田原村 愛郷村 布里村 只持村 一色村 鹽瀬村 保永村 杉平
村 高松村 太和田村 田代村 荒原村
計一ヶ町、二十二ヶ村

田口警察署

位置北設楽郡田口村

管轄地北設楽郡壹圓

田口村 段嶺村 振草村 御殿村 三輪村 本郷村 園村 富山村 豊根村 津具村
名倉村 稻橋村 武節村
計十三ヶ村

足助警察署 位置東加茂郡足助村

管轄地東加茂郡一圓

足助村 穂積村 志賀村 小川村 松平村 豊榮村 盛岡村 大沼村 下山村 富美村 金澤村 賀茂村 伊勢神村 築羽村 介木村 生駒村 野見村 阿摺村
計十八ヶ村

舉母警察署 位置西加茂郡舉母村

管轄地西加茂郡壹圓

舉母村 梅坪村 宮口村 逢妻村 明越村 三好村 筋生村 伊保村 橋見村 廣澤村 上郷村 藤河村 高岡村 豊原村 福原村 清原村 本城村 富貴下村 石下瀬村 中野村 七重村 四谷村 平井村 寺部村 市木村 上野山村 澁川村
益富村 野見村 根川村
計三十ヶ村

● 恩給之部

● 甲第七十九號 明治十五年四月二十四日

寡婦孤兒扶助料請求ノ期ハ恩給令第六十五條及九十四條ニ掲載有之候處扶助料ヲ受クルノ寡婦死没或ハ復籍ノ際孤兒アルモノ該扶助料繼承ノ義請求ノ期限ハ同令第九十四條扶助料請求ノ期限ニ倣ヒ寡婦死没或ハ復籍ノ日ヨリ一ケ年ノ間其事情ヲ審ニシテ願出サル者ハ其權利消絶ニ屬スヘキ旨其筋ヨリ通知有之候條此旨扶助料拜受ノ者ヘ布達候事但扶助料ヲ受クル孤兒死没或ハ年齡滿限等ニテ其次子ニ移轉願ノ期限モ本文同様心得ヘシ

● 乙第四百十號 明治十五年九月二十日

郡區役所 戶長役場

本年第四十一號ヲ以巡查看守給助例公達相成候ニ付警視廳ニ於テ右施行順序別冊ノ通相定候就テハ自然受給方出願並年金請求等申出候者又ハ年金証票返納及停止致候者有之節ハ本人身分戶籍上錯誤等ノ處モ不遵候條該順序ニ照シ詳細調査ノ上願書並屆書共可差出尤年金ハ兩度ニ一時金ハ其都度回金可有之趣ニ付郡區役所戶長役場ニ於テ調印ノ節嚴密調査ノ上進達可致此旨相達候事但轉籍死亡再縁等届出候節ハ其都度可差出尤死亡又ハ公權ヲ剥奪セラレタル者ハ年金

証票返納方取計ヘシ(明治十五年乙第百五十一)

巡査 給助例施行順序

第一條 本例ニ據リ給助ヲ出願スルモノハ左ノ手續ヲナスヘシ

一年金ヲ受クヘキ者(退職及傷痍者)ハ別紙第一號書式ノ願書ニ其區戸長ノ奥印ヲ受ケ本管

廳ヲ經テ警視廳ヘ出願スヘシ

二一時給助金ヲ受クル者(祖父父母兄弟姉妹并孤兒滿二十歲已上癩癩疾者)ハ別紙第三號書式ノ願書ニ親族二名(親族ナキハ其母山)ノ連書ヲ以テ其區戸長ノ奥印ヲ受ケ本管廳ヲ經テ警視廳ヘ出願スヘシ

三療治料ヲ請求スル者ハ月末毎ニ其日數ト金額トヲ請願書ニ証記シ主治醫ノ藥價表ヲ添ヘ局部署長ヲ經テ本廳ヘ差出スヘシ

第二條 本例ニ依リ年金ヲ受クヘキ者ニハ第五號書式ノ証票ヲ附與スヘシ

第三條 年金ハ年兩度決期ニ東京ハ警視廳其他ハ本人所在ノ管廳ニ於テ半額宛テ下附スルモノトス

但受給者ハ第六號書式金額領收証ニ所在區戸長ノ奥印ヲ受ケ証票ヲ添ヘ差出スヘシ

尤モ代理人ヲ差出スルハ委任狀ヲ持參セシム

第四條 年金ヲ受クル者本例第八條第九條ノ各項ニ該ルカ又ハ轉籍死亡再縁等戸籍上異動アルキハ所在區戸長ノ奥印ヲ受ケタル書面ヲ以其管廳ヲ經山シ速ニ警視廳ニ届出ヘシ

但本例第八條第一項ニ該ルカ若シクハ死亡再縁等ニ係リ給助ヲ受クルノ權理消滅シ

タル時ハ該願書ニ年金証票ヲ添ヘ之ヲ返納スヘシ
第五條 職務ノ爲メ負傷シタル者及ヒ負傷後若クハ傳染病ニ罹リ死亡シタル者ノ証明ハ警視廳長ノ診斷書ニ限ルモノトス尤傳染病ニ罹ル者急遽ノ場合ニ在テハ主治醫ノ診斷書ニ醫長ノ檢印ヲ受ケ差出スヘシ
但他府縣ニ於テ負傷ニ原因シ死亡ニ係ル者或ハ孤兒滿二十歲已上ニシテ癩癩疾者ノ証明ハ其最寄公立病院長又ハ開業醫ノ診斷書ヲ以テ差出スヘシ

(第一號) (用紙美濃紙)
退職 給助願書
傷痍 給助願書
私儀滿何年間勤續(或ハ今般負傷候處何等傷ニ策定相成)候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度(或ハ別紙診斷書相添)此段奉願候也

明治 年 月 日
警視總監何某殿
右當區内本籍之者ニ相違無之候也
明治 年 月 日
何府郡 何町 何番地 族籍
元何々 詰巡査又ハ看守 何
何年 何月 日生 某印
何町戸長 何 某印

(第二號)

(用紙美濃紙)

私(夫又ハ)巡査何某何々之爲メ何年何月何日死没候ニ就テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡
診斷書及戸籍書相添此段奉願候也

明治 年 月 日

何 區 郡 長
何 某 印

何 縣 何 區 何 町 何 番 地 族 籍
右 何 某 孤 兒

何 年 何 月 生
親 族 同 族 籍 何 某 印
同 同 同 某 印

右當郡區內本籍之者ニ相違無之候也

警視總監何某殿

明治 年 月 日

何 町 戶 長
何 區 郡 長
何 某 印

第三號

(用紙美濃紙)

死亡給助願

今般巡査何某職務ノ爲メ(或ハ負傷後)何年何月何日死亡候處私共儀從來死者ニ因リ生計相
營ニ罷在候ニ付テハ相當ノ御給助被成下度別紙死亡診斷書及戸籍書相添親族連署ヲ以テ
此段奉願候也

明治 年 月 日

何 某 印

何 縣 何 區 何 町 何 番 地 族 籍
故 巡 査 何 某 祖 父 母 父 母 又
看 守 何 某 兄 弟 姉 妹

親 族 同 族 籍 何 某 印
同 同 同 某 印

右當郡區內本籍之者ニシテ巡査看守給助例第八條第九條ニ該ラサル者ニ候也

警視總監何某殿

明治 年 月 日

何 町 戶 長
何 區 郡 長
何 某 印

族	籍	華士族平民	姓	何
戶主	歟	何年何月何日相續 或ハ別居(養實)子	名	某
誕生年月日		年號何年何月何日生		明治何年何月何年何月
本籍住所		何府何郡何町何番地 或ハ何某方同居		
寄留住所		同		
母父		同某 年號何年何月何日生		
養	母父	同同		
祖	母父	同同		
妻		某 何府縣何郡何町何村何番地何某何女 年號何年何月何日生		何年何月何日入籍 同 婚 姻
嗣	子	某 年號何月何日生		
次	女男	某某 同同		
姉兄	姉弟	同同		

右當郡内戶籍簿之通相違無之候也

明治 年 月 日

何町戸長

某印

何區長

某印

(第四號)

(用紙美濃紙)

廢篤疾給助願

私 儀

明治 年 月 ヰリ御給助相受ケ罷在候處本月ヲ以テ滿二十歳ニ相至候〜トモ從來廢篤疾ニ有之候間猶相當ノ御給助被成下度別紙醫員診斷書相添此段奉願候也

明治 年 月 日

何府何郡何町何番地族籍
故 巡 査 何 某 (長 男 女)

某印

何 何年何月生

同 族籍

某印

同 親

某印

明治十五年

恩給之部

四百十七

警視總監何某殿
右當郡内本籍ノ者ニ相違無之候也

明治 年 月 日

何町戸長 何
何區郡長 何
某印

(第五號)

給助之證
第何號

右ハ滿何年間勤繳(故巡査看守何某
為職務負傷)為職務死亡
ニ付與スル者也
候ニ付金何圓ヲ給與ス依テ此證

何府縣族籍

巡査 何

何年何月生

何府縣族籍故

巡査 何某妻(長男又ハ
養子等)

何年何月生

何府縣族籍
巡査 何

何年何月生

何府縣族籍故
巡査 何某妻(長男又ハ
養子等)

何年何月生

給助之證
第何號
此證ハ書入
賣ハナ
買ナ
讓禁
與ス
入質

右ハ滿何年間勤繳(故巡査看守何
為職務負傷)為職務死亡
ニ付與スル者也

年月日

警視總監 何
内局長 何
何等警視 何
會計局長 何
何等警視 何

某印
某印
某印

(第六號)

(用紙美濃紙)

何給助金領収証

本年上半季分何給助金何拾圓御下付相成正ニ領収仕候也

明治 年 月 日

何府縣族籍
何區郡長 何

元巡査 何

某印

或ハ故巡査看守
何某妻(孤兒)

某印

明治十五年

恩給之部

四百十九

警視總監何某殿

右ハ現今當區内本籍(或ハ寄留)居住之者ニ相違無之候也

明治 年 月 日

何町	何	某	印
何村	何	某	印
何郡	何		
何區	何		
何長	何		
何	何		

●甲第七十五號

明治十五年十一月十八日

陸軍恩給又ハ扶助料ヲ受ケタル者氏名ヲ改メシ時ハ本籍戸長ノ認印セシ届書ニ恩給登録寫帖ヲ副ヘ其金員ヲ受領スヘキ府縣廳ニ出シ府縣廳ニ於テハ登録寫帖ノ裏面ヘ其氏名並年月日ヲ記載シ長官署名捺印シテ之ヲ本人ニ下付スヘキ旨太政官ヨリ達有之候條此旨布達候事

●乙第五十四號

明治十五年十月九日

郡區役所 戸長役場

本年當縣乙第四百十號達巡查看守給助例施行順序第一條第二項本官廳ヲ經テノ下及ヒ第四條其官廳ヲ經由シノ下(東京府ヲ除ク)ノ六字ヲ挿入候條此旨更ニ相違候事

●甲第七十二號

明治十六年十月六日

陸軍恩給令別冊之通改正陸軍罷役俸恤金令ハ廢止候旨太政官ヨリ達有之候條此旨布達候事(本年十一月甲第一號及全年六月三號ヲ以テ恩給令中改正)
(明治十八年十二月甲第百十一號恩給表略)

陸軍恩給令

陸軍恩給令目錄

- 第一章 總則
- 第二章 恩給及ヒ増加
- 第三章 寡婦(孤兒)扶助料
- 第四章 服役年算則
- 第五章 從軍年算則
- 第六章 恩給支給順序
- 第七章 賑恤金
- 第八章 給助金

陸軍恩給令

第一章 總則

第一條 陸軍恩給ハ陸軍諸種ノ勤勞ニ依リテ之ヲ給スル者ナリ其種類別テ左ノ五項トス

- 一 退職恩給
 - 二 免除恩給
 - 三 寡婦孤兒扶助料
 - 四 賑恤金
 - 五 給助金
- 第二條 退職恩給免除恩給寡婦扶助料ハ本人ノ終身孤兒扶助料ハ男女共ニ二十歳ニ至ル迄之ヲ給シ賑恤金給助金ハ一時限り之ヲ給ス

第三條 軍人ハ年限ノ年齢ニ達スレハ現役ヲ辭シテ恩給ヲ受ルル例トス其年限左ノ如シ

會計監督 軍醫監 藥劑監 六十

憲兵大中佐 會計副監督 軍醫正 藥劑正 馬醫監 五十七

步騎砲工輜重兵大中佐 憲兵少佐 會計監督補 會計一等軍吏 五十四

一等軍醫 一等藥劑官 一等馬醫 會計二等軍吏 二 二等軍醫 五十一

步騎砲工輜重兵少佐 憲兵大尉 砲工兵上等監護 會計三等軍吏 三等軍醫 四十八

二等藥劑官 二等馬醫 憲兵中少尉 砲工兵監護 砲兵監守 四十五

步騎砲工輜重兵大尉 憲兵中少尉 會計三等軍吏 砲兵監守 四十五

三等藥劑官 二等馬醫 軍樂長 砲工兵監護 砲兵監守 四十五

砲兵監査 諸工長 諸工下長 憲兵下士 會計書記 看護長 四十五

步騎砲工輜重兵中少尉 軍樂手 憲兵下士 會計書記 看護長 四十五

馬醫生 軍樂次長 軍樂手 憲兵卒 會計卒 看護卒 樂生 四十

步騎砲工輜重兵下士 憲兵卒 會計卒 看護卒 樂生 四十

步騎砲工輜重兵卒 憲兵卒 會計卒 看護卒 樂生 三十五

第四條 軍人定期ノ年齢ニ達スト雖モ前途尙ホ任用ニ堪ヘ若クハ材能特抜又ハ老練者ヲ要スル職務ニ在ル者ハ仍ホ留任ヲ命スルコト得但強テ現役ヲ辭スル者ハ此限ニアラス

第五條 上長官士官准士官未タ年限ノ年齢ニ達セスト雖モ服役實期十一年以上ノ者ニシテ服役ニ堪ヘザルヲ認メタル時ハ士官以上ハ陸軍卿准士官ハ其所管長官旨ヲ諭シテ現

役ヲ退キ恩給ヲ願ハシムルコトアル可シ

第六條 恩給ハ公權剝奪ノ時ハ全ク之ヲ止メ左ノ各項ニ該ル時ハ其時間ノミ之ヲ停ム

一 公權停止ノ時

二 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時

三 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第七條 恩給ヲ受ケタル者再ヒ現役ニ就キ若クハ文官ニ任シ俸給ヲ受クル時ハ其間該恩給ヲ停ム但其負傷增加恩給ハ仍ホ之ヲ給ス

第八條 寡婦(孤兒)扶助料ハ當該軍人死歿ノ日 戰地等ニテ死没ノ者ハヨリ一箇年間願出サル者ハ其權利消絶ス

第九條 恩給及ヒ扶助料ハ一箇年以上其金額ノ受領ヲ怠ル時ハ其怠リタル年間ノ金額ハ之ヲ給セズ

第十條 恩給及ヒ扶助料ノ金額計算ニ就キ違算アリト思惟スル時ハ初メテ金額ヲ受領セシ日ヨリ三箇月以内ニ管轄地方廳ヲ經テ陸軍卿ニ上申ス可シ若シ此期限ヲ過クル時ハ之ヲ受理セス

第二章 恩給及ヒ増加

第十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十一條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十二條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十三條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十四條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十五條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十六條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十七條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十八條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第十九條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

第二十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メニ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ之ヲ失フニ等ト認ムル者又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ非常ノ勢動及ヒ困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ健康ヲ妨害シ全ク職務ニ堪ヘサルニ至リ其証據明亮ニシテ退職スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス

其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト甲號表面ノ如シ但十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ其十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十一條 免除恩給ハ下士及ヒ卒服役實期十一年以下ニシテ定限ノ年齢ニ達シ或ハ服役滿期トナリ或ハ疾病ノ爲メ免官若クハ免役スル者ニ之ヲ給ス

前條第二項ニ掲グルカ如キ傷痍疾病ヲ受ケ永久健康ヲ妨害シ全ク兵役ニ堪ヘス其証據明亮ニシテ免官若クハ免役スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス

其免除恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト乙號表面ノ如シ但十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十二條 准士官以上傷疾ヲ受クルト雖モ尙ホ奉職セシメ後日退職スル者ハ現官等ニ依リ恩給ヲ給ス但負傷増加恩給ハ負傷當時ノ官等ニ依リ之ヲ給ス

第十三條 傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ願出ル者ハ其原因症候トモ詳細之ヲ開陳ス可シ
第十四條 傷痍疾病ヲ受ケシ事故及ヒ其原因ハ見証證書又ハ公文若クハ查問會議口供書

ノ寫ヲ以テ之ヲ證明ス可シ
第十五條 傷痍疾病不治ノ狀ハ陸軍病院長及ヒ主任醫官(地方病院ニ於テ治療ヲ受ケシ者ハ其院長并ニ主任醫師)ノ診斷證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ

其診斷證書ハ傷痍疾病ノ原因症候及ヒ其治療方法ヲ述ヘ以テ不治ノ狀ヲ詳悉ス可シ病院ニ就キ治療ヲ受ケサル者ト雖モ陸軍病院長若クハ地方病院長ノ診斷書ヲ要ス

第十六條 傷痍疾病不治ノ狀ハ軍醫若クハ地方醫師ノ證書ニ依ルト雖モ其軍務ニ堪ヘサルヤ否ヤハ當該所管ニ於テ檢査判定シ尙ホ陸軍部長ノ審査ヲ經テ之ヲ陸軍卿ニ移ス可シ陸軍卿ハ更ニ軍醫本部ニ下シテ覆覈セシメ以テ之ヲ決定ス

第十七條 恩給ハ軍人ノ現官階ニ依リ之ヲ給ス但下士以上其官階ニ進ミ未タ進級條例ノ停年最下限ノ半ニ至ラスシテ退職免官ヲ願フ時ハ前官ニ準シテ之ヲ給ス其戰闘若クハ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ或ハ戰地ニ於テ受タル疾病ノ爲メ恩給ヲ給スルハ此限ニアラス

第十八條 准士官以上退職恩給ヲ願フ時所管長官ハ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ニ於テ直ニ休暇ヲ命ス下士卒免除恩給ヲ願フ時亦該長官同上ノ日ニ於テ直ニ免官若クハ免役ス可シ

第十九條 戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ恩給ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス

明治十六年 恩給之部 四百二十五

- 一 兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者
 - 二 前項ニ等シキ傷痍ヲ受ケシ者
 - 三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フニ至ル者
 - 四 前項ニ等シキ傷痍ヲ受ケシ者
 - 五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者
 - 六 前項ニ等シキ傷痍ヲ受ケシ者
- 第二十條 傷痍疾病ニ依リテ恩給ヲ受ケ引續キ重症ニ趨キ或ハ現役ヲ離レシ後重症ニ趨キタル者左項ノ期限内ニ願出ル時ハ檢査ノ上事實相違ナキニ於テハ更ニ恩給ヲ給シ或ハ負傷増加恩給ヲ給ス可シ但更ニ恩給ヲ願フハ現役ヲ離ルノ際其傷痍ノ爲メ服役シ難キ確定ヲ得タル者ニ限ル
- 一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ二箇年
 - 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ或ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ三箇年
- 第三章 寡婦(孤兒)扶助料
- 第二十一條 寡婦扶助料ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス其給額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ緣故トニ依リテ差アリ
- 一 戰闘或ハ公務ノ爲メ死歿シ或ハ之ニ依リテ受ケタル傷痍ニ原因シテ死歿シ又ハ戰

- 地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ非常ノ勞動及ヒ困苦ヲ忍ビ勸務ニ從事シ爲メニ發病死歿シ又ハ平時當務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シ死歿シタル軍人ノ寡婦
- 二 退職若クハ免除恩給ヲ受ケタル後或ハ之ヲ受ケ可キ權ヲ有シテ死歿シタル軍人ノ寡婦
- 其扶助料ノ額第一項ニ該ル者ハ丁號表面ニ依リ第二項ニ該ル者ハ戊號表面ニ依ル
- 第二十二條 戰闘及ヒ公務ノ爲メ傷痍ヲ受クルト雖モ其傷痍ニ原因セサル他病ニテ死歿シタル軍人ノ寡婦ハ扶助料ヲ給セス
- 第二十三條 戰闘中踪跡ヲ失フ者其死亡公務ニ原因セシニ相違ナキヲ確認スル時ハ第二十一條第一項ヲ適用ス
- 第二十四條 寡婦ハ陸軍簿籍ニ登記セシ者ニシテ其夫ノ現役ヲ去ルノ時ヨリ一箇年以前ニ嫁シタル者ニ限ル可シ但前妻若クハ現時ノ妻ニ生レタル兒子アレハ嫁時年月ノ查駁ヲ要セス又戰死或ハ傷痍疾病ニ原因シテ死シタル軍人ノ寡婦ハ嫁時ノ年月ニ關セズ負傷又ハ發病前ニ婚配セル者ニ限ル
- 第二十五條 寡婦其家ヲ去リ若クハ再婚スル時ハ扶助料ヲ受クルノ權消絶ス
- 第二十六條 寡婦死去シ或ハ前條ノ事故アリテ扶助料ヲ受クルノ權消絶スル時ハ當該軍人ノ孤兒(嫡子庶子養子ヲ論セス戸籍ニ登記セシ者但養子ハ死傷前ノ養子ニシテ男女

ニ拘ハラス家名ヲ繼襲スル者ニ限ルニシテ其家名繼襲ノ者ニハ寡婦ト等シキ扶助料
其他ノ者ニハ其額三分ノ二ヲ給ス又當該軍人ノ死シタル時孤兒ノ母在ラサル者ハ直ニ
其孤兒ニ給ス

第二十七條 孤兒扶助料ハ數子アル時ハ其年長ナル者ニ給シ權利消絶ノ期ニ至レハ順次
年少者ニ及フ但二十歳未滿ト雖モ官署ニ奉職シ俸給ヲ受ケ或ハ其戶籍ヲ去リ或ハ男女
共ニ嫁娶シタル時ハ其權消絶ス

第二十八條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレハ時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受
ク可キ者ニ之ヲ給ス

第二十九條 軍人死歿シ扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒ナク又扶助ヲ受クル寡婦再嫁若クハ
復籍シテ孤兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養
スルノ子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ寡婦ニ相當セサル扶助料三分ノ二ヲ終身給スルコト
アル可シ

其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死歿若クハ權利消絶ス
ルコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ
之ヲ轉給ス可シ但父及ヒ祖父ハ年齡五十歳以上其未滿ハ癡疾又ハ不具ニシテ產業ヲ營
ムコト能ハサル者又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ且孰レモ軍人死歿ノ際年齡五十歳以
上ニシテ其戶籍ニ在ル者ニ限ル

第三十條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレハ其後見
人若シ親族ナキ時ハ同郷ノ戶主二名連署シ其郡區長戶長ノ與印セル願書ヲ以テ之ヲ地
方廳ニ呈ス可シ

其夫若クハ父戰死其他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ者ハ見證證書若クハ公文ノ内其一ヲ證
據ニ供スヘシ其傷痍疾病ニ基ク者ハ該書類ノ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ診斷證書ヲ
證據ニ供ス可シ但地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ地方官吏ノ檢視證書ヲ添附シ死
歿ノ原因ヲ證明ス可シ

第四章 服役年算則

第三十一條 服役年ノ始期及ヒ終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ル可シ

- 一 明治四年八月ヲ以テ始期トス故ニ其以前ヨリ勤仕ノ者ト雖モ總テ同月ヲ以テ始ト
ス但明治四年八月以前ヨリ勤仕シタル者ハ明治四年七月ノ現官等ニ對スル俸給ノ
半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別
ニ一時賜金トシテ給與ス
- 二 下士以上ハ其初任當日ヨリ起算ス
- 三 徵兵ハ入營初日即チ毎年四月二十日ヨリ起算ス
- 四 壯兵其他諸種ノ方法ヲ以テ軍籍ニ入りタル者ハ其就役ノ當日ヨリ起算ス
- 五 上長官士官准士官ハ退職恩給ノ願書該長官ヨリ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ヲ以テ

終期トス

六 下士卒ハ免官免役ノ日ヲ以テ終期トス

第三十二條 十七歳未満ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セス

士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス但非職中地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ従事シ其給料ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第三十三條 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナル者ハ海軍服務ノ年月ヲ通算ス又文官轉シテ陸軍軍人トナリタル者并ニ陸軍軍人ノ現役ニ在ラスシテ文官ヲ兼任シ文官ノ俸給ヲ受クル者恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄ハ其文官奉仕中ノ年月ハ十六箇月ヲ以テ一年トシ之ヲ通算ス

第三十四條 豫備後備ニ在ルノ月日ハ服役實期ニ算セスト雖モ復習ノ外現役ニ徵集スルコトアル時ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十五條 退職免役ノ後再ヒ現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其歸營以後ノ現役ニ通算ス

第三十七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス

第三十八條 戰時虜獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル月日ハ猶ホ平時現役ニ在ルト同シク之ヲ算ス

第五章

從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スル者トス但其服役實期十一年未満ニシテ退身スル者ニハ之ヲ加算セス

第四十條 從軍年加算ノ法ハ左ノ各項ニ依ル可シ

一 日本國外ノ戰地ニ於テ服役スル時ハ二箇年ヲ増加ス

二 出征軍ニ編入セラレ或ハ合圍若クハ臨戰地境內ニ於テ服役セシ時又戰時平時ヲ論セズ日本國外ノ地ニ於テ鎮戍ノ軍隊ニ在リシ時及ヒ海戰ニ當リ其船中ニ在リシ時ハ一箇年ヲ増加ス

三 海戰ニ當リ海岸防禦ニ従事セシ時ハ半箇年増加ス

第四十一條 出征軍ノ定メニアラスシテ一時出兵ノ時ト雖モ出征軍ト視做ス可キ場合ニ於テハ陸軍卿上請シテ從軍年ニ算入スルヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從フト雖モ重複シテ之ヲ算セス但其一年以上ニ跨リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四十三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ檢閱監軍部長ヲ經テ陸軍卿ニ呈シ陸軍卿之ヲ太政官ニ上申ス

寡婦(孤兒)扶助料ノ願書ハ居住地地方廳ヨリ内務卿ニ呈シ内務卿之ヲ陸軍卿ニ移シ陸軍卿ヨリ太政官ニ上申ス

第四十四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ内務大藏
陸軍三卿ニ下シ内務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ
證ト爲サシム

恩給登錄寫帖ヲ下付スルノ前ニ於テ陸軍卿ハ其恩給ヲ受ク可キ本人ニ計算書ヲ下シ以
テ其算則ヲ示ス

第四十五條 退職及ヒ免除恩給并ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル

一 准士官以上ハ計算書日附ノ翌日

二 下士卒ハ免官免役ノ翌日

三 寡婦(孤兒)扶助料ハ當該軍人死去ノ習日

第四十六條 恩給及ヒ扶助料ハ一月四月七月十月ニ前三箇月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人
在所ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ證セル本
人生存書及ヒ金額受領證書ト引替ニ其金額ヲ交付ス

恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三箇
月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ期日ヲ過クル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之レヲ交
付ス

第四十七條 恩給若クハ扶助料ヲ受クル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳其恩給登錄寫帖
ヲ收メテ内務省ニ出シ内務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省陸軍省ニ報告ス但扶

助料移轉ス可キ者アル時ハ恩給登錄寫帖ヲ收メス更ニ扶助料請願ノ証ト爲サシム

第四十八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ失亡スル時ハ速ニ其旨
ヲ届出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ証明書ヲ下付ス

第七章 賑恤金

第四十九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス

一 下士卒戰鬪或ハ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ服役ニ堪ヘズ免官除隊スト
雖モ第十九條末項ヨリ輕傷ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ハ其官階ニ應スル負傷増
加表第五項ノ一箇年分ヨリ少カラズ十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

二 下士卒平時公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷増加
表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未滿ノ者公務ノ故ニアラスシテ傷痍疾病ヲ受ケ
至ク服役ニ堪ヘズ其營業ヲ妨クルニ至ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷
ヲ受ケ若クハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負傷増加表第六項ノ一箇年分ヨリ
少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

四 扶助料ヲ受クヘキ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクテ從來死者ニ依リ生活セル二十歳
未滿又ハ二十歳以上ト雖モ癩疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ教育スルノ親族ナキ者ハ其
寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

第五十條 前條ノ賑恤金ハ本人ノ情願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ陸軍卿之レヲ詮議シ
太政官特別ノ裁可ヲ以テ之レヲ下賜ス其金額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ輕テ之レヲ下付
ス

第八章 給助金

第五十一條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ又ハ五年以上勤績キノ後罷役或ハ免官トナ
リ恩給若クハ扶助料ヲ賜ハラサル者ニ之ヲ給ス其給額ハ已號表面ニ依ル但懲戒ノ爲メ
免官或ハ刑名宣告ニ至ラサルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セス

●甲第七十三號 明治十六年十月六日

海軍恩給令別冊之通改正從前海軍退隱令ハ廢止候旨太政官ヨリ達有之候條此旨布達候事
〔本年十一月甲第一〕〔明治十七年五月甲第三十一〕〔明治十八年十二月甲第百〕〔恩給表略〕
〔八十八號參看〕〔九號ヲ以テ恩給令中改正〕〔十三號ヲ以テ恩給令中改正〕

海軍恩給令

海軍恩給令目錄

- 第一章 總則
- 第二章 恩給及ヒ増加
- 第三章 寡婦(孤兒)扶助料
- 第四章 服役年算則
- 第五章 從軍年算則

第六章 恩給支給順序

第七章 賑恤金

第八章 給助金

海軍恩給令

第一章 總則

第一條 海軍恩給ハ海軍諸種ノ勤勞ニ依リテ之ヲ給スル者ナリ其種類別テ左ノ五項トス

- 一 退職恩給
- 二 退役恩給
- 三 寡婦(孤兒)扶助料
- 四 賑恤金
- 五 給助金

第二條 退職恩給退役恩給寡婦扶助料ハ本人ノ終身孤兒扶助料ハ男女共ニ二十歳ニ至ル
迄之ヲ給シ賑恤金扶助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第三條 軍人ハ年限ノ年齢ニ達スレハ退職退役シテ恩給ヲ受クルヲ例トス其定限左ノ如
シ

- 軍醫大監 主計大監 六十五
- 機關大監 機關中監 軍醫中監 軍醫少監 主計中監 主計少監 六十

大佐	中佐	機關少監	大軍醫	中軍醫	大主計
中主計	掌砲上長	水兵上長	木工上長	機關工上長	五十五
掌砲長	水兵長	木工長	機關工長	樂長	
少佐	大機關士	中機關士	少軍醫	少主計	五十
大尉	中尉	少機關士	卒		四十五
少尉	軍醫補	主計補			四十
少尉補	機關士補				三十

第四條 軍人定限ノ年齢ニ達スト雖モ前途尙ホ任用ニ堪ヘ若クハ材能特抜又ハ老練者ヲ要スル職務ニ在ル者ハ仍ホ留任ヲ命スルコトアル可シ但強テ現役ヲ辭スル者ハ此限ニアラス

第五條 軍人未タ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ服役實期十一年以上ノ者ニシテ服役ニ堪ヘサルヲ認メタル時ハ海軍卿旨ヲ諭シテ現役ヲ退キ恩給ヲ願ハシムルコトアル可シ

第六條 恩給ハ公權剝奪ノ時ハ至ク之ヲ止メ左ノ各項ニ該ル時ハ其時間ノミ之ヲ停ム
 一 公權停止ノ時
 二 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時
 三 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第七條 恩給ヲ受ケタル者再ヒ現役ニ就キ若クハ文官ニ任シ俸給ヲ受ケル時ハ其間該恩給ヲ停ム但其負傷増加恩給ハ仍ホ之ヲ給ス

第八條 寡婦若クハ孤兒扶助料ハ當該軍人死歿ノ日(戰地等ニテ死歿ノ者ハ海軍官憲ヨリ報告ノ日)ヨリ一箇年間願出サル時ハ其權利消絶ス
 恩給及ヒ給助料ハ一箇年以上其金額ノ受領ヲ怠リタル時ハ其怠リタル間ノ金額ハ之ヲ給セス

第九條 恩給及ヒ扶助料ノ金額計算ニ就キ違算アリト思惟スル時ハ初メテ金圓ヲ受領セシ日ヨリ三ヶ月以内ニ管轄地方廳ヲ經テ海軍卿ニ上申ス可シ若シ此期限ヲ過クル時ハ之ヲ受理セス

第二章 恩給及ヒ増加

第十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ疾病ニ罹リ査問會議ノ處決若クハ海軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス
 戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メニ傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ之ヲ失フニ等シト認ムル者又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ航海中若クハ戰地ニ於テ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顯ミルコト能ハスシテ非常ノ勞動及ヒ困苦ヲ忍ビ勩務ニ從事シ爲メニ健康ヲ妨害シ全ク職務ニ堪ヘサルニ至リ其證據明亮ニシテ退職スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス
 其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト甲號表面ノ如シ但十一年未滿ノ者ニ給ス可キ恩給ハ其十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十一條 退職恩給ハ下士退役恩給ハ卒服役實期十一年以上ニシテ年限ノ年齢ニ達シ或

ハ服役滿期トナリ或ハ疾病ノ爲メ退職若クハ退役スル者ニ之ヲ給ス

前條第二項ニ掲グルカ如キ傷痍疾病ヲ受ケ永久健康ヲ妨害シ全ク兵役ニ堪ヘス其證據
明亮ニシテ退職若クハ退役スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス

其退職退役恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト乙號表面ノ如シ但
十一年未滿ノ者ニ給ス可キ恩給ハ十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十二條 軍人傷痍ヲ受クルト雖モ尙ホ奉職セシメ後日退職若クハ退役スル者ハ現官等
ニ依リ恩給ヲ給ス但負傷増加恩給ハ負傷當時ノ官等ニ依リ之ヲ給ス

第十三條 下士以上ノ恩給願書ハ所管長官ヲ經テ海軍卿ヘ卒ハ所管長官ヘ其履歷書ヲ副
呈ス可シ

第十四條 傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ願出ル者ハ其原因症候等詳細之ヲ開陳ス可シ

第十五條 傷痍疾病ヲ受ケシ事故及ヒ其原因ハ見證證書又ハ公文若クハ查問會議口供書
ノ寫ヲ以テ之ヲ證明ス可シ

第十六條 傷痍疾病不治ノ狀ハ海軍病院長並ニ主任醫官（地方病院ニ於テ治療ヲ受ケシ
者ハ其院長並ニ主任醫師）ノ診斷證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ
其診斷證書ハ傷痍疾病ノ原因症候及ヒ其治療方法ヲ述ヘ以テ不治ノ狀ヲ詳悉ス可シ
病院ニ就キ治療ヲ受ケサル者ト雖モ海軍病院長若クハ地方病院長ノ診斷證書ヲ要ス

第十七條 傷痍疾病不治ノ狀ハ軍醫若クハ地方醫師ノ證書ニ依ルト雖モ其軍務ニ堪ヘサ
ルヤ否ヤヲ當該ノ所管ニ於テ檢査判定シ之ヲ海軍卿ニ呈スヘシ海軍卿ハ臨時調査委員
ヲ選定シ更ニ覆覈セシメ以テ之ヲ決定ス

第十八條 下士以上恩給ヲ願フ時ハ所管長官其海軍卿ニ呈スル進達書ノ日ニ於テ直ニ休
暇ヲ命シ卒恩給ヲ願フ時亦所管長官同上ノ日ニ於テ直ニ免役ス可シ

第十九條 凡恩給ハ軍人ノ現官階ニ依リ之ヲ給ス但其官階ニ進ミ未タ滿十八箇月ニ至ラ
スシテ退職若クハ退役ヲ願フ時ハ前官ニ準シテ之ヲ給ス其戰闘又ハ公務ノ爲メ傷痍ヲ
受ケ或ハ戰地若クハ航海中ニ於テ受ケタル疾病ノ爲メ恩給ヲ給スルハ此限ニアラス

第二十條 戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ恩給
ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用ヲ失フニ
等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス

一 兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者

二 前項ニ等シキ傷痍ヲ受ケシ者

三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フニ至ル者

四 前項ニ等シキ傷痍ヲ受ケシ者

五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者

六 前項ニ等シキ傷痍ヲ受ケシ者

第二十一條 傷痍疾病ニ依リテ恩給ヲ受ケ引續キ重症ニ趨キ或ハ現役ヲ離レシ後重症ニ趨キタル者左ノ期限内ニ願出ル時ハ檢査ノ上事實相違ナキニ於テハ更ニ恩給ヲ給シ或ハ負傷増加恩給ヲ給ス可シ但更ニ恩給ヲ願フハ現役ヲ離ル、ノ際其傷痍ノ爲メ服役シ難キ確定ヲ得タル者ニ限ル

- 一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ二ケ年
- 二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ或ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ三ケ年

第三章 寡婦(孤兒)扶助料

第二十二條 寡婦扶助料ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス其給額ハ當該軍人ノ官階ト死歿ノ緣故トニ依リテ差アリ

- 一 戰闘或ハ公務ノ爲メ死歿シ或ハ之ニ依リテ受ケタル傷痍ニ原因シテ死歿シ又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ航海中若クハ戰地ニ於テ非常ノ勞動及ヒ困苦ノ勤務ニ服シ爲メニ健康ヲ害セラレ發病終ニ死歿シ又ハ平時當務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染死歿シタル軍人ノ寡婦
- 二 退職若クハ退役恩給ヲ受ケタル後或ハ之ヲ受ク可キ權ヲ有シテ死歿シタル軍人ノ寡婦

其扶助料第一項ニ該ル者ハ丁號表面ニ依リ第二項ニ該ル者ハ戊號表面ニ依ル

第二十三條 戰闘若クハ公務ノ爲メ傷痍ヲ受クルト雖モ其傷痍ニ原因セサル他病ニテ死歿シタル軍人ノ寡婦ハ扶助料ヲ給セス

第二十四條 戰闘中踪跡ヲ失フ者其死亡公務ニ原因セシニ相違ナキヲ確認スル時ハ第二十二條第一項ヲ適用ス

第二十五條 寡婦ハ海軍簿籍ニ登記セシ者ニシテ其夫ノ現役ヲ去ルノ時ヨリ一箇年以前ニ嫁シタル者ニ限ル可シ但前妻若クハ現時ノ妻ニ生レタル兒子アレハ嫁時年月ノ查厥ヲ要セス又戰死或ハ傷痍疾病ニ原因シテ死シタル軍人ノ寡婦ハ嫁時ノ年月ニ關セス負傷又ハ發病前ニ婚配セシ者ニ限ル

第二十六條 寡婦其家ヲ去リ若クハ再婚スル時ハ扶助料ヲ受クルノ權消絶ス

第二十七條 寡婦死去シ或ハ前條ノ事故アリテ扶助料ヲ受クルノ權消絶スル時ハ當該軍人孤兒(嫡子庶子養子ヲ論セス戸籍ニ登記セシ者但養子ハ死傷前ノ養子ニシテ男女ニ拘ハラズ家名ヲ繼襲スル者ニ限ル)ニシテ其家名繼襲ノ者ニハ寡婦ト等シキ扶助料其他ノ者ニハ其額三分ノ二ヲ給ス又當該軍人ノ死シタル時孤兒ノ母在ラサル者ハ直ニ其孤兒ニ給ス

第二十八條 孤兒扶助料ハ數子アル時ハ其年長ナル者ニ給シ權利消絶ノ期ニ至レハ順次年少ナル者ニ及フ但二十歳未滿ト雖モ官署ニ奉職シ俸給ヲ受ケ或ハ其戸籍ヲ去リ或ハ男女共ニ嫁娶シタル時ハ其權消絶ス

第二十九條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラル、時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受ク可キ者ニ之ヲ給ス

第三十條 軍人死歿シ扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再嫁若クハ復籍シテ孤兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ終身寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ給スルコトアル可シ

其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死歿若クハ權利消絶スルコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此例ニ依リ之ヲ轉給ス可シ但父及ヒ祖父ハ年齡五十歲以上其未滿ハ癱疾及ヒ不具ニシテ產業ヲ營ムコト能ハサル者又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ其孰レモ軍人死歿ノ際年齡五十歲以上ニシテ其戸籍ニ在ル者ニ限ル

第三十一條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレハ其後見人若シ親族ナキ時ハ同郷ノ戸主二名連署シ其郡區長戸長ノ與印セシ願書ヲ以テ地方廳ニ進達ス可シ但恩給登錄寫帖アレハ之ヲ添附ス可シ

其夫若クハ父戰死其他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ時ハ死亡報告若クハ死亡證書若クハ他ノ公文ノ内其一ヲ證據ニ供シ其傷痕疾病ニ起因スル者ハ該書類ノ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ診斷書ヲ證據ニ供ス可シ但地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ地方官吏ノ檢

視證書ヲ添附シ死歿ノ原因ヲ詳細證明ス可シ海軍卿ハ之ヲ調査委員ニ下シ其事實ヲ調査セシメ以テ決定ス

第四章 服役年算則

第三十二條 服役年ノ始期及終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ル可シ

一 准士官以上ニテ四上長四長及ヒ樂長ヲ除クノ外ハ初任ノ日四上長四長及ヒ樂長以下ハ四等卒及ヒ樂生タルノ日ヲ以テ服役年ノ始期トス

但准士官以上ハ明治四年八月以前下士以下ハ明治二年五月以前准卒ハ海軍定員ニ准セサル以前ハ服役年ニ算入セス然レモ其以前ヨリ勤仕シタル者ハ其算入期ノ前月ニ於ケル現官等ニ對スル俸給ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシテ給與ス

二 下士以上ハ退職恩給ノ願書ヲ所管長官ヨリ海軍卿ニ呈スル進達書ノ日卒ハ退役ノ日ヲ以テ終期トス

第三十三條 十七歲未滿ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セス

士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス但非職中地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ從事シ其給料ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第三十四條 陸軍々人轉シテ海軍々人トナル者ハ陸軍服役ノ年數ヲ通算ス又文官轉シテ海軍々人トナリタル者並海軍々人ノ現役ニ在ラスシテ文官ヲ兼任シ文官ノ俸給ヲ受ケ

ル者恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄ハ其支官奉仕中ノ年月ハ十六ヶ月ヲ以テ一年トシ之ヲ通算ス

第三十五條 退職若クハ退役ノ後再ヒ現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其復歸以後ノ現役ニ通算ス

第三十七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス

第三十八條 戰時虜獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル月日ハ猶ホ平時現役ニ在ルト同シク之ヲ算ス

第五章 從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スル者トス但其服役實期十一年未滿ニシテ退身スル者ハ之ヲ加算セス

第四十條 從軍年加算ノ法ハ左ノ各項ニ依ル可シ

一 日本國外ノ戰役ニ從事中ハ二ヶ年ヲ増加ス

二 出征艦隊ニ編入中及ヒ合圍若クハ臨戰地境內ニ服役中ハ一ヶ年ヲ増加ス

第四十一條 戰時平時ヲ論セス外國航海中ハ半ヶ年ヲ増加ス

於テハ海軍卿上請シテ從軍年ニ算入スルコトヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二ヶ月間數回ノ戰役ニ從フト雖モ重複シテ之ヲ算

セス但其一年以上ニ跨リ十二ヶ月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四十三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ海軍卿ニ呈シ海軍卿之ヲ太政官ニ上申ス

寡婦若クハ孤兒扶助料ノ願書ハ居住ノ地方廳ヨリ內務卿ニ呈シ內務卿之ヲ海軍卿ニ移シ海軍卿ヨリ太政官ニ上申ス

第四十四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ內務大藏海軍ノ三卿ニ下シ內務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ證ト爲サシム

恩給登錄寫帖ヲ下付スルノ前ニ於テ海軍卿ハ其恩給ヲ受ク可キ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算則ヲ示ス

第四十五條 退職及ヒ退役恩給並ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル可シ

- 一 下士以上ハ計算書日付ノ翌日
- 二 卒ハ免役ノ翌日

三 寡婦若クハ孤兒扶助料ハ當該軍人死歿ノ翌日

第四十六條 恩給扶助料ハ一月四月七月十月ニ於テ前三ヶ月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ下付ス但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ證セル本人生存書及ヒ金額受領證書ト引替ニ其金額ヲ交付ス可シ

恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三ヶ月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ其期ヲ過クル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス

第四十七條 恩給若クハ扶助料ヲ受クル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳其恩給登錄寫帖ヲ收メテ内務省ニ出シ内務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省海軍省ニ報告ス但扶助料移轉ス可キ者アルハ恩給登錄寫帖ヲ收メ更ニ扶助料請願ノ證ト爲サシム

第四十八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ亡失スル時ハ速ニ其旨ヲ届出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ證明書ヲ下付ス

第七章 賑恤金

第四十九條 賑恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス

一 下士卒戰闘或ハ戰地ニ於テ公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ服役ニ堪ヘス免官除隊スト雖モ第二十條末項ヨリ輕傷ニシテ免除恩給ヲ受ケサル者ハ其官階ニ應スル負債增加表第五項ノ一ケ年分ヨリ少カラス十ケ年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

二 下士卒平時公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負債增加表第六項ノ一ケ年分ヨリ少カラス十ケ年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未滿ノ者公務ノ故ニ非スシテ傷痍疾病ヲ受ケ空ク服役ニ堪ヘス其營業ヲ妨クルニ至ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷ヲ

受ケ若クハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負債增加表第六項ノ一ケ年分ヨリ少カラス五ケ年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

四 軍人死歿シ扶助料ヲ受ク可キ其寡婦孤兒又ハ父母祖母ナクシテ從來死者ニ依リ生活セル二十歳未滿又ハ二十歳以上ト雖モ癱疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ教育スルノ親族ナキ者ハ其寡婦ニ相當セル扶助料一ケ年ヨリ少カラス五ケ年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

第五十條 前條ノ賑恤金ハ本人ノ情願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ海軍卿之ヲ詮議シ太政官特別ノ裁可ヲ以テ之ヲ下賜ス其金額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ下付ス

第八章 給助金

第五十一條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ又ハ五年以上勤續キノ後罷役或ハ免官トナリ恩給若クハ扶助料ヲ賜ハラサル者ニ之ヲ給ス其給額ハ已號表面ニ依ル但懲戒ノ爲メ免官或ハ刑名宣告ニ至ラサルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セス

●甲第八十四號 明治十六年十一月十日

明治十二年比常縣甲第三百三十二號布達賞勳年金渡方手續概則ニ左之通追加相成候旨大藏省ヨリ達有之候條此旨年金拜受者エ布達候事

第十三款 勳等年金拜受ノモノ其勳章及年金ヲ視奪セラレ又ハ勳章及年金ヲ停止セラレタル時ハ其區分左ノ如シ

一 重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留ノ後保釋費付亦同シ勳章褫奪セラレタルモノハ其拘留セラレシ日ヨリ年金ヲ止ム

二 明治十六年第三十九號達第一條第二項第三項ニ依リ勳章褫奪セラレタルモノハ其褫奪ノ日ヨリ年金ヲ止ム

三 輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレ勳章褫奪ニ至ラサルモノハ其犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘留セラレシ日ヨリ刑期終ルノ日迄年金ヲ給セス

四 犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘留ノ後免訴ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其拘留セラレシ日ヨリ放免ノ日迄年金ヲ給セス又無罪ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其拘留セラレシ日ヨリ放免第十四款 年金付與ノ期月ニ至リ前款一項二項ノモノニハ其拘留又ハ褫奪以前ニ係ル分ヲ付與シ又三項四項ノモノニハ其停止中ノ分ヲ扣除シ又ハ扣除セスシテ付與スヘシ若シ拘留及刑期年金付與ノ期月ニ跨ルキハ次回ノ期月ニ於テ計算付與スヘシ

年金扣除ノ計算方ハ一ケ年ニ滿タサルモノハ年額ヲ十二ケ月ニ折算シ又一ケ月ニ滿タサルモノハ一ケ月三十日ヲ以テ算スヘシ但シ月ト日トニ跨ルキハ皆日數ニ換ヘ年額ヲ乘シ三百六十日ヲ以テ除算スヘシ

第十五款 勳等年金拜受ノ者勳章褫奪又ハ停止セラレタルキハ賞勳局ハ之ヲ大藏省ニ通報シ大藏省ニ於テハ年金渡方ノ地方廳ヘ達スヘシ

第十六款 勳等年金拜受ノモノ失踪若クハ逃亡スルキハ其他人ニ代理ヲ命スルト否トニ拘ハラス地方廳ニ於テ年金渡方ヲ停メ置キ他日復歸スルカ又ハ踪跡分明ナルキハ榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アリシヤ否ヲ取調ヘ其所爲之レナキキハ年金付與ノ期月ニ於テ全額ヲ下付スヘシ若シ其所爲之レアルト見ルキハ明治十六年第三十九號達ニ依リ賞勳局總裁ヘ具狀スヘシ

但失踪逃亡ノキ又ハ踪跡分明若クハ復歸シタルキハ本文具狀ヲ一除クノ外速ニ地方廳ヨリ賞勳局及ヒ大藏省ヘ届出ツヘシ

明治十六年十月

太政官賞勳局
大藏省

●甲第八十八號 明治十六年十一月二十六日
海軍恩給令改正從前ノ海軍退隱令被廢止候ニ付本年時常縣甲第七十三號ヲ以テ布達候處該恩給令發布前ニ退隱令ニ依リ退隱料扶助料ヲ給與シタル者及退隱料扶助料賑恤金ヲ給與スヘキ資格ヲ備ヘ支給方詮議中ニ係ル者ハ退隱令ニ照シ給與相成候旨海軍省ヨリ達有之候條此旨布達候事

●甲第九十號 明治十六年十一月二十八日
陸軍恩給令改正從前ノ陸軍罷役俸并恤金令被廢止候ニ付本年時常縣甲第七十二號ヲ以テ布達候處右恩給令改正前ニ舊恩給令ニ依リ恩給扶助料罷役俸并恤金給與シタル者又ハ給與スヘキ資格ヲ備ヘ詮議中ニ係ル者舊恩給令ニ照シ給與相成候旨今般陸軍省ヨリ達有

之候條此旨布達候事

●乙第六號

明治十六年六月五日

郡區役所 戶長役場

陸軍恩給令並海軍退隱令ニ據リ恩給ヲ有スル者及其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ受ケタル者アルハ宣告書寫相添可届出此旨相達候事

但明治八年第四十八號公達ニヨリ扶助料ヲ受クル者モ本文同様可相心得事

●甲第三十八號

明治十七年五月二十二日

明治十六年當縣甲第七十二號陸軍恩給令中左之通更正相成候條此旨心得ヘシ

右布達候事

第三條中(會計卒看病卒樂生ノ八字ヲ刪リ(憲兵卒)ノ下(雜卒諸工)ノ四字ヲ加フ

第十六條中(監軍部長)ノ上(檢閱)ノ二字ヲ加フ

第五十一條中(若クハ扶助料)ノ六字ヲ刪ル

乙號表面中(卒)ノ上(諸)ノ一字ヲ加フ

丁号表面中(死亡)ノ下(者)ノ一字ヲ加フ

●甲第三十九號

明治十七年五月二十一日

明治十六年當縣甲第七十三號海軍恩給令中左之通更正相成候條此旨心得ヘシ

右布達候事

第五十一條中(若クハ扶助料)ノ六字ヲ刪ル

丁号表面中(死亡)ノ下(者)ノ一字ヲ加フ

●甲第四十三號

明治十七年五月二十八日

明治八年太政官第四十八號御達陸軍武官傷痍給助概則ニ據リ扶助料拜受ノ者現行陸軍恩給令第六條第八條及第二十八條ニ掲載ノ事故アル時ハ總テ其各條ニ準シ處分相成候儀ト心得ヘシ

右布達候事

●甲第五十三號

明治十七年六月二十六日

明治十六年當縣甲第七十二號陸軍恩給令中左之通更正ス

右布達候事

第十六條中(尙ホ檢閱監軍部長ノ審査ヲ經テ之ヲ陸軍卿ニ移ス)ヲ(所管長官ヨリ之ヲ陸軍卿ニ呈ス)ニ更ム

第四十三條中(檢閱監軍部長ヲ經テ)ノ九字ヲ刪ル

●甲第八十八號

明治十七年九月三日

舊陸軍恩給令ニ據リ恩給或ハ扶助料ヲ給與シタル者改正恩給令發布後ニ於テ其權利移轉若クハ停止及其他ノ事故生セシトキハ總テ改正令ニ據リ處分スル儀ト心得ヘシ

右布達候事

●甲第九十一號 明治十七年九月十日

舊海軍退隱令ニ據リ退隱料或ハ扶助料ヲ給與シタル者海軍恩給令發布後ニ於テ其權利移轉若クハ停止及其他ノ事故生ゼシトキハ總テ恩給令ニ據リ處分相成候儀ト心得ヘシ

右布達候事

●甲第九十五號

明治十七年九月二十六日

今般太政官第二十一號ヲ以テ海軍志願兵徵募規則第十二條改正ノ儀御布達相成候ニ付テハ下士家族扶助金之義モ同様相心得ヘシ尤現今服役中ノ者滿期迄ハ從前之通り給與ス但シ金額ハ改正ノ期月ヲ以テ下附スヘシ

右布達候事

●甲第九十七號

明治十七年十月三日

舊海軍退隱令ニ據リ退隱料並ニ扶助料ヲ受クル者其金額授受ノ節自今戸長ノ證セル本人生存書(孤兒ハ年齡書)及ヒ金額受領證書ヲ差出シ右證書引替ニ該金額授受ス

但退隱料及扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスル時ハ金額交付期月ノ三ヶ月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若其期ヲ過ル者ハ仍ホ元所在ノ地ニ於テ交付スヘシ

右布達候事

●甲第九十八號

明治十七年十月六日

海軍下士卒家族扶助金給與法左ノ通改定相成候條此旨心得ヘシ

〔明治十八年二月甲第〕〔明治十八年十二月十五號〕ヲ以テ追加

甲第九十一號ヲ以テ給與法中改正

右布達候事

海軍下士卒扶助金給與法

- 一 海軍兵員ニ編入及ヒ退職退役或ハ轉免死亡等ノ節一ヶ年未滿ノ端月アルキハ其月數ニ應シ月割ヲ以テ給與スヘシ
- 二 海軍刑法第九十九條第二百二十條第三百二十三條第三百二十四條第三百二十五條ノ罪ヲ犯シタル者其不在中ハ停止ス而シテ其給與法ハ仍ホ前項ニ準ス
- 三 獨身ノ附籍者ハ給與スヘキ限ニアラス
- 四 給與期月ハ六月十二月ノ二期トシ每期前半分ヲ會計局ヨリ該家族居住ノ地方廳ヲ經テ下附スヘシ

●甲第三百二十八號

明治十七年十二月二十五日

明治八年第四十八號公達陸軍武官傷痍扶助及ヒ死亡ノ者祭葬料並ニ其家族扶助概則ニ依リ扶助料ヲ受クル者其金額授受ノ節自今戸長ノ證セル本人生存書(孤兒ハ年齡書)及ヒ金額受領證書ヲ差出スヘシ

但扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスルキハ金額交付期月ノ三ヶ月前ニ願出ヘシ

右布達候事

●甲第三百二十九號 明治十七年十二月二十六日

舊陸軍恩給令ニ據リ恩給扶助料ヲ受タル者改正陸軍恩給令御發布後ニ於テ事故生セシキハ總テ改正令ニ據リ處分スヘキ筈ノ處文官ノ職ニ就キタル者恩給等停止ノ事ニ限リ本年當縣甲第八十八號達ニ準シ同月二十六日ヨリ改正令ニ據リ處分相成ヘク儼ト心得ヘシ但本文改正ニ據リ恩給等停止スヘキ者ハ准官吏ト否トヲ問ハス總テ官廳ノ俸給ヲ受クル者ノ儼ト心得ヘシ〔明治十八年五月甲第五十一號ヲ以テ但書改正〕

右布達候事

●乙第九十七號 明治十七年五月二十六日

郡區役所

海軍下士以下家族扶助金受領書自今扶助金下渡ノ都度各自ノ受取證書取纏可差出此旨相達候事

●乙第二百十九號 明治十七年二月二十日

郡區役所 戶長役場

海軍下士已下家族扶助金各自受領証書ノ儼ハ其用紙並ニ文言共區々ニシテ整理上不都合ニ付本年十二月渡シノ分ヨリ別紙雛形ニ倣ヒ一定ノ証書可爲差出此旨相達候事〔明治二十二年三月訓令甲第十號ヲ以テ廢止〕

●甲第十五號

明治十八年二月十八日

明治十七年時當縣甲第九十八號布達海軍下士卒家族扶助金給與法中左ノ通第四項ヲ改正シ第五項ヲ追加相成候條此旨心得ヘシ

右布達候事

四 毎年給與ノ金額ハ前半年後半年ノ二期ニ分チ前半半分ハ其年八月ニ後半半分ハ翌年二月ニ會計局ヨリ支出シ該家族居住ノ地方廳ヲ經テ下附スヘシ

五 地方廳ニ於テ金額下附ノ際家族失踪等ノ事故ニ依リ六ヶ月以上受領者ナキ時ハ其受領者ナキ間ノ金額ハ之ヲ給セス

●甲第五十四號 明治十八年五月三十日

客年時當縣甲第三百二十九號達但書左之通り改正ス

右布達候事

但本文改正令ニ據リ恩給ヲ停止スヘキハ准官吏以上ニシテ其俸給ヲ受クル者又ハ扶助料ヲ停止スヘキハ官署ニ奉職シ歲出科目表中俸給ノ部ヨリ支出俸給ヲ受クル者ノ儼ト可相心得事

●甲第八十二號 明治十八年七月二十八日

陸軍恩給令附則別紙之通相定ラル

右布達候事

(別紙)

陸軍恩給令附則

- 第一條 屯田兵ノ恩給ハ左ノ各條ニ據ル可シ
- 第二條 屯田兵上長官士官ノ恩給並ニ其寡婦孤兒等ノ扶助料ハ凡テ本令ニ據リ支給ス
- 第三條 屯田兵下士ノ内北海道ニ移住ノ節定規ノ給助ヲ受ケタル者ニアリテハ總テ本令ニ據リ各種ノ恩給ヲ支給ス
- 第四條 屯田兵下士卒ニシテ定規ノ給助ヲ受クル者ニアリテハ服役年ノ爲メニ恩給ヲ受クルノ權ナシト雖モ戰鬪或ハ戰時平時ニ拘ハラズ軍隊勤務中公務ノ爲メ死歿又ハ傷痍疾病ヲ受ケ職務ニ堪サルニ至リ其證據明瞭ニシテ免官免役スル者ハ凡テ本令ニ據リ各種ノ恩給ヲ支給ス但免除恩給ハ服役年數ニ關セス十二年ニ等シキ額ヲ給ス
- 第五條 北海道ニ移住ノ節定規ノ給助ヲ受ケサル者ノ服役年計算ハ本令ニ據ル可シト雖モ給助ヲ受ケシ下士卒ヨリ出身ノ士官ハ士官ニ就任ノ日ヨリ起算スヘシ
- 第六條 屯田兵上長官士官下士ノ現役ヲ辭シテ恩給ヲ受クルノ例ハ本令第三條憲兵ノ年齡ニ準ス

●甲第百一十一號 明治十八年十二月三日

明治十七年時當縣甲第九十八號布達海軍下士卒家族扶助金給與法中別紙ノ通改正追加ス但第四項日改正ノ儀ハ來明治十九年度ヨリ施行シ同年一月ヨリ三月マテノ扶助金ハ其年五月下附候儀ト心得ヘシ

右布達候事

(別紙)

海軍下士卒家族扶助金給與法

- 第一項へ左ノ但書追加ス
但養子又ハ復籍等事故ニ依リ甲乙兩家ニ跨ル月ハ日割ヲ以テ區分給與スヘシ
- 第四項(金額)ハノ下ハ(會計年度ニ依リ)ノ七字ヲ加ヘ(八月)ヲ(十一月)ヲ(五月)ト改ム
- 甲第百十三號 明治十八年十二月十二日
明治十六年時當縣甲第七十二號達陸軍恩給令及全年時當縣甲第七十三號海軍恩給令中別紙之通改正ス
右布達候事
- (別紙)
陸軍恩給令第四十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム
扶助料ノ願書ハ居住地ノ地方廳ヨリ陸軍卿ニ呈シ陸軍卿之ヲ太政官ニ上申ス
海軍恩給令第四十三條第二項ヲ左ノ如ク改ム
扶助料ノ願書ハ居住地ノ地方廳ヨリ海軍卿ニ呈シ海軍卿之ヲ太政官ニ上申ス
同令第三條軍醫大監主計大監ノ年齡六十五ヲ六十二改ム
- 乙第百二十五號 明治十八年九月十六日

郡區役所 戶長役場

陸海軍恩給令ニ依リ恩給ヲ受クル者賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルキハ同令第六條第一項ニ準シ扶助料ヲ受クル者同上ノトキハ同令陸軍ハ第二十八條 海軍ハ第二十九條ニ準スヘキ儀ト可心得旨太政官ヨリ達有之候條此旨相達候事

但明治八年即第四十八號達陸軍武官傷病扶助死亡ノ者祭葬家族扶助概則及同年即第四百十八號達海軍退隱令ニ據リ扶助料若クハ退隱料ヲ受クル者モ本文ニ準スヘシ

郡區役所 戶長役場

●乙第百二十七號 明治十八年九月十七日
陸海軍恩給令並官吏恩給令ニ依リ寄留地ノ管廳ニ於テ恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其受領ノ權利消絶死亡者ヲ除クニ至リ又ハ轉籍及改姓名等ノ如キ本人ニ異動ヲ生スルトキハ其旨直ニ戶長ヨリ届出ヘシ此旨相達候事

郡區役所 戶長役場

●乙第百二十七號 明治十八年九月二十九日
恩給令ニ據リ恩給若クハ扶助料ヲ受クル者並ニ明治八年即第四十八號達陸軍武官傷病扶助及死亡ノ者祭葬並ニ家族扶助概則及同年即第四百十八號達海軍退隱令ニ據リ扶助料若ク

ハ退隱料ヲ受ル者賭博犯處分規則ニ據リ懲罰ニ處セラレ候時ハ直ニ申渡書寫ヲ添ヘ届出サスヘシ此旨相達候事

郡區役所 戶長役場

●訓令甲第二十七號 明治二十年三月十八日
本縣在籍若クハ寄留者ニシテ巡查看守給助例ニ於テ給助ヲ受クヘキ者ヨリ右ニ關スル願書届書等へ奥印願出候節ハ調査之上支障ナキモノニ限り奥印取計フヘシ

郡區役所 戶長役場

●訓令甲第三十一號 明治二十年三月三十一日
巡查看守給助例施行順序別紙之通相定メ四月一日ヨリ施行ス明治二十年四月訓令第四十二號ヲ以テ追加改正

(別紙) 巡查看守給助例施行順序

第一條 本例ニ依リ給助ヲ受クヘキ者ハ左ノ各項ノ手續ヲナスヘシ

- 一 退職一時金又ハ年金ヲ受クヘキ者退職及傷病者並ニ寡婦孤兒ハ第三號書式ノ願書ニ郡區長及戶長ノ奥印ヲ受ケ他府縣所在ノ者ハ其管廳ヲ經由シ本廳ヘ差出スヘシ
- 二 一時給助金ヲ受クル者祖父母父母兄弟姉妹並孤兒ハ第四號書式ノ願書ヲ前項ノ手續ニ依リ差出スヘシ
- 三 療治料ヲ受クヘキ者ハ月末毎ニ其治療日數ト金額トヲ詳記シ主治醫ノ藥價表ヲ添

警察署長典獄他府縣所在ノ者ハ其管廳ヲ經テ本廳ヘ差出スヘシ

第二條 本例第二條第二項以下ノ場合ニ在テハ公立病院長或ハ警察醫ヲシテ其負傷等級

ヲ鑑定セシメ又ハ癩篤疾ノ症候ヲ診斷シ死因ヲ檢按シ及ヒ療治料ヲ評定セシム

但時宜ニ依リ所屬員ヲシテ立會セシムルコトアルヘシ

第三條 前條ノ場合他府縣所在者ニ係ル時ハ其最寄公立病院長又ハ開業醫ノ証明書ヲ添

ヘ所在管廳ヲ經テ本廳ヘ差出スヘシ

第四條 年金ヲ受クヘキ者ヘハ給助許可令ト共ニ証標(第六號)ヲ下付スヘシ

第五條 年金ヲ受クヘキ者ニシテ本例第八條第九條ノ各項ニ當ルカ又ハ轉籍死亡再嫁復

籍等戶籍異動アルトキハ所在郡區戶長ノ奥印ヲ受ケ其管廳ヲ經テ本廳ヘ届出ヘシ

但本例第八條第一項ニ該ルカ若クハ死亡再嫁復籍等ニ由リ給助ヲ受クル權理消滅シ

タル時ハ該届書ニ年金証票ヲ添ヘ返納スヘシ

第六條 本例第二條第一項第五項ノ場合ニ在テ奉職年數ヲ計算スルハ月ヲ以テス

第七條 年金支給計算方ハ其年額ヲ月額ニシ退職死亡傷瘡等ノ翌月ヨリ其給助ヲ止ムル

トキハ日割ヲ以テ計算ス(明治二十年訓令甲
第四十二號參看)

第八條 年金下渡方ハ年額ヲ二分シ毎年六月十二月各前半期分ヲ本廳又ハ所在管廳ニ於

テ下付ス (同上)

第九條 年金ヲ受取ラントスル者ハ第七號書式ノ領收書ニ郡區戶長ノ奥印ヲ受ケ証票ヲ

添ヘ毎年六月十二月二十日限本廳又ハ所在管廳ヘ差出スヘシ(二十年訓令甲
第七十號參看)

但代理人ヲシテ受取ラントスルトキハ委任狀ヲ示スヘシ

(第一號書式)

退職給助願書

私義滿何年間勤續候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度此段奉願候也

何府何郡何村何番地族籍

元何々詰巡查又ハ看守

何 何年何月生 某印

明治 年 月 日
愛知縣知事宛

右當郡内本籍之者ニ相違無之候也

何村戶長

何 何

某印

何區郡長

何 何

某印

(第二號書式)

傷瘡給助願書

私義今般公務ニ由リ負傷候處何等傷ニ策定相成候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別紙診

斷書相添此段奉願候也

明治二十年

恩給之部

四百六十一

明治 年 月 日

愛知縣知事宛

右當郡内本籍之者ニ相違無之候也

何府何郡何町何番地族籍

元何々諸巡查又ハ看守

何 某印
何年何月生

何町戸長

何 某印

何區郡長

何 某印

(第三號書式)

孤兒給助願書

私(夫又ハ)實養父)看守何某何々ノ爲メ何年何月何日死没候ニ付テハ相當ノ給助金下賜度別紙死亡診斷書及戸籍書相添此段奉願候也

明治 年 月 日

愛知縣知事宛

何府何郡何町何番地族籍

右何某孤兒

何 某印
何年何月生

明治 年 月 日

右當郡内本籍之者ニ相違無之候也

何町戸長

何 某印

何區郡長

何 某印

(第四號書式)

死亡給助願

今般巡查何某職務ノ爲メ(或ハ負傷后)何年何月何日死亡候處私共儀從來死者ニ因リ生計相營ニ罷在候ニ付テハ相當ノ御給助被成下度別紙死亡診斷書及戸籍書相添親族連署ヲ以テ此段奉願候也

明治 年 月 日

何府何郡何町何番地族籍

故巡查何某(父母)父母

何 某印
又ハ兄弟姉妹

親族同 族籍

同 何 某印

同 何 某印

愛知縣知事宛

右當郡内本籍之者ニシテ巡查看守給助例第八條第九條ニ該ラサルモノニ候也

明治二十年

恩給之部

第三號願書添付戶籍書式

何町戶長 何
 何區郡長 何
 何 某
 姓 何 某
 名 明治何年何月何年何月
 族 籍 華士族平民
 戶主又ハ何男
 誕生年月日 年號何年何月何日生
 本籍住所 何府何郡何町何番地或ハ何某方
 寄留住所 同
 父母 某年號千何年何月何日生
 養母 同
 祖 同
 妻 何年何月日生
 嗣 某何府何郡何村何族籍何某何女何年何月何日入籍同婚姻
 次實又ハ養女 某年號何月何日生或ハ貰受
 同 某同

右當區內戶籍簿之通相違無之候也

明治 年 月 日

何町戶長 何 某印
 何區郡長 何 某印
 何 何

(第五號書式)

癡篤疾給助願

私儀

明治年月ヨリ御給助相受ク罷在候處本月ヲ以テ滿二十歳ニ相至候得共從來癡(篤)疾ニ有之候間猶相當ノ御給助被成下度別紙醫師診斷書相添此段奉願上候也

明治 年 月 日

何府何郡何町何番地族籍
 故 何 某印
 何 何年何月生
 親族(何) 何 某印
 同 族籍 同
 同 同

愛知縣知事宛
右當郡内本籍ノ者ニ相違無之候也

明治 年 月 日

同(何)何 某印

何町戸長 何 某印
何區郡長 何 某印

(第六號)

給助之證
第何號

右ハ滿何年間勤續一故巡查看守何某一候ニ付金何圓ヲ給與ス依テ此證
ヲ付與スル者也
年 月 日

何府縣族籍 某
巡查 何 何年何月生

何 某 何年何月生

何府縣族籍

巡查 何 某 何年何月生

何府縣族籍故巡查何某妻(長男子ハ) 何 某 何年何月生

給助之證
第何號
右者滿何年間勤續一故巡查看守何一候ニ付年金何圓ヲ給與ス依
テ此證ヲ付與スルモノナリ
年 月 日
愛知縣知事
愛知縣警部長(又ハ典獄) 印

(第七號書式)

何給助金領收証

本年上半季分何給助金何拾圓御下付相成正ニ領収仕候也

何府縣何區何町何番地族籍

元巡查 何 某印

或ハ故巡查看守何某寡孀孤兒

何 某印

愛知縣知事宛

明治二十年

恩給之部

右ハ現今當區内本籍或ハ寄留籍居住ノ者ニシテ給助例第八條第九條ニ當ラサルモノニ相違無之候也

明治 年 月 日	何町戸長	何	某印
	何區郡長	何	某印
	何	何	某印

●訓令甲第四十二號 明治二十年四月二十九日

郡區役所
戸長役場

本年_三訓令甲第三十一號巡查看守給助例施行順序中第七條ニ但書ヲ追加シ及第八條ヲ改正ス

第七條

但年金ヲ受クル者死亡又ハ本例第五條第一項末段ニ該當スル時ハ其月分全額ヲ支給ス

第八條 年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ヨリ前六ヶ月六ヶ月ニ滿タサルモノハ現月數ヲ以テ計算ス分チ本廳又ハ所在管廳ニ於テ下附ス

●訓令甲第六十七號 明治二十年八月二十七日

郡區役所
戸長役場

海軍恩給令ニ據リ恩給並扶助料出願中本人旅籍變換若クハ改氏名等ヲ爲シタルキハ速ニ届出サスヘシ

●訓令甲第六十九號 明治二十年九月三日

郡區役所
戸長役場

陸軍恩給令ニ據リ恩給並扶助料賑恤金給助金等出願中轉籍寄留替等致候節ハ速ニ届出サシムヘシ

但恩給願書決裁後ニ係ル者ニアツテハ出願當時ノ管籍住所ノ儘ニテ恩給登錄寫帖ヲ發付セラル

●訓令甲第七十號 明治二十年九月二十九日

郡區役所
戸長役場

本年_三訓令甲第三十一號巡查看守給助例施行順序第九條中六月十二月ヲ_三前ト改正ス

●監獄看守押丁給與品規則別冊ノ通相定メ候條來ル二十一年度ヨリ施行スヘシ

但別冊ハ別ニ配付ス

訓令甲第十號

明治二十二年三月六日

郡區役所
戸長役場

明治十七年吐當縣乙第二百十九號達海軍下士以下家族扶ヲ廢ス

● 救助之部

● 甲第百十二號 明治十五年六月二十八日

水火風震ノ難ニ罹リ目下凍餓ニ迫ル者救助米及ヒ小屋掛料等給與出願書式別紙ノ通相定候條罹災ヨリ五日以内ニ出願可致此旨布達候事

但明治十年吐當縣甲第二十七號同年吐甲第五十七號同年吐甲第二百五十三號布達ハ取消
(別紙) (○印ハ朱書)

何々代金御給與願

○ 小屋掛並農具代兩廉併セテ願フ者ハ其旨ヲ記スヘシ

一金何程

内

金何程	小屋掛料出願ノ者借家住居或ハ同居之者ハ此限ニアラス	小屋掛代
金何程		鍬何挺
金何程		鎌何挺
金何程		肥桶何箇
金何程		鋤何挺
金何程		棒何本

明治十五年

救助之部

四百七十一

金 何 程

以下右ニ倣ヒ列記スヘシ

右ハ何月何日午前午後第何時失火若クハ類燒家屋家財共悉皆或ハ別紙ノ通燒亡平素困窮ノ處前顯之遭難ニテ目下營業ニ差岡難澁仕候間何卒頭書之金額御給與被成下度此段奉願候也

又

同上暴風之際家屋潰破或ハ震災ニ罹家屋破碎云々ニ付小屋掛代或ハ強雨之節何々河水暴漲家屋家財悉皆若クハ別紙之通流失云々以下同上

何郡何村何番地何番屋敷

士族或ハ平民農工商

何 誰 印

年號月日

。宛名及ヒ與書式ハ渾テ例規之通

燒亡或ハ流失並存在品御届

燒亡或ハ流失之部

一家屋幾棟

但何間梁ニ何間瓦葺或ハ萱葺全家又ハ幾分通

一長 持

幾 棹

但何品入或ハ諸器物何々等

一筆 筒

但衣類何々入若シ記臆セサル物ハ凡テ記載スヘシ

一鍋釜或ハ何々

幾 筒

一鋤鍬鎌或ハ何々

幾 筒

一玄米或ハ白米

何斗 何升

一何 々

幾 筒

以下前顯ニ倣ヒ渾テ一廉限リ詳悉掲載スヘシ

存在品之部

一家屋幾部或ハ廩納屋

一田畑何反何畝何歩

一米粟或ハ何々何石何斗何升

以下物品等前顯ニ倣ヒ一廉限リ詳悉載スヘシ

右ノ通ニ御坐候也

年號月日

親類或ハ組合

何 之 誰 印

同

何 之 誰 印

御救助米願

私儀

何月何日水火或ハ風震或ハ何々之災ニ罹リ何云々ノ仕合ニテ目下飢餓ニ差迫リ候ニ付何卒御救助被成下度別紙戸籍寫相添此段奉願候也

何郡何村何番地何番屋敷

士族或ハ平民農工商

何之誰印

年號月日

○宛名郡區長宛戸長與書スルノ例規之通

●甲第百三十號 明治十五年八月二十六日

救育費支辦法ノ儀明治十三年本縣甲第八十五號ヲ以布達候處十五年度ヨリ郡區經濟分離ニ付區部救育費支辦法同會之議決ヲ認可シ更ニ左之通相定本年七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

區部救育費支辦法

第一條 明治七年公達恤救規則ニ據リ救助シ難キ老幼癡疾患者等ニテ其親戚アルモ亦貧

ニシテ之ヲ救フ能ハス實際不得止者ニ限リ調査ノ上救助スルモノトス

第二條 救助ヲ願フモノハ親戚及其町内ノ者二名以上連署出願スヘシ而シテ戸長ハ其事實ヲ篤ト取調與書又ハ添書ヲ以テ其意見ヲ具シ該願書ヲ區役所ヘ差出區長之ヲ點檢シ事實不得止モノト視認ル分ハ其趣與書調印ノ上縣廳ヘ進達スヘシ

第三條 救助米ハ一ケ年米一石八斗以内ヲ以其實況ニ依リ三ヶ月以内之ヲ給與シ尙事實不得止モノハ期ヲ繼キ支給シ又ハ一家數人ニ救助スルコトアルヘシ

第四條 救助米ハ區内前月下米平均相場ヲ以代金ニテ下渡スヘシ

第五條 時宜ニ依リ金三圓以内ヲ以被服料ヲ給スルヲアルヘシ

第六條 町内或ハ隣保ノ情誼ニヨリ互ニ協救仕來ル者ト雖モ若其手當不足ナルハ其幾分ヲ補助スルヲアルヘシ

●乙第四十號 明治十六年三月十日

郡區役所 戸長役場

行旅病人重症等ニテ目下難指置モノ有ルハ所在戸長役場ニ於テ相當ノ救護ヲ加フヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

●乙第四十四號 明治十六年三月二十日

郡區役所 戸長役場

客年第五十號布告ヲ以テ行旅病人取扱規則等被廢候付テハ同年本縣乙第百十九號達ハ消滅之義ト心得ヘシ此旨相達候事

●乙第百五十六號 明治十六年八月二十一日

郡區役所 戸長役場

行旅病人重症等ニテ目下難指置モノ有ルハ所在地戸長役場ニ於テ相當ノ救護ヲ加フヘ

キ旨本年ハ當縣乙第四十號ヲ以テ相違候付テハ右ニ係ル諸費ハ常人ヨリ辨償スヘキ義ニ付原籍戸長ヘ償却方其時々照會スヘ義ト心得ヘシ此旨相違候事

但管内人民ニシテ他管下ニ於テ本文同様救護ニ係ル費用ハ該戸長ヨリ本人所屬戸長ヘ償却之義通報可有之筈ニ候條其時々原籍ヨリ取立速ニ辨償方可取計義ト心得ヘシ

●乙第七十號 明治十八年十一月二十日

郡區役所

窮民ヘ救助米下付之儀最初許可之後三ヶ月毎ニ更ニ出願爲致來候處癩疾老幼等ニテ恤救規則ニ依リ官費救助ノ分ハ自今再願ニ及ハス三ヶ月毎ニ下付候條期月ニ至リ事實篤ト取調成規ニ照シ下米相場ヲ以テ縣廳ヘ請求之上直ニ下付可致此旨相違候事

但幼者ハ滿年齢ニ注意シ疾癒者ハ是迄ノ通時々出願致サスヘシ

●乙號外 明治十八年十二月二十二日

尾張國各郡區役所

三河國各郡 役所

其郡(區)罹災窮民救助トシテ貸下候金何圓ハ本年七月ヨリ三十八年六月迄二十ヶ年賦返納定メニ有之候處這回特殊ノ詮議ヲ以來ル二十一年迄据置二十二年五月納ヨリ從前年賦ニ復シ可令返納候ニ付其旨拜借人ヘ相違別紙按ノ如キ受書可爲差出且該取立元帳下渡候條十三ヶ年當縣乙第百五十九號達ニ照準可取扱此旨相違候事

(別紙)

受書

○(尾張國各郡)

一金何圓

但明治十三年七月ヨリ五ヶ年間据置同十八年七月ヨリ三十八年六月迄二十ヶ年賦返納定メノ分

右ハ這般特殊ノ御詮議ヲ以テ來ル二十一年迄据置二十二年ヨリ四十一年迄二十ヶ年賦返納御許可相成奉畏候就テハ右年賦通聊無相違返納可仕候仍テ爲後証受書如件

年 月 日

何郡何村總代 誰 印

右 戸長 誰 印

縣 令 宛

○(三河國各郡)

印紙

金高相當ノ印紙貼用スヘシ

一金何圓

但明治十三年七月ヨリ五ヶ年間据置同十八年七月ヨリ四十八年六月迄三十ヶ年賦返

十四年中年賦替ノ際最初貸下ノ金高ヨリ増額ニナリタル分モ合セ記載スヘシ

明治十八年

救助之部

四百七十七

納定メノ分

右ハ這般特殊ノ御詮議ヲ以テ來ル二十一年迄据置二十二年ヨリ五十一年迄三十ヶ年賦返納御許可相成奉畏候就テハ右年賦通聊無相違返納可仕候仍テ爲後証如件

何郡何村總代

年月日

何ノ誰印

右戸長

何ノ誰印

縣令宛

●甲第五十八號 明治十九年六月二十五日

虎列刺病豫防ノ爲メ交通遮斷法ヲ實施セシキ赤貧ニシテ糊口ニ差支ル者ハ相當ノ救助ヲ爲ス

右布達ス

●訓令甲第六號 明治十九年九月三日

郡區役所 戸長役場

赤貧患者ノ病毒汚染シタル物品官吏ノ指揮ニ據リ燒却シタルキハ代リ品給與スヘキ管ニ候得共燒却品等ハ必ス原數ノ如ク給與スルノ主意ニ無之假令ハ三衣ヲ燒却スルモ一衣ヲ以テ事足ルトキハ即チ一衣若シクハ現品代價ヲ給スヘク又些細ノ物品ハ紫ヨリ本人ノ損

失ニ歸セシメサルヲ得ス其一町村ノ協議ヲ以テ救助スルモ安ニ地方税ノ支出ヲ望マサル様精々費用節減ニ注意シ費用ノ報告ハ所轄檢疫支那又ハ警察署ニ送付スヘシ

●乙第十號

明治十九年二月十二日

郡區役所

窮民へ救助米下付方之義ニ付客年^甲當縣乙第百七十號達但書左ノ通更正ス此旨相達ス但幼者ハ年齢ニ注意シ滿十三年ニ至ラハ廢停スヘシ疾病者ハ一ヶ月分ツ、下ヶ渡シ時々病狀届出サセ疾癒ユレハ速ヤカニ廢停スヘシ

●訓令丙第二百卅八號 明治二十二年九月二十二日

郡役所 戸長役場

今般縣下各郡ノ内非常ノ天災ニ罹リ其慘狀觀ルニ忍ヒス目下己ニ夫々救助施行中ノ處焦眉ノ急務タルヤ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル窮民ニ食料又ハ小屋掛料ヲ給スルニアリ然ルニ萬一窮民中不幸ニシテ一時救助ニ洩ル、者有之候テハ不都合ニ候條此際厚ク注意シ備荒儲蓄法施行規則範圍内ニ於テ充分救助行届キ候様取計フヘシ

●告示第九十五號 明治二十二年九月二十一日

今般縣下水害ノ趣憫然ニ被

思食

天皇陛下ヨリ金千五百圓

皇后陛下ヨリ金五百圓目下救恤ノ補助ニ充ツヘキ旨ヲ以テ下シ賜ハリタリ

●諭達 明治二十二年八月二十一日

今回縣下風水ノ災害ハ實ニ未曾有ノ事ニシテ殊ニ沿海ノ地ハ非常ノ損害ヲ被リ生命財産ヲ喪失シタルモノ夥シク就テハ

兩陛下ヨリ救恤ノ特典アリ又我縣内外ノ有志者ヨリ續々金圓義捐ノ舉アリ遠境隔地ト雖此悲惨ノ情況ヲ聞キ誰レカ心ヲ動かサ、ルモノアラシヤ況ンヤ一縣下ニ生息シ近ク實況ヲ目撃耳聞スルモノニ於テチヤ而シテ此際ニ當テハ食料ノ供給ハ第一ノ急務ナルニ或ハ其不足ヲ告クル所アルニ至ル付テハ兼テ米穀賣買ヲ業トスルモノハ其供給融通ヲ助クルハ自ラ其業務上ノ德義ナルヲ以テ勉テ之レカ方便ヲ求メ罹災人民ノ幸福ヲ謀ルヘシ實ニ此機ニ乘シ不當ノ高利ヲ貪リ或ハ買占メ又ハ之ヲ藏匿スル等情誼ニ背クノ所爲無之様厚ク注意スヘシ
右諭達ス

●衛生之部

●甲第二十號 明治十五年一月二十八日

明治十三年^九内務省甲第十一號布達種痘人員表ノ儀ハ統計ノ都合モ有之候ニ付自今ハ一月七月十日限郡區役所へ可差出此旨布達候事

●甲第二十八號 明治十五年二月八日

從來種痘術開業出願ノモノハ愛知岡崎本支病院ニ於テ試験致サセ候處右試験相廢シ候條自今直ニ縣廳へ願出ヘク此旨布達候事

●甲第三十三號 明治十五年二月十三日

明治十三年本縣甲第四十號布達ヲ以テ町村衛生委員配置法相達置候處今般在ノ通改正候條此旨布達候事(明治十八年六月甲第一五十五號ヲ以テ改正)

●甲第四十五號 明治十五年三月九日

明治十二年内務省甲第三號ヲ以テ布達相成候醫師試験規則第二條ニ掲クル修學履歷書并教師ノ證書ハ三ヶ年以上醫學ヲ修業シタル實跡ヲ明記スル者ニアラサレハ試験願聞届サル儀ト可相心得此旨布達候事

●甲第四十八號 明治十五年三月十五日

別紙之通達相成候ニ付此旨布達候事(本年四月甲第八一十五號參看)

乙第十四號

府 縣 沖繩縣

醫師開業ノ儀ニ付テハ三府ハ明治八年二月文部省ヨリ各縣ハ同九年一月當省乙第五號ヲ以テ相達置候處從來開業醫ノ子弟ニ其助手ト相成居醫業ヲ以テ家名相續シ年齡當明治十五年六月滿二十五年以上ノ者ニ限リ從來開業醫ト看做シ不要試驗開業許可ノ證ヲ與ヘ不苦候條此旨相達候事

明治十五年三月二日

內務卿山田顯義

●甲第六十號

明治十五年三月二十九日

牛乳搾取販賣規則別紙ノ通相定候條從來開業ノ者モ此規則ニ準シ來ル七月一日迄ニ更ニ可願出此旨布達候事（明治二十二年十一月縣令第六十號ヲ以テ十條ハ但書ヲ追加ス） ハタチ知事

（別紙）

牛乳搾取販賣規則

- 第一條 牛乳ヲ搾取販賣セントスル者ハ第一號雛形ニ準シタル書面ニ家場及ヒ其四隣地形ノ繪圖ヲ添ヘ縣廳ヘ願出免許鑑札ヲ受ケヘシ
- 第二條 家場ハ乾燥ノ地ニ成タケ人家ヲ隔タリ且飲用水ニ近接セサル場所ヲ選ムヘシ
- 第三條 家場ハ清潔ヲ主トシ勉テ臭氣ヲ防遏シ盛夏炎熱ノ候又ハ人畜流行病アル時ハ殊ニ注意スヘシ

第四條 乳牛ヲ名トシ畜ニ類似ノ所業ヲ爲ス可カラス

第五條 牛乳搾取ヲ營業スル者ハ驗温器及驗乳汁（ガラクトメーター）ヲ以テ每搾乳ノ際其温度及本乳ヲ驗シ之ヲ第二號書式ノ如ク製表シ置キ他日ノ點檢ニ供スヘシ

第六條 腐敗若クハ他ノ品種ノ混合シタル乳汁ヲ販賣ス可カラス
但臨時乳汁ノ良否ヲ檢査スルコトアルヘシ

第七條 乳汁ヲ運搬シ或ハ之ヲ貯ルニハ決シテ銅若クハ鉛製ノ器具ヲ用ユ可カラス

第八條 乳牛病ニ罹ラハ醫師ノ治療ヲ受ケ全癒ノ証ヲ得ル迄ハ決シテ乳汁ヲ販賣スヘカラス

第九條 乳牛増減アラハ其都度届出ヘシ

第十條 牛乳ヲ請負又ハ行商スル者ハ牛乳搾取人ヨリ第三號雛形ノ如キ證ヲ付與シ乳入器ニ付着スヘシ 但し本場者力ニテラ搾取シタル乳汁ニシテ其味色臭氣等ハ其乳ノ品質ニシテ

第十一條 家場ヲ移轉シ若クハ改造スル時ハ第一條ニ準シ願出廢業スル時ハ其旨届出鑑札返納スヘシ

但搾取人姓名又ハ住所ヲ變換スルカ或ハ死亡跡相續等ハ鑑札訂正ヲ願出ヘシ

第十二條 從來開業ノ者ト雖モ場所不適當ノ分ハ移轉セシム其事情ニ依リ相當ノ日限ヲ定メ移轉延期ヲ許可スルコトアルヘシ

第一號雛形

明治十五年

衛生之部

牛乳搾取販賣願

一牛

内牝牛

何頭

番號毛色

右表養別紙圖面ノ如ク何郡區町村番地ニ於テ牛乳搾取販賣致シ度候間免許鑑札御下附相成度此段奉願候也

年月日

縣令宛

何郡區町村番地族籍

何

某印

郡區長戸長衛生委員ノ與書等ハ一般ノ例ニ準ス

第二號雛形

一二	日	月	午前 (時)	乳汁 温度 稠度 全量	乳汁搾汁	日	月	午後 (時)	乳汁 温度 稠度 全量	乳汁搾乳	米産第一號赤褐色
	六前	三七二					一〇				

第三號雛形

木製寸法適宜表

○請賣之證

何郡區町村番地

○牛乳搾取人

年月日 何 某印

●甲第六十一號

明治十五年三月三十一日

醫師ニシテ他ニ出張所ヲ設ケ日並ヲ定メ治療致シ候者ハ其宿主連署ニテ所轄郡區役所へ可届出此旨布達候事

●甲第六十八號

明治十五年四月十三日

藥舖並藥種商取締規則別冊之通相定來ル七月一日ヨリ施行候條現今營業ノ者五月三十一日迄ニ更ニ出願可致此旨布達候事(明治十七年十二月甲第百一號) 明治十八年五月甲第百一號ヲ以テ文字改正(四十五號ヲ以テ追加) 但從來内務省ノ免狀ヲ所有シ營業スル者ハ其免狀寫ヲ添六月三十日迄ニ更ニ届出ヘシ(別冊)

藥舖取締規則

第一條 藥舖ハ必ス醫師ノ處方書ニ據リ藥品ヲ調劑スルヲ業トシ自己ノ意見ヲ以テ調劑

明治十五年

衛生之部

四百八十五

スルヲ許サス

但藥種商ヲ兼業セントスルモノハ該規則ニ依リ願出ヘシ

第二條 調劑ニ際シ際ニ際シ若シ處方書中藥名不分明ナルカ又ハ其藥量不相當ナルト認ムル
キハ必ス之ヲ處方主ニ質シテ后調劑スヘシ而テ其容器ニハ藥劑ノ用量用法患者姓名及
ヒ舖主ノ住所姓名ヲ明記シタル標紙ヲ貼付スヘシ

第三條 處方書ヲ以テ要求スル者アリト雖モ患者姓名及處方主ノ住所姓名并年月日捺印
ナキモノハ調劑スヘカラス

第四條 處方書ハ順次集綴毎月之ヲ一冊トナシ必ス保存シ臨時ノ點檢ニ供スヘシ

第五條 藥品貯藏器ニハ明瞭ニ其藥品ノ名稱ヲ記載シ置クヘシ且毒藥劇藥ハ別段ニ戸棚
或ハ箱等ヲ製シテ之ヲ貯藏シ其他ノ藥品ト錯雜誤用ノ恐レナキヨウ注意スヘシ

第六條 臨時官吏出張藥品及ヒ使用ノ器物等ヲ檢査スルコトアルヘシ

第七條 開業セント欲スル者左ノ書式ニ據リ願出ヘシ然ルキハ第八條ニ記載セル試験ヲ
遂ケ其成績ヲ內務卿ニ具狀シ免狀ヲ交付スヘシ

但官立學校ノ卒業證書及履歷書ヲ以テ願出ル者ハ更ニ試験ヲ要セス其寫ヲ添ヘ內務
卿ニ具狀シ免狀ヲ交付スヘシ

藥舖開業願書式

私儀今般藥舖開業仕度候間免狀御下付被下度依之習熟証及履歷書相添此段奉願候也

年號 月日

縣 令 宛

〔他府縣ヨリ寄留ノ者ハ
其本籍ヲモ明記スヘシ〕

何 之 誰

愛知縣何國何郡何町何番地住

或ハ寄留士族或ハ平民

第八條 郡區長以下與印ハ一般ノ例ニ依ルヘシ
開業試験科程及手續左ノ如シ

試験科目

第一 算術 物理學 大意 化學 同 藥物學 同 處方學 同

第二 試験ハ公立病院正副院長及藥局長ノ内ヲ以テ委員ト委メ衛生課吏員一名臨席施
行スヘキモノトス

第三 試験問題ハ一科ニ付二題トシ其應答ノ時限ハ一題ニ付二時間ト定メ筆記シテ試
験委員ニ出スヘシ

第四 試験ヲ受クル者ハ書籍ヲ携帶シテ試験場ニ入ルコトヲ許サス又答記ヲ終ラサル
間ハ立會員ノ許可ヲ得スシテ試験室ヲ出ルヲ許サス

第五 總問題ノ應答書ハ之ヲ一纏ニナシ立會員ヨリ縣廳ニ送付スヘシ
第九條 藥舖ハ左ノ雛形ニ倣ヒ看板ヲ調製シ之ヲ舖頭ニ掲クヘシ

看板雛形

內務省免許
愛知縣郡區町村
藥舖
何之誰

カヤ

第十條 舖主死歿或ハ休業スルハ速ニ届出ヘシ

第十一條 舖主死歿シ子弟其業ヲ繼續セント欲スルモ試験ヲ受クル能ハサル者ハ藥種商ヲ營ムヲ得ルモ藥舖ノ業ヲ營ムヲ許サス

但內務省ノ免狀ヲ所持シ自己ノ營業ヲ停メタル者ヲ後見人トシテ出願スルハ此限ニアラス

第十二條 改姓名及他管下ヘ轉籍スルハ速ニ免狀書換ヲ請願スヘシ

但他管下ヘ寄留或ハ管内轉居スルハ其旨届出ヘシ

第十三條 水火盜難等ノ事故ニヨリ免狀ヲ毀損遺失スルハ更ニ免狀ヲ請願スヘシ

藥種商取締規則

第一條 藥種商ハ諸藥品ヲ賣買スルヲ業トシ假令醫師ノ處方書アルモ調劑スルヲ許サス

第二條 明治十一年第二十號公布藥用阿片賣買規則及同十三年第一號公布藥品取扱規則ヲ堅ク遵守シ注意藥劑藥毒藥等ハ別ニ戸棚又ハ箱等ニ貯藏シ他ノ藥品ト錯雜セサル様深ク注意スヘシ

第三條 藥種商ヲ開業セント欲スル者ハ縣廳ヘ願出免狀鑑札ヲ受ケ左ノ離形ニ倣ヒ看板ヲ調製シ店頭ニ掲ケヘシ
看板離形 三尺

免許
愛知縣何郡何町村
藥種商
何之誰

カヤ

第四號 死亡或ハ廢業又ハ他管下ヘ轉居寄留スルハ速ニ鑑札返納スヘシ

第五條 改姓名又ハ管内轉居スルハ速ニ鑑札書換ヲ請願スヘシ

第六條 水火盜難等ノ事故ニヨリ鑑札毀損遺失スルハ更ニ鑑札ヲ請願スヘシ

●甲第七十三號 明治十五年四月十九日

本年ニ當縣甲第三十三號布達町村衛生委員設置法第六條第二項左之通改正候條此旨布達候事(明治十八年六月甲第
五十五號ヲ以テ改正)

●甲第八十五號 明治十五年四月二十九日

本年ニ本縣甲第四十八號布達開業醫子弟ヘ開業許可ノ證ヲ與ヘ候ハ當十五年八月中ヲ限リ右期限ニ後レ候者ハ一切不聞届儀ト可相心得旨內務省ヨリ達有之候條此旨布達候事

●甲第九十號 明治十五年五月八日

明治九年本縣第百十三號ヲ以製藥免許手續及布達置候處自今左之通改正候條此旨布達候

事(明治二十年四月縣令第一四十九號ヲ以テ廢止)

●甲第九十一號 明治十五年五月十一日

施療券發行規則別冊ノ通相定來ル七月一日ヨリ施行候條此旨布達候事(明治十六年五月甲第一四十七號ヲ以テ改正)但明治十三年甲當縣甲第百五十二號布達公立病院患者心得規則中外來患者心得書第十

五條ハ本文同日限リ削除ス ●甲第百十三號 明治十五年六月二十八日

明治十三年本縣甲第百五號ヲ以テ虎列刺病豫防取扱手續布達候處相廢止候條此旨布達候事

●甲第百十四號 明治十五年六月二十八日

傳染病ヲ豫防スルハ自治自衛上不可欠要務ニ付右ニ係ル費用モ自辨ス可キハ勿論ノ儀ニ候條各町村協議ヲ以テ其方法相立候條可致爲心得此旨布達候事

但貧困者ニ限リ醫藥及毒藥價等地方稅傳染病豫防費ヨリ支給候儀モアルヘシ

●甲第百二十號 明治十五年七月二十二日

從前醫業相營ニ候者ニテ明治八年履歷書差出漏又ハ復業等ノ廉ヲ以テ目下開業ノ義出願候者不少候處從前醫師タルノ確証アル者ハ來ル八月三十一日限リ願出候得者僉議ノ上許可致スベク右期日後出願候者ハ如何様ノ情實有之共一切許可不致候條此旨布達候事 ●甲第百二十九號 明治十五年八月二十四日

明治十三年甲當縣甲第百四十四號布達流產屆書へ自今流產男女ノ別ヲ記載可致此旨布達候事

●甲第百三十六號 明治十五年九月十三日

目下虎列刺病流行ノ際甲乙兩醫該患者ヲ診シ候節ハ連名若クハ其主任醫ヨリ届出候様可致此旨開業醫へ布達候事

●甲第百八十二號 明治十五年十二月十一日

從來醫術開業ノ者ニシテ乙號免狀所持スル者若シ事故アリテ相續權ヲ失スルキハ營業スルヲ許サス直ニ免狀返納可致此旨布達候事

●甲第百八十三號 明治十五年十二月十一日

明治十四年本縣甲第百九十二號布達ヲ以テ石炭酸其他劇藥ノ内消毒藥ニ調製シタル分ニ限リ販賣差許候處調査ノ都合モ有之候ニ付本年限リ販賣差止候條爾後藥舖藥種商ノ内ニテ右販賣志願ノ者ハ藥名分量用法及代價等詳記シ更ニ可願出此旨布達候事 ●乙第三十二號 明治十五年二月十三日

郡區役所 戶長役場 町村衛生委員

今般町村衛生委員設置法改正布達候處戶長ハ在職中自ラ該務兼勤可致モノニ付別段諦認狀等ハ下付不致候條爲心得此旨布達候事

●乙第七十二號 明治十五年五月五日

乙第七十一號ヲ以相達候衛生上ニ係ル事項調査通信ノ儀別紙概則ニ準シ設置施行可致此旨相達候事(明治十八年七月乙第八十一號ヲ以概則中追加改正)

(別紙)

衛生通信委員設置概則

第一條 各郡區ニ於テ便宜町村ヲ聯合セシメ毎聯合町村内ノ衛生委員中ヨリ通信擔當者一名ヲ撰舉セシムヘシ其服務任期ハ一ケ年以上トス

第二條 其通信ス可キ事項ハ内務省衛生局照會通信手續ニ依リ郡區役所ニ於テ選定ノ上部内ヘ相達スヘシ

第三條 通信擔當者ハ一切通信ノ責ニ任スヘシ而シテ他ノ衛生委員ハ必ス其報告ヲ要ス可キ事項ヲ通信擔當者ニ通信スヘシ

第四條 通信ハ其事項ニヨリ表ニ製シ又ハ書面ヲ以テスルモ便宜ニ任スト雖モ勉テ平易ノ文ヲ用ヒ虚飾失實ノ弊ナキヲ要ス

第五條 總テ通信ハ郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ
但共地ノ方言等ハ傍訓ヲ付シ又ハ時宜ニヨリ略圖ヲ添ヘシ

第六條 聯合町村名并通信擔當者姓名通信ス可キ事項等ハ郡區役所ヨリ本廳ヘ届出ヘシ但變更アルキモ本文ニ準ス

第七條 諸費用ハ便宜方法ヲ設ケ支出スヘシ

●乙第百二號 明治十五年六月十八日

虎列刺病豫防手續別紙之通相定候條豫防方法ハ明治十三年太政官第三十四號公布同年内務省乙第三十六號達ニ準シ施行可致此旨相達候事(明治十八年乙第百九十七號ヲ以テ廢止)

●乙第百十七號

明治十五年七月二十五日

本年當縣乙第七十二號ヲ以テ相達候衛生通信擔當者設置ノ上ハ諦認狀附與可致候條此旨布達候事(明治十八年乙第八十七號ヲ以テ廢止)

●甲第二十號

明治十六年四月十六日

愛知醫學校貸費生徒規則別紙之通相定候條志願之者ハ募集期迄ニ該校ニ願出ヘシ此旨布達候事

(別紙)

貸費生徒規則

第一條 本校ニ於ケル募集生徒ノ内ニ就テ學力優等ノ者二十名ヲ撰擇シテ之ヲ貸費生徒トナシ卒業ノ後當管内ニ於テ五ケ年間開業セシム

但事情ニヨリ十八ケ月以内開業延期ヲ許スコアルヘシ

第二條 貸費ハ一人一ケ月金三圓トシ卒業後本人ノ望ニ任セ開業ノ地位ニ依リ左ノ年限ニ於テ之ヲ其郡區役所ヘ月賦返納セシム

名古屋屋區

三ケ年

愛知郡 東春日井郡
西春日井郡 丹波郡
中嶋郡 海西郡
知多郡 碧海郡
幡豆郡 額田郡
寶飯郡 渥美郡
東加茂郡 西加茂郡
南設樂郡
北設樂郡 八名郡

四ヶ年
五ヶ年
七ヶ年

第三條 疾病或ハ事故アリテ退學スル者及ヒ規則ニ觸レテ放校ヲ命スル者ハ在學中ノ貸費ヲ一時ニ返納スヘシ

第四條 脩學中死去ノ者ハ生前ノ貸費ヲ棄捐シ卒業後死亡ノ者ハ死後ノ償還ヲ免ス

第五條 貸費生ハ下宿通學ヲ許サス必ス入舎セシムルモノトス

第六條 貸費生タル者ハ保証人二名ヲ立テ本校ヨリ下附スル所ノ誓書ニ記名捺印印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ

第七條 貸費生保証人ハ戸主ニシテ不動産ヲ所有シ學費消却ノ資カアル本縣在籍ノ者ニ

限ル

第八條 本人返納スルコト能ハサルハ保証人ヨリ徴收スル者トス

第九條 貸費生誓書式

貸費生誓書式 (用紙美濃紙野紙)

誓書

當縣下何國何郡何村何番地住

士族或ハ平民何ノ誰子弟

當何月何年何ヶ月

今般入學御許可ニ相成候處貸費生ニ御撰擇ニ相成本人ハ勿論保証人ニ至ルマテ謹テ御受仕候然ル上ハ御規則恪守仕本人卒業後貸費必ス償還可仕候萬一本人返還スル能サル時ハ保証人ニ於テ急度辨償可仕候仍テ誓書連印差出候也

年月日

本人 右 姓 名 印

族籍住所 保証人 姓 名 印

全 姓 名 印

愛知縣愛知醫學校御中

前書之通相違無之候也

戶長 姓 名 印
區長 姓 名 印

●甲第三十九號 明治十六年五月十五日
明治十四年甲當縣甲第七十九號布達製氷並販賣規則中へ左ノ一條追加候條此旨布達候事

第十條 此規則ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

●甲第四十號 明治十六年五月十五日

明治十五年甲第百一十一號布達著色染料品類書末尾へ左ノ一項追加候條此旨布達候事
右ニ違背シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

●甲第四十三號 明治十六年五月十九日

産婆ハ其術ヲ試験シ營業ヲ許可スヘク等ニ候得共當分ノ内右試験ヲ要セス假免狀附與候條此旨布達候事

但從前該營業者ハ本年六月三十日迄ニ免狀下付願出ヘシ

●甲第四十六號 明治十六年五月三十一日

醫師規則別紙之通相定候條此旨布達候事(明治十七年甲第百一十號ヲ以テ改正)

●甲第四十七號 明治十六年五月三十一日

明治十五年甲當縣甲第九十一號布達施療券發行規則別冊ノ通改定來ル七月一日ヨリ施行

甲第百一十號八部へ

候條此旨布達候事(明治十九年二月甲第百一十二號ヲ以テ改正)

●甲第五十八號 明治十六年七月三十日

明治十三年甲當縣甲第二百一十一號ヲ以及布達候死亡届取扱心得第八條左ノ通改正并死亡届書式中姓名ノ下割注削除候條此旨布達候事

第八條 死亡届記載ノ例

第一項 職業ヲ記載スル例左ノ如シ

各本人ノ現業ニ依ルヘシ例之ハ商業ハ單ニ商賈ト記サス吳服商、藥種商、米穀商或ハ何商ノ番頭、支配人、雇人或ハ諸會社役員等ノ類力役ハ人力車挽、荷車挽、土方、米搗、人足等ノ類農業ハ農作主ト農作人ト區分記載スルノ類他ノ職業總テ之ニ倣フ

家族ニシテ戸主ノ定職外ナル職業ヲ有セル者例之ハ戸主ハ鍛冶屋職ナルモ本人獨リ大工職ヲ營ムルハ大工職ト記スヘシ

家族ニシテ職業ナキ者ハ戸主何業無職家族ト記スヘシ

二業以上ヲ兼スル者ハ其主ナル業ヲ記スヘシ

第二項 男女トモニ婚姻上ノ關係ヲ記載スルノ例左ノ如シ

現在配偶者アル者ハ既婚有配偶ト記シ曾テ婚嫁シタルコトアルモ現在配偶者ナキ者ハ既婚無配偶ト記シ未ダ曾テ婚嫁セサル者ハ未婚ト記スヘシ

第三項 死後診斷ハ生前ノ病症知り得ヘキ丈ケテ記シ若シ詳ナラサレハ原因不詳ト記

載スヘシ

第四項 疾病ヲ別テ左ノ十一類トス

傳染性病、發育及營養病、皮膚及筋肉病、骨及關節病、血行器病、神經系統及五官器病、呼吸器病、消化器病、泌尿生殖器病、外變性變死、中毒病

●甲第九十三號

明治十六年十二月十日

醫學經驗ノ爲メ又ハ致命ノ原山ヲ知ラント欲シ死者ノ解剖ヲ致ス者ハ左ノ規則ニ因ルヘシ此旨布達候事（明治十七年四月甲第十
八號ヲ以テ文字改正）（明治十八年甲第
百二十五號參看）
但從前ノ指令本文ニ抵觸ノモノハ總テ廢止ト心得ヘシ

解剖規則

第一條 死体ノ解剖ハ縣立醫學校病院又ハ醫師若シクハ官公立醫學校ニ於テ醫學卒業ノ者ハ非ラサレハ之ヲ行フヲ許サス

第二條 死体解剖ハ死者生前ノ情願若シクハ死者遺族ノ承諾アルニ非ラサレハ局部全体ヲ問ハス剖觀スルヲ許サス
但死刑者遺体ノ下付ヲ乞フ者ナキトキハ直チニ之ヲ剖觀スルヲ得

第三條 解剖ヲ行ハントスル者ハ其解剖場所ヲ詳記シ死者生前若クハ遺族者ノ承諾書（刑死下付ヲ乞フ者無
キ者ハ其旨ヲ記ス）ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ届出ヘシ
但縣立醫學校病院ハ直チニ縣廳ヘ届出ヘシ

第四條 解剖セシトキ其實況ヲ詳記シ其都度郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ差出ヘシ
但縣立醫學校病院ハ直チニ縣廳ヘ差出ヘシ

第五條 解剖ノ後ハ速ニ死体ヲ縫理シテ埋葬セシムヘシ
但骨格保存ハ何等ノ事情アルモ之レヲ許サス

第六條 檢察官ノ請求ニ應ジ剖觀スルハ届出ルニ及ハスト雖モ尚ホ第四條ノ手續ヲ盡スヘシ

●甲第九十四號

明治十六年十二月十日

本年五當縣甲第四十七號ヲ以テ施療券發行規則布達候處施療ヲ受クル者ハ規則第二條ノ外尚ホ家人ノ年齢六十年以下十五年以上ト雖モ齊シク病ニ罹リ他ニ生活ヲ營ムモノナキトキハ醫師診斷書ヲ以テ郡區役所ヘ願出ヘシ然ルモ郡區吏員出張實檢ノ上止ムヲ得サル者ニ限リ許可候條此旨布達候事（明治十九年二月甲第
二十二號ヲ以テ改正）

●甲第九十五號

明治十六年十二月十日

明治十五年五當縣甲第三十三號町村衛生委員設置法中左ノ通追加改正候條此旨布達候事（明治十八年六月甲第五
十五號ヲ以テ改正）

●乙第三百三十三號

明治十六年七月二十三日

郡區役所 町村衛生委員

明治十三年五當縣乙第四百一十一號全十四年五當縣乙第六十號全十五年五當縣乙第百廿五號

ヲ以相達候衛生諸表別紙之通改正本月一日ヨリ施行候條此旨相達候事 (明治十八年十月乙第百四十九號ヲ以テ人員表改正) (第一號ヨリ第五號) (第六表以下諸表略ス)

●乙第百四十二號 明治十六年七月二十六日
本年ハ内務省達出產婚姻死亡表等該様式并解釋凡例ニ照準シ本月分ヨリ調製可差出此旨相達候事

●乙第百四十九號 明治十六年八月十六日

郡區役所 町村衛生委員

本年ハ當縣乙第百三十三號達衛生諸表ノ中別紙種痘表人員追加候條此旨相達候事 (明治十八年十月乙第百四十九號ヲ以テ人員表改正)

●乙第百六十一號 明治十六年八月二十五日

郡區役所 村町衛生委員

傳染病患者届出候節患者職業年齡等住々記載漏ノ者有之調査上不都合不少候條以來醫師ヨリ届出候節町村衛生委員ハ本年當縣甲第五十八號布達第八條第一項ノ例ニ因リ速ニ患者ノ現業ヲ明記シ年齡ハ幾年幾ヶ月ト記載可差出此旨相達候事

●乙第百三十九號 明治十六年十二月十日

郡區役所

本年當縣甲第九十四號ヲ以テ施療事件布達候付テハ自今右ニ因リ願出候ハ、速ニ郡區吏

員ヲシテ實檢セシメ適當ノ者ハ許可致スヘシ此旨布達候事

●甲第十八號 明治十七年四月十日

昨年ハ當縣甲第九十三號布達解剖規則第三條及但書末文届出ヲ願出ト改正ス
右布達候事

●甲第二十五號 明治十七年四月二十一日

開業醫師ニ於テ微毒患者ヲ診察候節ハ別表ノ通調製毎半年ニ區分シ一月七月十日限り郡區役所ヲ經テ差出スヘシ
右布達候事

明治 年 自 月 癩毒患者表 醫師 郡區町村 姓名

種類	癩		性		癩		毒		假性癩毒		通計
	硬性下疳皮膚病粘膜炎	病内臟病骨	病選傳症軟性下疳便毒	癩	癩	癩	癩	癩	癩		
名古屋區	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	
	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	
愛知郡	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	未滿五年以上	
	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	二十五年以上	
男											
女											

明治十七年

衛生之部

●甲第六十二號 明治十七年七月十六日

賣藥規則外藥劑調製販賣規則左ノ通相定來ル八月一日ヨリ施行ス但從前該營業ノ者ハ本則ニ因リ右同日迄ニ願出ヘシ
右布達候事

賣藥規則外藥劑調製并販賣規則

- 第一條 此規則ニ稱スル賣藥規則外藥劑トハ人畜治病ノ目的ニ出スノ鼠取蠅取蚤虱藥 蚊遣香等動物ヲ殺除シ及飲食物ノ腐敗臭氣等ヲ防止ルカ爲メ製劑シ販賣スル者ヲ云フ
- 第二條 前條ニ掲クル藥劑ヲ調製シテ販賣セントスル者ハ方名藥味分量製法功能ヲ詳記シ第一號書式ニ準シ製劑相添縣廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ
- 第三條 藥味分量製法用法効能方名等ヲ改正セントスルトキハ第二號書式ニ準シ製劑相添檢査願出ヘシ但方名ヲ改正セントスルトキハ鑑札ヲ添フヘシ
- 第四條 第一條ニ掲クル藥劑ヲ請賣セントスルモノハ第三號書式ニ準シ其製劑者所持ノ免許鑑札寫(自他府縣ニテ開ハス)相添所轄郡區役所ヘ願出請賣鑑札ヲ受クヘシ
- 第五條 製劑者及請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シ行商爲サシメントスルキハ第四號書式ニ準シ所轄郡區役所ヘ願出行商鑑札ヲ受ケ行商ノ際之ヲ携帯スヘシ
- 第六條 免許ノ藥劑ト雖トモ有害品ナルヲ更ニ發見スルトキハ直チニ鑑札取上ケ發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第七條 製劑者廢業スルカ又ハ禁止セララルトキハ速ニ請賣及行商者ニ通知シ請賣行商者ハ直チニ販賣ヲ止メ鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 製劑者免許藥方ヲ他人ニ讓渡サント欲スルトキハ第五號書式ニ準シ縣廳ニ願出鑑札書換ヲ請フヘシ

第九條 鑑札ハ貸借スヘカラス本人廢業若シクハ死亡又ハ他管ヘ轉籍スルトキハ速ニ返納シ改氏名スルトキハ書換願出ヘシ但鑑札ヲ返納スルトキハ請賣行商者住所氏名ヲ記載シ届出ヘシ

第十條 水火盜難等ニ依リ鑑札ヲ毀失シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ願受クヘシ

第十一條 他府縣ニ於テ檢査未済ノ藥劑ハ本縣ノ許可ヲ經サレハ販賣スルコトを得ス

第十二條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ

賣藥規則外藥劑調製販賣願

- 一方名 一藥味分量 一製法 一用法 一功能

右ノ藥劑調製販賣仕度候間御檢査ノ上免許鑑札御下渡被成下度依テ製劑相添此段奉願候也

年月日 何郡何町(村)何番地居住(寄留)族籍 氏名

愛知縣令某殿

郡區長以下與書式ハ一般ノ例ニ全シ

(第二號書式)

賣藥規則外藥劑改正願

一方名

一藥味分量

一製法

一用法

一功能

右ノ藥劑明治何年何月何日御檢査濟免許鑑札御下渡營業仕候處今般藥味分量(製法)(用法)(功能)左ノ通改正仕度候間御檢査ノ上御許可被成下度依テ製劑相添此段奉願候也

(署名以下書式第一號ニ全シ)

(第三號書式)

賣藥規則外藥劑請賣願

一方名

一方名

何區何町(村)何番地居住(寄留)族籍

右製劑者 氏 名

肩書前ニ同シ

右製劑者 氏 名

右ノ藥劑何方請賣仕度依テ別紙製劑者所持ノ免許鑑札寫相添此段奉願候也

何區何町(村)何番地居住(寄留)族籍

年月日

氏

名

愛知縣何區長氏名殿

戶長以下ノ與書式ハ一般ノ例ニ全シ

(第四號書式)

賣藥規則外藥劑行商願

一方名

一方名

請賣者ニ於テ行商願出ルトキハ方名毎ニ製劑者住所族籍氏名ヲ記載スヘシ

何區何町(村)何番地居住(寄留)族籍

賣子 氏 名

右ノ藥劑自分(賣子派出)行商仕度候間行商鑑札御下渡被成下度此段奉願候也

(署名以下書式第三號ニ全シ)

(第五號書式)

賣藥規則外藥劑讓渡願

一方名

一藥味分量

一製法

一用法

一功能

右ノ藥劑明治何年何月何日御檢査濟免許鑑札御下渡營業仕候處今般何區何町何村何某へ讓渡申度依テ所持ノ鑑札返納候間御書換被成下度此段奉願候也

何區何町(村)何番地居住(寄留)族籍

讓渡人 氏 名

肩書前ニ全シ

年月日

五百七

讓受人 氏 名

愛知縣令某殿
郡區長以下與書式ハ一般ノ例ニ全シ

賣藥規則外藥劑營業鑑札離形

面 表

番號
賣藥規則外藥劑營業許可之証

愛知縣何郡何町番地
氏 名

一方名
右免許候事
年月日

愛知縣 □

〆出中川齋

全シク請賣鑑札離形用紙適宜
豎五寸

面 表

番號
賣藥規則外藥劑請賣許可之証

請賣人 氏 名
族籍

一方名
一同
製劑者 氏 名
族籍

右請賣許可候事
寸方ハ營業鑑札ニ全シ

面 裏

年月日

愛知縣
何郡區役所

賣藥規則外藥劑行商鑑札離形用材適宜

面 表

番號
賣藥規則外藥劑行商許可之証

製劑者又ハ請賣人 氏 名
族籍
賣子 氏 名

一何々 一何々
右行商許可候事

〆出中川齋

豎三寸二分

面 裏

年月日

愛知縣
何郡區役所

烙印

●甲第六十三號 明治十七年七月十六日

私立病院設置規則別冊之通創定ス

但從前許可ノ分モ本則ニ因リ八月一日限り更ニ願出ヘシ
右布達候事

(別冊)

私立病院設置規則

第一條 私立病院ヲ設置セントスル者ハ別紙書式ニ準據シ左ノ數項ヲ具シ縣廳ヘ願出ヘシ

但院長ノ外三名以上ノ醫員及相當ノ藥局員ノナキモノ且患者十名以上ヲ容ルヘキ病

明治十七年

衛生之部

室ノ備ヘナキモノハ之ヲ病院トシテ設置スルヲ得ス

一 病院位置

一名稱

一 院則

一 病院設置ノ主旨

一 病院建物敷地ノ畧圖坪數及其所有ノ區別

一 院長以下醫員藥局員履歷

一 院長以下醫員藥局員給料

一 病院備付醫療用諸器械

一 病院費收支ノ見込

第二條 前條ニ依リ願書ヲ差出スモノアルキハ郡區長ニ於テ事實ヲ調査シ意見書ヲ添ヘ

進達スヘシ但時宜ニ依リ縣廳ヨリ更ニ蒞檢スルヲアルヘシ

第三條 私立病院ハ左ノ雛形ノ標札ヲ門戸ニ掲出スヘシ

標札雛形

木材
適宜

○私

.....(名稱)

第四條 私立病院ノ開院ハ十日以前ニ縣廳ヘ届出ヘシ

第五條 私立病院ノ位置名稱院則及院長醫員藥局員ニ變更アルキハ其都度届出ヘシ

第六條 私立病院ヲ廢止スルキハ其旨届出ヘシ

第七條 私立病院ノ分支院ヲ設置セントスルキハ總テ此規則ニ準據スヘシ

(書式)

私立病院設置願

一 病院位置

何國何郡何町何番地或ハ何某居宅

一名稱

私立何々病院

一 院則

別冊之通

一 病院設置ノ主旨

、、、、

一 病院建物敷地ノ畧圖坪數及其所有者ノ姓名

建物

何百何十坪

所有、、、、

敷地

全

所有、、、、

〔成規ノ試験ニヨリ免狀ヲ受ケ又ハ種々ノ事由ニヨリ免狀ヲ受ケ及ヒ〕
〔府縣應限リノ鑑札ヲ受ケルモノモ此例ニ準スヘシ〕

一 學業

何年何月ヨリ全何年何月迄東京大學醫學部ニ於テ豫科及ヒ本科修業
(家私塾ニ於テ修業シタルモノモ此例ニ準スヘシ)

一 職務

何年何月何府縣ニ於テ何々病院長ヲ拜名全何年何月前職差免サル
(一)已開業スルモノ此項ニ詳記スヘシ)

一 賞罰

何年何月何府縣ニ於テ勳勸相勳候ニ付手當トシテ金何圓支給セラレ
(罰俸呵責等ニ係ルモノモ本文ニ準シ記スヘシ且賞罰トモニ之ナキモノハ單ニ無之旨
ヲ記スヘシ)

右之通ニ候也

年 月 日

右 何 之 誰 印

●甲第六十四號 明治十七年七月十六日

明治十三年吐當縣甲第二百十號布達埋葬火葬規則第四條第五條及ヒ離形第二號以下左ノ
通改正増補元第五條ハ第六條ニ以下順次繰下改正第八條中第二號ハ第三號ト改正ス
右布達候事

第四條

埋葬死屍成列刺殺盜殺私又ハ火葬ノ遺骨ヲ改葬セントスルモノハ其事情ヲ町村衛
生委員ニ申出承認證ヲ請求スヘシ衛生委員ハ改葬ノ事情ヲ審査シ止ムヲ得サルモノニ
於テハ第二號離形ノ承認證ヲ附與スヘシ

第五條

埋葬火葬若シクハ改葬ノ承認證ハ死者ノ家人ヨリ其葬儀ヲ取扱フ司葬者ニ渡ス
ヘシ司葬者ニ於テハ第一號及ヒ第二號離形ニ準シ該書ノ裡面ニ筆記シ其都度証書而記
名ノ衛生委員ニ送付スヘシ

第二號 豎四寸五分

横五寸五分

何郡町番地
何區村番地
(父母兄弟姉妹或ハ何々)
職業 姓名
明治何年何月何日死亡 年 齡
而 火葬承認證
某町村衛生委員
姓名印

裏 面
何月何日火葬
何郡番地或何社神官
何區番地或何寺住職
教導職
姓名印

何郡葬儀人員表

明治 年 自 月 至 月

月記	男	女	埋葬人員	流產埋葬	火葬人員	流產火葬	合 計	改葬人員

明治十七年 衛生之部

●甲第六十六號 明治十七年七月十六日
今般入齒拔齒營業取締規則別紙ノ通制定ス
但從來營業ノ者ハ來ル八月一日限リ願出ヘシ
右布達候事

(別紙)

入齒拔齒營業取締規則

- 第一條 免許鑑札ヲ所持スルニ非ラサレハ營業ヲナスヲ得ス
- 第二條 入齒拔齒營業セントスル者ハ左ノ書式ニ依リ別紙履歷書相添願出ヘシ
(明治十八年五月甲第四十三號ヲ以テ本條削除)
- 第三條 廢業死亡又ハ他府縣へ轉籍寄留ハ鑑札返納シ改姓名或ハ管内轉籍寄留ハ鑑札書換願出ヘシ但町村名改稱モ本文ニ準シ願出ヘシ
- 第四條 鑑札遺失毀損セシトキハ更ニ鑑札願受クヘシ
- 第五條 入齒拔齒ノ他ニ齒牙ノ治療ヲ施シ又ハ藥劑ヲ與ヘ若クハ藥方ヲ揭示スル等ノ所業ヲ爲スヲ得ス
(明治十七年十一月甲第百十號ヲ以テ五年ニ但書ヲ追加)
- 第六條 此規則ニ違背シタル者ハ鑑札ヲ取揚ケ營業禁止スルヲアルヘシ
鑑札雛形

番號	郡區町村族籍
右入齒營業免許候事	姓 名
年月日	愛知縣

(書式)

入齒營業願

今般入齒營業仕度候間免許鑑札御下付被成下度此段奉願候也

年月日

縣令宛

郡區町村番地族籍

姓 名 印

郡區長以下與書式ハ一般ノ例ニ依ル

●甲第百七號

明治十七年十一月二十二日

産婆講習會規程左ノ通相定メ來ル明治十八年一月一日ヨリ施行ス
右布達候事

産婆講習會規程

第一條 産婆ハ各自ノ本分ヲ全フセシカ爲メニ組合相立少クモ毎月一回講習會ヲ開設ス

ヘシ

第二條 本會ノ講師ハ開業醫師若クハ學術熟達セル產婆ニ依頼スヘシ但時宜因リ郡區長ニ於テ人選スルコアルヘシ

第三條 講習ハ當分左ノ各項ニ據ルヘシ

一 教科書ハ東京府病院編纂朱氏產婆論等ヲ用ヒ產婆業務上必須ノ學科ヲ講述或ハ口授シ極メテ簡易ニノ曉リ易キヲ旨トシ高尙ニ涉ルヘカラス

一 講師ニ於テ簡易ノ教則ヲ編成シ縣令ノ認可ヲ得ヘシ

一 適宜ニ期ヲ定メ平易ノ試問ヲ爲シ學科ノ大意ヲ會得セシ者ハ講師ヨリ習熟證ヲ付與スヘシ

第四條 產婆營業ヲ爲ス者ハ必ス本會ニ加入スヘキモノトス但產婆學卒業証若クハ本會ノ習熟証ヲ所持スル者ハ本條ノ限リニアラス

第五條 產婆營業者ニ非ラスト雖モ志願ノ者ハ本會ニ加入スルコトヲ得

第六條 產婆ノ組合及ヒ之ニ要スル細則ハ郡區長之ヲ定メ縣令ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

第七條 本會開設ノ當日ハ產婆組合ノ町村衛生委員協議ノ上二名以上出席本會一切ノ事務ヲ幹旋スヘシ

第八條 本會組合町村衛生委員及ヒ講師ニ於テ開會度數產婆ノ人名冒頭ニ出會ノ度數ヲ記ス並講習ノ景況等ヲ每半年六月ニ取調郡區役所ヲ經テ縣廳ヘ進達スヘシ

第九條 本會ニ關スル費用ハ郡區長ニ於テ適宜支辨ノ方法ヲ設クヘシ廿年四月縣令第四十七號ヲ以テ追加改正

●甲第百八號 明治十七年十一月二十二日

產婆規則左ノ通相定ム明治二十年四月縣令第四十八號ヲ以テ改正

但明治十年ニ當縣甲第三十號布達ハ廢止ス

●甲第百九號 明治十七年十一月二十二日

出產ハ戶籍上ニ關スル届ノ外ハ自今醫師又ハ產婆ニ於テ左ノ書式ニ倣ヒ届書一通ヲ製シ家人ニ付スヘシ家人ニ於テハ其時々町村衛生委員ヘ差出スヘシ明治十八年十二月甲第百二十四號ヲ以テ布達中改正

但醫師又ハ產婆ノ手ヲ經ス出產候者ハ本文ニ準シ家人ヨリ町村衛生委員ヘ届出ヘシ

右布達候事

●甲第百十號 明治十七年十一月二十二日

明治十六年五月當縣甲第四十六號布達醫師規則左ノ通改正ス

右布達候事

醫師規則

第一條 管内ノ醫師轉籍若クハ寄留セントスル者ハ左ノ各項ニ據リ郡區役所ヘ届出ヘシ

一 同郡區内ノ轉籍寄留ハ其町村番地

一 甲郡區ヨリ乙郡區ヘ轉籍寄留ハ甲乙兩郡區役所ヘ尙乙郡區役所ヘハ免狀寫ヲ添フ

一 管外ヘ轉籍寄留ハ其府縣郡區町村番地

第二條 他管下ノ醫師管内ニ轉籍若クハ寄留開業セントスル者ハ左ノ各項ヲ具シタル履

歷書(寄留ハ免狀寫ヲ添フ)ヲ添ヘ郡區役所ヘ届出ヘシ

但轉籍スル者ハ明治十六年第三十五號公布ニ因リ免狀書換ヲ願出ヘシ

一 本籍府縣國郡區町村番地

一 受驗ノ年月及其地名又ハ卒業ノ年月及學校ノ名稱其地名

一 奉職履歷ニ因リ免狀ヲ得シ者ハ其事由

第三條 郡區役所ニ於テハ醫師轉籍寄留及死亡廢業セシ者每一ヶ月取經ノ翌月十日迄ニ

縣廳ヘ差出スヘシ

第四條 新タニ開業免狀ヲ得ル者及免狀書換ヲ願フ者手数料ハ該免狀授受ノ際郡區役所

ヘ相納ムヘシ郡區役所ニ於テハ其時々縣廳ヘ送納スヘシ

第五條 管内ノ醫師出張治療所ヲ設ケントスル者ハ其宿主(宿主ハ自己ノ營業ヲ行ハスニシテ)連署縣廳ヘ届

出ヘシ但他管下ノ醫師管内ヘ出張所ヲ設ケントスル者ハ本條ニ準シ免狀寫ヲ添ヘ届出

ヘシ

第六條 醫師ニシテ他ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其旨縣廳ヘ届出ヘシ

第七條 醫師門弟(開業免狀ヲ所持セザルモノ)ヲシテ代診セシムルハ妨ケ無シト雖モ自己ノ意見ヲ以テ

處方又ハ調劑セシムルヲ許サス

●甲第百一十一號 明治十七年十一月二十二日

管内ニ於テ鑛泉ヲ採酌販賣セントスル者ハ飲料浴料ヲ問ハス其使用ノ目的温冷ノ別及ヒ

涌出ノ地名等ヲ詳記シ検査願出ヘシ

但他府縣ニ於テ検査済ノ鑛泉ヲ請賣セントスル者ハ其検査証ノ寫ヲ添ヘ届出ヘシ

右布達候事

●甲第百一十二號 明治十七年十一月二十二日

本年當縣甲第六十六號布達入齒拔牙營業取締規則第五條ヘ左ノ通但書ヲ追加ス

右布達候事

但拔牙ノ際外用止血藥ヲ用ユルハ本條ノ限リニ非ラスト雖モ其藥名ヲ豫テ届置クヘシ

●甲第百三十五號 明治十七年十二月二十日

明治十三年當縣甲第四百四十四號布達左ノ通改正ス(明治十八年十二月甲第百三十四號ヲ以テ布達改正)

右布達候事

一 妊娠四ヶ月以上ニシテ死産セシモノハ醫師又ハ產婆ニ於テ第一號書式ノ届書一通ヲ製

シ家人ニ附スヘシ家人ニ於テハ町村衛生委員ノ奥印ヲ受ケ本年當縣甲第三百三十二號布

達墓地及埋葬取締規則ニ依リ戸長ヘ差出スヘシ

但出産後一旦呼吸シテ死セシモノハ出産届ヲ爲シ更ニ醫師ノ死亡届ヲ爲スヘシ

一 醫師產婆ノ手ヲ經ス死産セシモノハ醫師又ハ產婆ニ死産届ヲ乞フヘシ醫師產婆ニ於テ

ハ第二號書式ノ届書一通ヲ製シ家人ニ附スヘシ家人ニ於テハ其時々前項末文ノ手續ヲ

爲スヘシ

一醫師產婆ニ於テ死胎ニ異狀アリト認ムルキハ直ニ所轄警察署或ハ分署等へ告知シ警察官ノ指圖ヲ待テ死産届ヲ附スヘシ

(第一號)

死産届

國郡區町村番地

職業何某妻妾(私生ハ長次女)

某

年

齡

一何月妊娠

一何月何日男死産(ニタ子三ツ子ハ出)

但公生(私生)

右及御届候也

國郡區町村番地

醫師(產婆)

姓

名印

年月日

(第二號)

死産届

國郡區町村番地

職業何某妻妾(私生ハ長次女)

某

年

齡

一何月妊娠

一何月何日男死産(ニタ子三ツ子ハ出)

但公生(私生)

右死産候付死胎檢案候處異狀無之ト認定候ニ付此段及御届候也

國郡區町村番地

醫師(產婆)

姓

名印

年月日

郡區長宛

●甲第百三十六號 明治十七年十二月二十日

明治十五年^四當縣甲第六十八號布達藥舖取締規則第八條試驗科目第一項中藥物學大意ヲ藥品學大意處方學大意ヲ調劑學大意ト改正ス

●甲第百三十七號 明治十七年十二月二十日

明治十三年^三當縣甲第二百一十一號布達死亡届取扱心得左ノ通改正ス(明治十八年十二月甲第百^一右布達候事)

死亡届取扱心得

第一條 死亡者アルキハ主治醫ニ死亡届ヲ乞フヘシ主治醫ニ於テハ第一號書式ノ届書一

明治十七年

衛生之部

通ヲ製シ其家人ニ附スヘシ家人ニ於テハ町村衛生委員ノ與印ヲ受ケ本年當縣甲第三百二十二號布達墓地及埋葬取締細則ニ依リ戸長ヘ差出スヘシ

第二條 醫師ノ治療ヲ受クル猶豫ナクシテ死亡シタルモノハ醫師ノ檢案ヲ乞フヘシ醫師ニ於テハ第二號書式ノ届書一通ヲ製シ家人ニ附スヘシ家人ニ於テハ第一條末文ノ手續ヲ爲スヘシ

第三條 醫師ニ於テ第一條第二條ノ場合ニ際シ變死又ハ變死ノ疑ヒアルモノト認ムルトハ直ニ所轄警察署或ハ分署等ヘ告知シ警察官ノ指圖ヲ待テ死亡届ヲ附スヘシ

第四條 醫師ニ於テ警察署ノ請求ニ應ジ變死又ハ行倒等ノ家人ナキ死體ヲ檢案セシトハ第三號書式ノ檢案書一通ヲ製シ檢視官ニ差出スヘシ檢視官ハ之ニ檢印ノ上其他ノ町村衛生委員ニ附シ町村衛生委員ニ於テハ第一條末文ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 醫師ニ於テ死亡届ヘ記載スヘキ職業及婚姻上ノ關係病名等ハ明治十六年甲第五十八號布達並全年甲告第六十九號ノ告示ニ依ルヘシ

死亡届

縣府 國郡區町村番地

某父母幾男女妻妾兄弟姊妹等

姓 名

病類(傳染性病)(發育及營養病)ノ類
病名(腐瘻扶助)(全身水腫)ノ類

右ハ拙者施治ノ患者ニ候處何月何日(午前)第何時死亡候ニ付此段及御届候也

年月日

郡區長宛

縣府 國郡區町村番地

名 印

(第二號)

死亡届

縣府 國郡區町村番地

某父母幾男女妻妾兄弟姊妹等

職業

姓 名

病類全上(生前ノ病類病名知リ得ヘキモノハ記載シ) 詳カナラサル者ハ原因不詳ト記載スヘシ

當何月何年何ヶ月(出生后一ヶ月以下ノ者ハ) 下ノモノハ全上

右死後檢案候處死体ニ異狀無之ト檢定候ニ付此段及御届候也

年月日

郡區長宛

縣府 國郡區町村番地

名 印

(第三號)

變死 行倒人檢案書

縣國郡區町村番地

某父母幾男女妻妾兄弟姊妹等

職業

姓

名

當何月何年何ヶ月(出生一ヶ月以下ノモノハ全上)

病類(外感性變死)一發育及營養病
病名(溺死)一(縊死)一(類)一(全身水腫)
何月何日(午前)第何時死亡
右ノ通檢案候ニ付此段及御届候也

年月日

郡區長宛

縣國郡區町村番地

醫師

姓

名印

附言行倒人ノ病類病名知リ難キモノハ(原因不詳)ト記シ住地年齡(變死行)等詳カナラサル
モノハ年齡ヲ推算シテ(住地不明ノ男女)ト記ス死亡(變死行)時刻等ノ判然セサルモノハ(何
月何日(午前)第何時頃死亡)或ハ(死亡)時刻(日時)不詳ト記スヘシ

●乙第六十號

明治十七年三月二十一日

郡區役所

豫テ衛生費トシテ内庫ヨリ下賜セラレ候金千圓地方衛生會ノ決議ニ因リ惡疫豫防資本金
トシテ利子ヲ加ヘ蓄積候旨明治十三年當縣甲第百二十六號ヲ以テ及布達置候處今回地方
衛生會ノ議決ニ依リ別紙仕譯書ノ通人口ニ割合頒賦候條惡疫豫防資本金トシテ蓄積候様
可致此旨相達候事

但遺拂ヲ要スルホハ其時々可何出候事

衛生費トシテ内庫恩賜金ヲ以テ各郡區分賦額仕譯書

一金千三百六拾五圓八拾四錢九厘

内金三百六拾五圓八拾四錢九厘

此譯

十三年九月ヨリ十六年
十二月マテ貸付利子

金百貳拾九圓三拾九錢七厘

但人口十三万七百二十八

名古屋區

金百九圓五拾錢八厘

但人口十一万六百二十七人

愛知郡

金七拾壹圓三拾貳錢七厘

但人口七万二千五十六人

東春日井郡

金五拾五圓拾八錢五厘

但人口五万五千七百四十九人

西春日井郡

金百五圓八拾七錢六厘

但人口十一万六千九百五十八人

葉丹 栗羽 郡

金九拾九圓五拾五錢八厘

但人口十萬五千七十六人

中島郡

金百拾四圓三拾四錢九厘	但人口十萬五千五百十八人	海東郡
金百四拾圓六拾貳錢六厘	但人口十四萬二千六十四人	知多郡
金百拾三圓四錢貳厘	但人口十一萬四千九十八人	碧海郡
金八拾圓三拾貳錢六厘	但人口八萬千四百七十七人	幡豆郡
金六拾圓九拾貳錢七厘	但人口六萬五千五百五十八人	額田郡
金三拾八圓六拾貳錢八厘	但人口三萬九千二百三十三人	西加茂郡
金貳拾五圓八拾八錢貳厘	但人口二萬六千四百四十七人	東加茂郡
金貳拾壹圓八拾三錢四厘	但人口二萬二千五十七人	北設樂郡
金貳拾貳圓拾錢七厘		南設樂郡

金六拾四圓四拾壹錢壹厘	但人口二萬二千三百三十三人	寶飯郡
金八拾六圓三拾三錢四厘	但人口六萬五千六十九人	渥美郡
金貳拾六圓五拾三錢貳厘	但人口八萬七千二百十七人	八名郡
金貳拾六圓五拾三錢貳厘	但人口二萬六千八百三人	

●乙第百二十六號 明治十七年七月五日

郡區役所 町村衛生委員

年齡七十以上ノ者并不具癘疾ノ者別表離形ニ準シ毎年十二月末日ノ現員ヲ取調衛生委員ハ翌年一月二十日迄ニ郡區役所へ差出シ郡區役所ニ於テハ其月三十一日迄ニ縣廳へ差出スヘシ此旨相達候事(明治十八年十二月乙第百九十九號ヲ以テ删除文字挿入)

●甲第十二號 明治十八年二月十六日

傳染病豫防消毒法之儀ハ追々御達相成居候處明治十四年朕當縣乙第六十六號ヲ以テ相達置候豫防心得書ノ外ハ總テ消滅ニ屬シ候義ト相心得ヘシ

但本文豫防心得書ハ郡區役所又ハ町村衛生委員ノ許ニテ一覽スヘシ

右布達候事

●甲第三十四號

明治十八年四月二十八日

明治十四年^甲當縣乙第六十六號ヲ以テ相達置候傳染病豫防心得書ヲ自今甲號布達ニ變更シ其附録トシテ種痘心得書左ノ通追加ス
但本文豫防心得書ハ郡區役所又ハ町村衛生委員ノ許ニ就テ一覽スヘシ
右布達候事

種痘施術心得書

種痘術ヲ施ス者ハ種痘ノ適否接種ノ方法種苗採取及貯蓄ノ法善感不善感ノ鑑別種痘ノ注意等ヲ詳知セサル可カラズ其要左ノ如シ

第一種痘ノ適否

- 第一條 種痘ハ左ニ掲クル者ニハ施サ、ルヲ可トス
 - 一 生後七十日ヲ經サル者
 - 二 種痘ノ爲ニ一時増進スヘキ病患アル者
 - 三 丹毒流行ノ土地ニ居住スル者
 - 四 蔓延性ノ皮膚病アル者
 - 五 熱性病ニ罹リ居ル者

第二條 種痘ニ適スル時期ハ春(三月四月五月)秋(九月十月十一月)二季ヲ以テ最良トス然レモ四季共ニ之ヲ施シテ妨ナシ

第二種痘ノ方法

第三條 種痘ヲ施スハ上膊^{三稜筋處}ニ於テ各々三針乃至五針^{受痘者ノ年齢ニ隨フ}トシ各針ノ距離曲尺五分以上ニシテ痘疱ノ暈輪互ニ密接セサル様注意スヘシ

第四條 施術ニ先チ針尖ヲ拭淨シ一時ニ數人ニ接種スルトキハ一人毎ニ之ヲ拭淨スヘシ

第五條 良性ナル痘漿ヲ採リテ移種スルヲ確實ノ良法トスレモ此法ヲ行フ能ハサルトキハ貯蓄ノ痘苗ニシテ成ルヘク新鮮ナル者ヲ撰ヒ用フヘシ但痂皮ハ用ヒサルヲ可トス

第三種痘採取及貯蓄ノ法

第六條 痘苗ハ左ニ掲クル者ヨリ採取スヘカラス

- 一 痘疱ノ成形過度及過大ノ者 發量非常ニ大ナル者 痘緣又ハ暈部ニ水泡ヲ生スル者
- 痘疱非常ニ隆起シテ澄明ノ漿液ヲ漏出スル者 一種ノ疑フヘキ色例ヘハ紅藍色ヲ呈セルカ如キ者

但此等ノ異常痘疱ノ近傍ニ在ル正痘モ亦同シ

二 痘漿ノ血液ヲ混セル者 疱ノ中央ニ在ル痘漿ノ腐敗ニ向ントスル者 痘疱ノ已ニ化膿ニ傾キシ者 爬搔又ハ摩擦ノ爲ニ痘疱破潰セシ者

三 梅毒腺病及ヒ皮膚病ニ罹リ居ル者 營養不良ノ者

四 丹毒ヲ併發セル者 經過不整ニシテ不善感ノ疑アル者^{第十四條ヲ參照スヘシ}

五 天然痘ヲ經タル者 再三種ノ者

第七條 痘漿ヲ採ルハ通常接種後第八日二十四時間ヲ以テ一
各人ノ性質ニ隨ヒ第七日又ハ第九日ヲ以テ適度トスルヲアリ痘疱ハ善感良性ノ者ニシ
テ其含包セル所ノ漿液ハ渾濁セス粘稠露滴ノ如クナルヘシ
第八條 痘漿ヲ採ルニハ痘疱ノ中心ヲ避テ泡面ヨリ斜ニ淺刺シ深ク刺シテ出血セシムヘ
カラス

第九條 發痘一顯ナル者ノ痘疱ハ其漿液ヲ採ルヘカラス又數顯アルモ其一顯ハ傷クヘカ
ラス

第十條 痘苗ヲ貯蓄シテ接種ノ用ニ供セントスルニハ硝子板間ニ貯ヘテ密封シ又ハ硝子
製毛細管ニ吸入セシメテ其兩端ヲ固封シ日光及寒熱ノ劇度ニ避ケ貯フヘシ(痘苗ノ貯
蓄法甚宜シキヲ得ルハ五ヶ月間充分ノ効力アリ)

第四善感不善感ノ鑑別

- 第十一條 種痘ノ善感不善感ヲ鑑別スルニハ左ノ各項ヲ以テ要點トナス
 - 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メシヤ否
 - 二 痘疱常形ニシテ其大サ及ヒ硬サハ皮下皮上共ニ同一ナルヤ否
 - 三 紅暈ハ常形ナルヤ否
 - 四 經過整然トシテ其時期ヲ誤ラサルヤ否
 - 五 第八日ニ至リテ微熱ヲ發スルヤ或ハ然ラサルモ其他ノ微候ヲ呈スルヤ否

六 痂皮黯褐色又ハ黒色ニシテ其厚サ及硬サハ常度ナルヤ否

第十二條 種痘善感ノ徵候ハ左ノ經過ニ就キテ知ルヘシ

接種後第一日第二日ノ間ハ他ノ刺傷ニ異ナルヲ無シ施術後針痕ノ周圍ニ淡紅色ノ小瘰
ヲ發スレトモ暫時ニシテ消失ス(或ハ此瘰ヲ見サルヲアリ)第三日ニハ針痕ノ部ニ小ナル
紅點ヲ生シ試ニ指頭ヲ以テ之ニ觸ルレハ稍々隆起セルヲ覺ニ(經過緩慢ナル者ハ第四
日第五日ニ至リ始テ此紅點ヲ生スルコト有リ)

第四日ニハ紅色ニシテ硬ク且ツ隆起セル圓形若クハ楕圓形ノ小結節ヲ生ス

第五日ニハ結節細小ノ水泡ト爲リ其周圍ニ狄キ紅暈ヲ見ル

第六日ニハ水泡稍々増大シ其邊緣隆起シテ泡ノ中央ニハ陷凹ヲ呈シ泡中ニハ稀薄透明
ニシテ稍々帶藍色ナル液ヲ充實シ周圍ノ紅暈稍々増大ス第七日ニハ諸症益々増進ス

第八日ニハ痘疱全ク成形ス其大サハ豆大ニシテ周圍ハ痲腫シ微シク疼痛アリ泡中ノ液ハ
倍々充實シ紅暈亦著シク増大ス此期ニ當リ(或ハ此期以前)微熱ヲ發シ或ハ全ク熱候ナ
ク顔面ハ蒼白色ヲ呈スルヲアリ又腋下ニ疼痛ヲ覺エ水脈腺腫起スルヲ有リ

第九日ニハ紅暈更ニ増大シ其色澤モ亦加ル

第十日ニハ泡液化痰シテ白濁或ハ黄色ノ濃稠液ト爲リ泡ノ中央稍々凸隆ス然レモ其形
必ス扁圓ナリ

第十二日ニ至ルマテハ痘疱其形狀ヲ變スルヲ無ク此日ヨリ收斂ヲ始メ泡ノ中央ヨリ邊

縁ニ向ヒテ次第ニ乾固シ漸ク褐色ニ變シ周圍ノ紅暈モ亦漸ク消退ス
爾後黯褐色又ハ黑色ニ堅實ナル厚痂ヲ結ヒ初ハ皮膚ニ緊著シテ容易ニ剝離セス結痂
後八日乃至十日ニ至リ始テ剝脫ス其剝脫ノ後ニ遺セル癩痕ハ圓形又ハ楕圓形ニ淺キ
凹窩ヲ爲シ其窩内ニハ更ニ數多ノ小凹點ヲ呈ス
但一回種痘セシ者ニ再三種シテ感染スルコアルモ其砲顆小ニシテ七八日間ニ全ク經過
スルヲ常トス

第十三條 種痘不善感ノ諸徴ハ左ノ如シ

- 一 接種後第二日以内ニ成形ヲ始メ常形ニ達セスシテ直ニ廣ク蔓延セル炎症ヲ發シ皮下
ニ硬キヲ覺ヘスシテ紅暈ハ不整形ナリ痘疱ハ速ニ化膿シ其隆起ノ狀或ハ半球形或ハ
圓錐形ト爲リ乾固スレハ黃色ニシテ鬆疎ナル痂皮ヲ結フ(時トシテ第二日後ニ成形
ヲ始ムル者アレモ其經過總テ不整形ナルヲ以テ自ラ善感ノ者ト區別スルヲ得ヘシ又不
善感ノ者ト雖モ腋下ニ疼痛ヲ覺エ微熱ヲ發スルコト無キニ非ス)
- 二 接種後第一日ニ大ナル赤色ノ疱ヲ生シ速ニ漿液ヲ充實シ上皮破レテ膿面ヲ呈シ或ハ
濕潤セル淡色ノ痂皮ト爲ルヲ見ル
- 三 紅暈速ニ増大シテ腫起シ或ハ遂ニ潰瘍ニ陥ル
- 四 第八日ニ至リ數泡相合シテ一大潰瘍ト爲リ或ハ一面ノ痂皮ヲ結ヒ其潰瘍又ハ痂皮ノ
周圍ニハ廣ク赤色ヲ呈ス

五 痂皮剝脫ノ後ニ遺セル癩痕ハ深クシテ不整形ヲ呈シ其底面平滑ナリ

第五 種痘ノ注意

- 第十四條 初種ノ不善感ハ痘苗ノ不良ナルカ或ハ其人一時ノ不感性ヲ有セルニ因ル者ナ
ルカ故更ニ三四週ノ後善良ナル痘苗ヲ撰ヒテ再ヒ接種スヘシ
- 第十五條 種痘ヲ施スニ當リテハ併發症ヲ防キ殊ニ天然痘流行ノ際ニハ接種後第八日ニ
至ルマテハ嚴ニ其感染ヲ防禦スヘシ然レモ受痘者己ニ暗ニ天然痘ニ感染シ其潜伏期ニ
於テ接種スルコト間々之アリ
- 第十六條 天然痘流行シ種痘ヲ猶豫ス可カラサル際ニハ第一條各項ニ掲クル者ト雖熱性
症ヲ除クノ外ハ總テ接種スヘシ
- 第十七條 種痘中ハ寒冷ヲ避ケシメ成ルヘク清潔ノ空氣中ニ居ラシムヘシ平常慣習セル
食物等ハ總テ禁忌スルニ及ハス又別ニ醫藥ヲ要セス
- 甲第三十九號 明治十八年五月十六日
麻疹患者ノ儀ハ發病治癒死亡トモ可届出旨明治十四年當縣甲第四十五號及甲第三百二十四
號ヲ以テ布達置候處右ハ總テ醫師ヨリ可届出義ト心得ヘシ
- 右布達候事
- 甲第四十一號 明治十八年五月二十五日
鍼灸術營業取締規則左ノ通相定ム

但明治十一年此當縣甲第百二十六號布達ハ廢止ス
右布達候事

鍼灸術營業取締規則

- 第一條 鍼灸術ハ本縣ノ免許鑑札所持ノ者ニ非ラサレハ營業スルヲ許サス但免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス
- 第二條 新規營業セントスル者ハ書式ニ據リ脩業履歷書ヲ添願出免許鑑札ヲ受クヘシ但履歷書ニハ其師又ハ同業者二名以上ノ保證ヲ要ス
- 第三條 病者ニ藥劑ヲ與ヘ若クハ之ヲ指示シ或ハ水蛭ヲ貼シ又ハ放血スル等醫師ニ紛ハシキ所業ヲ爲スヲ許サス
- 第四條 醫師治療中ノ患者ハ其醫ノ指圖ヲ受クルニ非ラサレハ施術スルヲ許サス
- 第五條 廢業死亡又ハ他府縣ニ轉籍寄留ハ其旨届出鑑札返納シ改氏名ハ鑑札書換管内轉籍寄留ハ鑑札訂正ヲ願出ヘシ但町村名改稱モ本條ニ準シ鑑札訂正ヲ願出ヘシ
- 第六條 鑑札ヲ遺失毀損セシトハ更ニ鑑札ヲ願受クヘシ
- 第七條 此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外營業停止又ハ禁止スルコアルヘシ

(書式)

(鍼灸術)營業願
(鍼術)營業願

何郡何町何番屋敷居住寄留
士族(平民)
氏 名

今般御規則ヲ遵守シ(鍼灸術)營業仕度候間御許可被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

右 氏 名 印

縣令宛

(與書ハ一般ノ例ニ依ル)
履歷書

肩書全上
氏 名

年 齡

一何年號月日ヨリ何府縣何ノ誰ニ從ヒ何年何月間何學脩業

一何年號何月何府縣ノ免狀ヲ得何年何月間(鍼灸術)開業

一何々

右ノ通相違無之候也

年月日

右 氏 名 印